



Cisco Prime Collaboration Assurance ダッシュボード

このセクションでは、次の点について説明します。

- [Cisco Prime Collaboration Assurance ダッシュボード \(1 ページ\)](#)

Cisco Prime Collaboration Assurance ダッシュボード

Cisco Prime Collaboration Assurance ダッシュボードは、デバイス、アプリケーション、エンドポイントに関する情報を統合して提供します。これらのダッシュボードを使用して、次のことができます。

- 1つのインターフェイスを使用して、ユーザのすべてのエンドポイントを監視します。
- すべてのエンドポイント用のサービス エクスペリエンスを決定します。


Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

すべてのエンドポイントのコール品質を決定します。

ダッシュボードにデータを追加するには、次のタスクを実行する必要があります。

- デバイスを検出します
- 会議をインポートする（会議関連のダッシュボードの場合）
- デバイスをポーリングする

Cisco Prime Collaboration Assurance ページの [ナビゲーションの切り替え (Toggle Navigation)]

アイコン  をクリックすると、ダッシュレットとレポートのリストが表示されます。左上のピンアイコンをクリックすると、左ペインの表示と非表示を切り替えられます。同じメニューで、インデックスを表示したり、お気に入りを設定したり、検索オプションを使用したりすることもできます。



- (注) ブラック リボン フレーム 上にある Cisco Prime Collaboration Assurance の完全なタイトルを表示するには、コンピュータの画面解像度を変更する必要があります。[インデックス (Index)] の左上のペインにある [トグル (Toggle)] ピン ボタン をクリックして、タイトルを表示します。

次の表には、Cisco Prime Collaboration Assurance ダッシュボードの説明が示されています。

ダッシュボード	説明	Prime Collaboration Assurance の導入
OpsView ([監視 (Monitor)] > [システム ビュー (System View)] > [OpsView])	Cisco Unified CM および VCS クラスターの概要を提供します。	Prime Collaboration Assurance Advanced
サービス エクスペリエンス ([監視 (Monitor)] > [システム ビュー (System View)] > [サービス エクスペリエンス (Service Experience)])	セッションおよびアラームに関する情報。	Prime Collaboration Assurance Advanced
アラーム ([監視 (Monitor)] > [システム ビュー (System View)] > [アラーム (Alarm)])	管理デバイスに関する情報です。	Prime Collaboration Assurance Advanced
パフォーマンス ([監視 (Monitor)] > [システム ビュー (System View)] > [パフォーマンス (Performance)])	各管理対象デバイスの重要なパフォーマンス メトリックについて詳細情報を提供します。	Prime Collaboration Assurance Advanced
Contact Center トポロジ ([監視 (Monitor)] > [システム ビュー (System View)] > [Contact Center トポロジ (Contact Center Topology)])	CUIC、Finesse、MediaSense、CVP、UCCE などの Contact Center コンポーネントに関する情報です。	Prime Collaboration Contact Center Assurance
使用率モニタ ([監視 (Monitor)] > [使用率モニタ (Utilization Monitor)])	エンドポイントとその使用率、会議デバイス、ライセンスの使用状況に関する情報です。	Prime Collaboration Assurance Advanced

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

ダッシュボード	説明	Cisco Prime Collaboration Deployment
OpsView ([ネットワーク正常性の概要 (Network Health Overview)]> [OpsView])	Cisco Unified CM および VCS クラスタの概要を提供します。	Cisco Prime Collaboration Assurance Advanced
コール品質 ([ネットワーク正常性の概要 (Network Health Overview)]> [コール品質 (Call Quality)])	サービス品質に関する情報です。	Cisco Prime Collaboration Assurance Advanced
アラーム ([ネットワーク正常性の概要 (Network Health Overview)]> [アラーム (Alarm)])	アラームの概要に関する情報です。	Cisco Prime Collaboration Assurance Advanced
パフォーマンス ([ネットワーク正常性の概要 (Network Health Overview)]> [パフォーマンス (Performance)])	各管理対象デバイスの重要なパフォーマンスメトリックについて詳細情報を提供します。	Cisco Prime Collaboration Assurance Advanced
Contact Center トポロジ ([ネットワーク正常性の概要 (Network Health Overview)]> [Contact Center トポロジ (Contact Center Topology)])	Unified Contact Center トポロジビューに関する情報です。	Cisco Prime Collaboration Contact Center Assurance

Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードで導入した場合は、Cisco Prime Collaboration Assurance ホームページから次のダッシュボードを表示できます。

ダッシュボード	説明
顧客の概要 ([監視 (Monitor)]> [システムビュー (System View)]> [顧客の概要 (Customer Summary)])	カスタマーごとのアラーム、エンドポイント、インベントリに関する情報。

TelePresence Exchange ([監視 (Monitor)]>[システム ビュー (System View)]> [TelePresence Exchange])	<p>クラスター ノード、コールおよびセッション制御デバイス、リージョンの概要、および会議デバイスに関する情報。</p> <p>(注) CTX デバイスが管理されていない場合、ダッシュレットにデータは追加されません。</p>
--	--

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードで導入した場合は、Cisco Prime Collaboration Assurance ホームページから次のダッシュボードを表示できます。

ダッシュボード	説明
顧客の概要 ([ネットワーク正常性の概要 (Network Health Overview)]> [顧客の概要 (Customer Summary)])	カスタマーごとのアラーム、エンドポイント、インベントリに関する情報。
TelePresence Exchange ([ネットワーク正常性の概要 (Network Health Overview)]> [TelePresence Exchange])	クラスター ノード、会議の制御デバイス、地域の概要、会議デバイスに関する情報です。

カスタマー サマリ ダッシュボードを使用すると、エンドポイントやインフラストラクチャ デバイスの詳細情報、および特定の顧客のネットワークの論理的なトップレベルビューを確認できます。これにより、前述の表に記載されている、個々の顧客用のその他のダッシュボードが開きます。



- (注)
- Cisco Prime Collaboration Assurance の Enterprise ダッシュボード (保持しているライセンスに応じたサービス エクスペリエンス、アラーム、Contact Center トポロジ、使用状況モニタ) は、デフォルトでは、グローバル顧客選択フィールドを介してコンテンツをフィルタリングすることはありません。
 - **Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合**
Cisco Prime Collaboration Assurance の Enterprise ダッシュボード (保持しているライセンスに応じたコール品質、アラーム、Contact Center トポロジ) は、デフォルトでは、グローバル顧客選択フィールドを介してコンテンツをフィルタリングすることはありません。
 - グローバル選択で別の顧客を選択するとユーザインターフェイスが更新され、ホームページには [カスタマー サマリ (Customer Summary)] ダッシュボードが表示されます。
 - 顧客を変更するには、[カスタマーサマリ (Customer Summary)] ダッシュボードで顧客名をクリックする必要があります。

データは、チャートまたは表形式で表示できます。デフォルトでは、レポートはインタラクティブなグラフとして表示されます。つまり、データをクリックすると、関連付けられている

ページが起動します。表形式でレポートを表示すると、CSV形式でデータをエクスポートできます。

このダッシュボードでは、次のデータを表示できます。

- 1日 - 00:00:00 時間から現在の時刻までのデータが収集されます。
- 1週間 - 00:00:00 時間から開始した、当日を含む過去7日間のデータが収集されます。
- 4週間 - 00:00:00 時間から開始した、当日を含む過去28日間のデータが収集されます。



(注) すべてのページで表示される時間は、Cisco Prime Collaboration Assurance サーバの時間です。

Ops View

ホームページの Ops ビューまたはクラスタ ビュー ([**モニタ (Monitor)**] > [**システムビュー (System View)**] > [**Opsビュー (OpsView)**]) では、システムで使用可能な Cisco Unified CM および VCS クラスタに関する概要レベルの情報を確認できます。導入モードに基づいて、システム内のすべてのクラスタ、または特定の顧客のクラスタについての詳細を表示できます。Ops ビューには、ハードエンドポイントおよびソフト エンドポイントの未登録数が個別のエンティティとして表示されます。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

Ops ビューまたはクラスタ ビューはホームページに表示されます ([**ネットワークの正常性の概要 (Network Health Overview)**] > [**Opsビュー (OpsView)**])。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合

また、[Opsビュー (OpsView)] タブには、Unified Communications Manager クラスタに接続されている SIP トランクの詳細も表示されます。

前提条件：

- クラスタデータを Ops ビューに表示するには、クラスタを Cisco Prime Collaboration Assurance で検出する必要があります。
- ユーザは、システム内に1つ以上の Cisco Unified CM または VCS クラスタが存在するドメインまたは顧客に関連付けられている必要があります。ただし、globaladmin ユーザはすべてのドメインにアクセスできるため、これには該当しません。
- CUCM の syslog レシーバとして、Cisco Prime Assurance サーバを追加します。これにより、Ops ビューが動的に更新され、クラスタ内のトランク ステータスの変更が反映されます。



- (注) Ops ビューに何も表示されていない場合は、『[Cisco Prime Collaboration Assurance and Analytics インストールおよびアップグレードガイド](#)』の「*Prime Collaboration Assurance* を使用する前に」のセクションにある注意事項を参照してください。

クラスタの詳細を参照するには、[ツリーマップ (Treemap)] ビューまたは[リスト (List)] ビューを使用します。

ツリーマップ ビューを使用する場合	リスト ビューを使用する場合
<p>障害の概要と、[深刻 (Critical)]、[重大 (Major)]、[やや重大 (Minor)]、[警告 (Warning)] のアラームを分割して表示します。[合計アラーム数 (Total alarms count)] リンクをクリックすると、[アラームとイベント (Alarms & Events)] ページで、[アラーム (Alarm)] ブラウザを起動できます。</p> <p>(注) Ops ビューに表示される合計アラーム数には、クラスタノード上で生成されたアラームだけでなく、個々のデバイスで生成されたアラーム (Cisco Unified CM または VCS クラスタに関連付けられている場合) も含まれています。</p>	<p>障害の概要と、[深刻 (Critical)]、[重大 (Major)]、[やや重大 (Minor)]、[警告 (Warning)] のアラームを分割して表示します。[合計アラーム数 (Total alarms count)] をクリックすると、[アラームとイベント (Alarms & Events)] ページで、[アラーム (Alarm)] ブラウザをブラウザ起動できます。</p>
<p>クラスタ内のすべての異なるタイプのデバイス (電話機、メディアリソース (ハードウェアおよびソフトウェア)、MGCP ゲートウェイ (各ポートを含む)、CTI ルートポイント、CTI ポート、ボイス メール ポートなど) の登録情報 (登録済み、未登録のハードエンドポイントまたはソフトウェアクライアント、バックアップに登録されている、不明のエンドポイント数) が表示されます。</p> <p>エンドポイントの登録ステータス数をクリックすると、[エンドポイントの診断 (Endpoint Diagnostics)] ページが起動されます。他のデバイス タイプの登録ステータス数をクリックすると、そのデバイス タイプでフィルタリングされたすべてのデバイスが含まれる [接続デバイス (Connected Devices)] タブが起動されます。</p>	<p>各デバイス タイプの登録済み、未登録のハードエンドポイントまたはソフトウェアクライアント、バックアップに登録されている、不明の電話数が表示されます。エンドポイントの電話数をクリックすると、[エンドポイントの診断 (Endpoints Diagnostics)] ページが起動されます。他のすべてのデバイス タイプ (メディアリソース、ボイス メール ポート、MGCP ゲートウェイ) の電話数をクリックすると、そのデバイス タイプでフィルタリングされたすべてのデバイスが含まれる [接続デバイス (Connected Devices)] タブが起動されます。</p> <p>CTI ポートと CTI ルートポイントのデバイス タイプはデフォルトで表示されます。</p>

ツリーマップ ビューを使用する場合	リスト ビューを使用する場合
クラスタ名をクリックして、そのクラスタの [概要 (Summary)] ビューを起動します。	クラスタ名をクリックして、そのクラスタの [概要 (Summary)] ビューを起動します。



(注)

- [ツリーマップ (Treemap)]ビューに表示されるデータは、システムで使用可能なコンポーネントによって異なります。ただし、アラームに関する情報は、すべてのクラスタについて表示されます。
- ツリーマップ ビューまたはリスト ビューで VCS クラスタをクリックすると、[トポロジ (Topology)] ページのみが起動されます。サマリー、デバイス プール別のエンドポイント、接続されたデバイス、ルートパターンの概要、およびデバイス検索タブは、Cisco のユニファイド CM クラスタにのみ適用されます。
- 10 以上のクラスタが導入されている場合は、ツリーマップ ビューに各クラスタのタイトルリンクが表示されます。

ツリーマップ ビューでは、アラームの詳細についてはアラーム コンポーネント、登録ステータス情報についてはデバイス タイプ コンポーネントをクリックすることによって、上記の詳細を簡易ビューで表示することもできます。

ツリーマップ ビューは 2 分ごとに自動で更新されます。自動更新機能を無効にするには、ツリーマップ ビューの右上隅にある [自動更新 (Auto Refresh)] チェックボックスをオフにします。

ツリーマップ ビューのカラー コード :

ツリーマップ ビューでは、クラスタ内のデバイス タイプとアラームが次の重大度のカテゴリに基づいて分類されます。

重大度	表示される色	意味
深刻	赤	<ul style="list-style-type: none"> • クラスタ内に 1 つ以上の深刻なアラームがあります。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> • 未登録のハードエンドポイントが 10% 以上あります。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合 少なくとも 1 つの Unified Communications Manager SIP トランクが「No Service」状態です。 <p>(注) 赤色が表示されている時は、Ops ビューにハードおよびソフトの未登録のエンドポイントカウントが個別に表示されます。</p>

重大度	表示される色	意味
重大	オレンジ	<ul style="list-style-type: none">クラスタ内に1つ以上重大なアラームがあります。 または <ul style="list-style-type: none">未登録のハードエンドポイントが10%未満です。 または <ul style="list-style-type: none">Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合 少なくとも1つの Unified Communications Manager SIP トランクが「Partial Service」状態であり、「No Service」状態の Unified Communications Manager SIP トランクはありません。 <p>(注) オレンジ色が表示されている時は、Ops ビューにハードおよびソフトの未登録のエンドポイントカウントが個別に表示されます。</p>

重大度	表示される色	意味
やや重大/警告	黄	<ul style="list-style-type: none">• クラスタ内に1つ以上のやや重大または警告のアラームがあります。 または• BackUp状態の登録済みデバイスがあります。 または• Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合 少なくとも1つの Unified Communications Manager SIP トランクが「UNKNOWN-Options Ping Enabled」状態で、「No Service」状態、「Partial Service」状態の Unified Communications Manager SIP トランクがありません。

重大度	表示される色	意味
通常	グリーン	<ul style="list-style-type: none"> 深刻、重大、やや重大のいずれのアラームもありません。 または すべてのデバイスが登録済みまたは不明な状態です。 または Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合 完全なサービス状態のすべての Unified Communications Manager SIP トランクが「Full Service」状態です。 または クラスタに対して、Unified Communications Manager SIP トランクが1つも定義されていません。



(注) **Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合**

Unified Communications Manager クラスタに関連付けられている SIP トランクの場合、リストビューには、以下の状態を表すカラム名が表示されます。

- No Service
- Partial Service
- UNKNOWN-Options Ping Enabled
- Full Service

トラブルシューティング

1. **問題** : Ops ビューにクラスタが表示されない

推奨処置 : 次の条件が満たされていることを確認します。

- クラスタが検出されており、Cisco Unified CM がインベントリ管理で管理状態になっている
- クラスタの CDT 検出が完了しており、インベントリ管理に表示されている
- エンドポイントの診断にすべてのエンドポイントが表示されている

2. **問題**：登録ステータスに正しいカウントが表示されない

推奨処置：次の条件が満たされていることを確認します。

- CDT 検出によってカウント情報が更新されている
- CDT 検出が正常に完了していない場合は、CDT の検出をもう一度トリガーする必要がある
- Cisco Unified CM が有効になっており、syslog が Cisco Prime Collaboration Assurance に送信されている

3. **問題**：UCM SIP トランクのリーフの色が想定どおりに変更されない。

推奨処置：次の条件が満たされていることを確認します。

- トランク ステータスの変更は Cisco Prime Collaboration Assurance への syslog 更新として提供されるため、CUCM で Prime Collaboration Assurance が syslog の受信者として追加されているかどうかを確認します。
- もう 1 つの回避策は、CUCM を再検出することです。

4. **問題**：globaladmin ユーザが [OpsViewダッシュレット (OpsView Dashlets)] ページを表示できないことがある。

推奨処置：次のスクリプトを実行します。

新しいスクリプト `opsview_globaladmin.sh` が作成されます。

推奨されるパス：スクリプトをパス `/opt/emms/emsam/bin` に保存します。

概要

[概要 (Summary)] タブには、クラスタ内にある各 Unified CM ノードのシステム使用率に関するステータスが表示されます。

次のようなダッシュレットがあります。

- [概要](#)
- [コールプロセッサの正常性に関する概要](#)
- [アラームの概要](#)
- [登録の概要](#)
- [ライセンスの概要](#)

概要

高レベルなクラスタ情報や、設定済みの H323、MGCP ゲートウェイ、SIP トランク、デバイスプールの数など、クラスタ間の詳細を提供します。

また、クラスタバージョン、データベースレプリケーションステータス、クラスタ内の Unified CM ノードの数を確認することもできます。クラスタ内にある Unified CM ノードの直近 24 時間のコールアクティビティグラフを表示するには、**[クラスタコールアクティビティ (Cluster Call Activity)]** をクリックします。

コールプロセッサの正常性に関する概要

現在の時間とピーク時の CPU 使用率、仮想メモリ使用量、ディスク使用量、コールの試行回数または完了数に関する情報を提供します。選択した Unified CM ノードで直近 24 時間のコールアクティビティグラフを表示するには、**[コールvアクティビティ (Call Activity)]** をクリックします。選択したクラスタタイプで、システムの概要ダッシュボードが付いた **[パフォーマンス (Performance)]** タブを起動するには、CPU 使用率、VM 使用率、またはディスク使用率の値をクリックします。

また、Cisco Unified CM クラスタの長期的なコールアクティビティの傾向を表示することもできます。これを表示するには、1 つ以上のクラスタノード選択し、**[トレンド (Trend)]** のドロップダウンリストから **[コールアクティビティ (Call Activity)]** を選択します。



(注) IM & Presence に適用されないフィールドは、[N/A] として表示されます。

アラームの概要

Cisco Prime Collaboration Assurance が管理するすべてのクラスタの不具合で、高レベルな概要を提供します。[合計 (Total)] 列のアラームデータをクリックすると、[アラームとイベント (Alarms & Events)] ページの Alarm ブラウザへとクロス起動できます。

登録の概要

電話機、メディアリソース (ハードウェアとソフトウェア)、MGCP ゲートウェイ (各ポートを含む)、CTI ルートポイント、CTI ポート、クラスタ内の音声メールポートの登録ステータスに関する情報を提供します。

エンドポイントについて、次の情報が表示されます。

- 登録されているエンドポイントの数
- バックアップに登録されているエンドポイントの数
- 未登録エンドポイントの数
- 不明または拒否されたエンドポイント数

上記の登録ステータスでそれぞれのエンドポイントデータをクリックすると、そのデバイスタイプに **[接続されているデバイス (Connected Devices)]** タブが起動します。

ライセンスの概要

Cisco Unified CM クラスタのライセンス情報を提供します。バージョン 9.0 以降の場合は、[\[ここをクリックして CUWL ライセンスの詳細を表示 \(Click here for CUWL License Details\)\]](#) リンクをクリックすると、Cisco Prime License Manager のログインページが起動します。

バージョン 9.0 以前の場合は、ライセンスタイプ、認可済みユニット、使用ユニット、残りのユニットなどのライセンス情報を取得して表示します。

デバイス プール別のエンドポイント

[デバイス プール別のエンドポイント (Endpoint by Device Pool)] タブには、デバイス プールレベルでクラスタの電話の概要が表示されます。

次の情報を表示します。

- このデバイス プールに設定されたエンドポイントの数
- 登録されているエンドポイントの数
- バックアップに登録されているエンドポイントの数
- 未登録エンドポイントの数
- 不明または拒否された状態のエンドポイント数
- サービス品質のエンドポイントとイベント。

前述のいずれかの登録ステータスのエンドポイント データをクリックすると、[エンドポイントの診断 (Endpoint Diagnostics)] ページへの相互起動ができます。

[SQに関する問題 (SQ Issues)] 列でエンドポイント データをクリックすると、[影響を受ける電話のレポート (Impacted Phones Report)] ページが開きます。このページには、音声品質の問題によって影響を受けるデバイス プール内のすべての電話が一覧表示されます。

[SQに関する問題 (SQ Issues)] 列のイベント数リンクは、[SQ アラート レポート (SQ Alert Report)] ページを開きます。このページには、クラスタ内の特定のデバイス プールで発生したイベントの詳細が一覧表示されます。



-
- (注)
- デバイス プール名に表示されるのは、そのデバイス プールに対して [電話未登録しきい値超過 (Phones Unregistered Threshold Exceeded)] または [サービス品質しきい値超過] アラームが発生したかどうかのフラグです。
 - [SQに関する問題 (SQ Issues)] カラムのエンドポイントとイベントの数は、過去4時間分のみ表示されます。
-

トポロジ - Cisco Unified Communications Manager または Cisco TelePresence Video Communication Server クラスタ

クラスタ トポロジには、次のクラスタの論理的なトップレベル ビューが表示されます。

- Cisco Unified Communications Manager (Unified CM)
- Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS)

クラスタ トポロジ ビューは次の操作に使用できます。

- Unified CM または VCS に登録されているデバイス、それらのデバイスのステータス、およびクラスタ内のデバイスの登録ステータスを確認する。
- アラームを確認し、個々のデバイスやクラスタ レベルでアラームに対処する。
- データベースのレプリケーション ステータスを確認する。
- クラスタ内のデバイスを検索する。

前提条件

- すべてのデバイスが Cisco Prime Collaboration Assurance で管理対象状態になっている必要があります。
- Unified CM パブリッシャが管理対象状態になっている必要があります。
- VCS クラスタが Ops ビュー (現在の名称は [ネットワークの正常性の概要 (Network Health Overview)]) に表示されるようにするには、VCS でクラスタ名 (VCS の FQDN) を設定する必要があります。



- (注) • トポロジには、パブリック IP アドレスと DNS 名だけが表示されます。

Unified CM または VCS クラスタ トポロジへのアクセス

Cisco Unified CM のトポロジ ビューにアクセスするには、[**モニタ (Monitor)**] > [**システムビュー (System View)**] > [**OpsView**] を選択します。Unified CM クラスタ名をクリックし、[トポロジ (Topology)] タブに移動します。

Cisco VCS のトポロジ ビューにアクセスするには、[**モニタ (Monitor)**] > [**システムビュー (System View)**] > [**OpsView**] を選択します。VCS クラスタをクリックします。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

Cisco Unified CM のトポロジ ビューにアクセスするには、[**ネットワークの正常性の概要 (Network Health Overview)**] > [**OpsView**] を選択します。Unified CM クラスタ名をクリックし、[トポロジ (Topology)] タブに移動します。

Cisco VCS のトポロジ ビューにアクセスするには、[ネットワークの正常性の概要 (Network Health Overview)] > [OpsView] を選択します。VCS クラスタをクリックします。

[トポロジ (Topology)] タブは、Unified CM または VCS のデバイス 360 ビューからも表示できます。デバイス 360 ビューで、クラスタ ID の値をクリックします。そのクラスタの [クラスタビュー (Cluster View)] ページが開きます。ここで [トポロジ (Topology)] をクリックすると、トポロジ ビューが開きます。

クラスタ トポロジ - コンポーネント

Unified CM または VCS クラスタについて、次のコンポーネントまたは詳細が表示されます (該当する場合)。

Unified CM Cluster	VCS クラスタ
クラスタ名	クラスタ名
Unified CM	VCS
エンドポイント	エンドポイント
不明なデバイス	Cisco TelePresence Management Suite (TMS)
アプリケーション サーバ	Cisco TelePresence Conductor
ゲートウェイ (H323、MGCP、および SIP)	Cisco TelePresence Server
	Cisco マルチポイント コントロール ユニット
Cisco TelePresence Manager	-
Cisco IM and Presence	-
Cisco TelePresence Conductor	-
Cisco TelePresence Server	-
Cisco マルチポイント コントロール ユニット	-
Cisco Unity Connection	-
Cisco Unified Border Element	-
Cisco TelePresence Multipoint Switch	-
Cisco Unified MeetingPlace	-
Cisco Unified MeetingPlace Express	-
Cisco MediaSense	-
Cisco Unified Customer Voice Portal	-
Cisco Emergency Responder	-

Unified CM Cluster	VCS クラスタ
Cisco Unity Express	-
Cisco Unified Contact Center Express	-
Cisco Unified Contact Center Enterprise	-

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合



(注) Unified CM または VCS クラスタでは、Cisco TelePresence Manager、Cisco TelePresence Multipoint Switch、および Cisco Unified MeetingPlace Express は表示されません。

クラスタ間トランク (ICT) の上にマウスポインタを置くと、ツールチップに次の情報が表示されます。

- ソース
- ゲートキーパーの IP
- ターゲット
- プロトコル
- トランク名

ICT アイコンをクリックすると、ICT クラスタのトポロジビューが開きます。Internet Explorer バージョン 11 を使用している場合は、ICT アイコンをクリックするとブラウザが最新の情報に更新されるため、Unified CM トポロジの起動に少し時間がかかります。



(注) ドメインやカスタマーにクラスタを表示する特権がない場合、ICT クラスタのトポロジビューは表示されません。

次の間のリンク ステータスが表示されます。

- Unified CM クラスタ : Unified CM と、MGCP、ボイス メール ポート (SCCP を使用する Cisco Unity Connection)、メディア デバイス、CTI ポート、および CTI ルート ポイント
- VCS クラスタ : VCS と、MCU および Cisco TelePresence Server

リンクの上にマウスポインタを置くと、ツールチップにリンクのステータスが表示されます。

デバイスと Unified CM 間のリンクがダウンしている場合は、リンクをクリックして [登録済みデバイス (Registered Devices)] タブを開くことができます。デバイスの一覧が自動的にフィルタ処理され、[登録ステータス (Registration Status)] が [未登録 (Unregistered)] のデバイスが表示されます。他のデバイスの登録ステータスを表示するには、[登録ステータス (Registration Status)] フィールドにフィルタを適用します。

リンクに警告アイコンまたは重大アイコンが表示された場合は、次のような状況を示しています。

- 警告アイコン：登録ステータスまたはリンク ステータスがダウンしています。
- 重大アイコン：登録ステータスとリンク ステータスの両方がダウンしています。

クラスタ内の情報を表示

クラスタから、次の情報を確認できます。

表示オプション

次のいずれかを選択して表示できます。

- デバイスの IP アドレスまたは DNS を選択するか、使用可能なドロップダウンリストから選択して両方のラベルを非表示にします。デフォルトでは、DNS が表示されます。ラベルを非表示にしても、Inter Cluster Trunk や管理されていなおエンドポイントのラベルは非表示になりません。
- すべてのデバイスまたはアラーム付きのデバイス ([アラーム付きのデバイスを表示 (Show Devices with Alarms)] チェックボックスを選択) のみが対象です。これはクラウド内のデバイスのみ適用され、Unified CM または VCS ノード、Inter Cluster Trunk (ICT)、[Unmanaged Devices] グループには適用されません。
- 使用可能なドロップダウンから選択することで、[Distributed]、[Hierarchic]、[Circular] レイアウトにマップをクラスタ化します。デフォルトでは、ページには [Circular] レイアウトが表示されます。

以前に使用したブラウザからクラスタ ビューを起動すると、上記の表示オプションが維持されます。

グループに 50 個以上のデバイスがある場合、デフォルトでは、折りたたまれた形式で表示されます。デバイスを表示するには、展開する必要があります。

デフォルトでは、ページは 2 分ごとに更新されます。

クラスタ内のエンドポイント

クラスタの一部とされるすべてのエンドポイントは、1 つのグループとして表示されます。グループ アイコンにポインタを合わせると、ツール ヒントには次の情報が表示されます。

- 合計エンドポイント数
- 登録済みのエンドポイント
- 未登録のエンドポイント (ハードおよびソフト)
- 不明なエンドポイント

エンドポイントグループのクリック ビューアイコンをクリックし、カウントをクリックすると、選択したエンドポイントで情報がフィルタリングされた[エンドポイントの診断 (Endpoint Diagnostics)] ページが起動します。

クラスタ内で管理されていないデバイスの一覧

[Unmanaged] グループアイコンをクリックすることで、クラスタ内の管理されていないデバイスの一覧を表示できます。[Unmanaged Devices] ポップアップ ウィンドウが表示されます。[Unmanaged Devices] テーブルには、デバイスの IP アドレス/ホスト名、タイプ (デバイス タイプ)、情報へのリンクが表示されます。[Quick Filter] または [Advanced Filter] を使用して、デバイスを検索することができます。

[Unmanaged Devices] ページでは、デバイスを追加または検出できます。およびインベントリ管理からデバイスを検出するには、[デバイスの追加 (Add Device)] ボタンをクリックします。

デバイスの詳細

デバイスにカーソルを合わせると、そのデバイスの IP アドレス、ホスト名、ステータス、機能が表示されます。[デバイス 360 (Device 360)] ビューを起動するには、デバイスアイコンをクリックします。

Cisco Unified Communications Manager クラスタのデータベース レプリケーション ステータス

緑のタイマーアイコンは、クラスタ内の Cisco Unified Communications Manager 間のデータベース レプリケーションが正常に行われたことを示します。赤色のバツ印は、クラスタ内の Cisco Unified Communications Manager 間のデータベース レプリケーションでエラーがあることを示します。この機能は、Unified CM のみに適用されます。

アラームの詳細

デバイスまたはクラスタでアラームが発生すると、デバイスの横にアラームアイコンが表示されます。アラームが発生すると、アラームが解消または手動で消去されるまで、トポロジビューに表示されたままになります。

デバイスのアラームを表示するには、デバイスをクリックし、[デバイス 360 度 (Device 360 degree)] ビューのポップアップ ウィンドウを表示させることで、ウィンドウ下のペインにある [アラーム (Alarm)] タブにアラームが一覧表示されます。

クラスタ レベルのアラームを表示するには、クラスタ クラウドでアラームアイコンをクリックします。[クラスタ アラーム (Cluster Alarm)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。[アラームの詳細 (Alarm Details)] をクリックし、[アラームとイベント (Alarms & Events)] とクロス起動させます。アラームは、クラスタに基づきフィルタリングされます。

[概要 (Summary)] タブに移動することもできます ([OpsView] を選択してクラスタをクリック)。[アラームの概要 (Alarm Summary)] ダッシュレットで、クラスタの[合計 (Total)] 列の値をクリックします。[アラームとイベント (Alarms & Events)] ページが表示されます。アラームは、クラスタに基づきフィルタリングされます。

クラスタ レベルのアラームは、Unified CM クラスタのみに使用できます。



(注) 情報アラームは表示されません。

デバイス アイコンは、次の条件ではグレー表示されます。

- デバイスが、およびインベントリ管理で [Unreachable] 状態にある。
- デバイスで、*deviceunreachable* アラームが発生する。

[デバイスの検索]

デバイスは、[トポロジ表示 (Topology View)] ペインの検索ボックスを使用して、ホスト名や IP アドレス別に検索できます。検索クエリと一致するデバイスは、ボックスとともに強調表示され、中央に移動されます。検索クエリが 2 台以上のデバイスと一致する場合、これらすべてのデバイスはボックスで強調表示されます。

検索したデバイスが、50 台のデバイスを含むグループの一部である場合は、次のようになります。

- グループが以前に展開されていない場合は、グループ全体が強調表示されます。グループの拡張後に強調表示されているデバイスを表示するには、グループを展開する必要があります。
- グループが以前に展開されている場合は、グループはデフォルトで展開され、デバイスが強調表示されます。



(注) 電話機の検索はサポートされていません。

接続済みデバイス

[接続済みデバイス (Connected Devices)] タブは、デバイス タイプ、登録ステータス、IP フィルタに基づき、デバイス検索の実行に役立ちます。

パフォーマンス

[パフォーマンス (Performance)] タブには、Ops ビューで選択した Unified CM Publisher ノードに基づき、定義済みのダッシュボードが表示されます。[クラスタまたはデバイス (Cluster or Device)] ドロップダウンリストから他のクラスタ ノードを選択することはできません。また、カスタム パフォーマンス ダッシュボードを作成することもできます。

作成したカスタム ダッシュボードでは、履歴トレンドを有効にできます。[カスタム パフォーマンス ダッシュボードの作成](#)を参照してください。

ルートパターンの概要

ルートパターンの概要には、各ルートグループの使用率とコール音量に関する情報が表示されます。また、クラスタで設定されたルートリストまたはゲートウェイも表示されます。



- (注) ルートグループ名のリンクをクリックすると、**[レポート (Report)]** ポップアップウィンドウが表示されます。このウィンドウには、選択したルートグループの使用率、コール音量、チャンネルの使用状況が表示されます。

次の情報を確認できます。

- ルートリストまたはゲートウェイ
- ルートグループに関連付けられたルートパターン

デバイスの検索

[デバイスの検索 (Device Search)] タブでは、選択した Unified CM 内のデバイスを検索できます。詳細については、セクション [Unified CM デバイスの検索](#) を参照してください。

エンドポイント登録の概要

ネットワークにあるすべてのエンドポイントに関するステータスの概要を示します。E20、電話機、などのハードエンドポイントや、ソフトクライアント (Cisco Unified Personal Communicator、Cisco IP Communicator、iPhone、Android、Cisco Jabber、Client Services Framework (CSF))、Jabber のエンドポイントなどの概要を個別に表示できます。

前提条件

- すべてのデバイスが Cisco Prime Collaboration Assurance で管理対象状態になっている必要があります。
- クラスタを Cisco Prime Collaboration Assurance で検出する必要があります。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

前提条件

- クラスタを Cisco Prime Collaboration Assurance で検出する必要があります。

このダッシュボードでは、要約を、円グラフまたはテーブルとして表示します。これは、次のモードのエンドポイントに関する情報を提供します。

- 未登録—Cisco Unified Communications Manager および VCS に登録されていないエンドポイントです。赤で表示されます。[Unregistered from UCM] に表示される数には、Energy Save モードのデバイスが含まれます。

- 登録済み—Cisco Unified CM および Cisco VCS に登録されているエンドポイントです。緑で表示されます。「[Registered Hard Phones]」で表示される数には、Cisco TelePresence のエンドポイントが含まれています。
- [Unknown]：不明状態（エンドポイントの登録ステータスが不明）のエンドポイント。青で表示されます。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合

円グラフをクリックすると、次のページへのリンクを含む [Endpoint Health Troubleshooting] ウィンドウが表示されます。

- エンドポイントの診断
- Phone Report
- UCM Troubleshoot
- VCS Troubleshoot

UC トポロジビュー、診断の概要ビュー、エンドポイントの登録概要ダッシュレットに表示される電話機の数とは同期されません。同期には最大 10 分の遅延が生じます。必要に応じて、クラスタ検出をスケジュールし、手動で同期をトリガーできます。クラスタ検出では、すべての電話機の登録ステータスも再同期されます。クラスタ検出が手動でスケジュールされていない場合は、夜間のクラスタ検出の一部として同期が実行されます。

可用性の概要

Unified Communications デバイスグループの下に一覧表示されているデバイスの最新データを提供します。

可用性の概要ダッシュレットは、Cisco Prime Collaboration Assurance の各デバイス タイプでサポートされている重大なイベントのサブセットを追跡し、デバイスを **Down** として表示します。イベントの一覧を表示するには、「[サービス可用性の概要イベント](#)」を参照してください。イベントの説明とデバイス タイプについては、「[Cisco Prime Collaboration Assurance でサポートされているアラームとイベント](#)」を参照してください。

X 軸はアプリケーション数を表示します。Y 軸はアプリケーション タイプを表示します。

緑はアクティブなアプリケーションを示します。赤は、アプリケーションがダウンであることを示します。

バーをクリックしてポップアップを開くと、ページへのリンクが表示されます。クラスタビューとアラームブラウザです。



- (注) このダッシュレットでは、Cisco Prime Collaboration Assurance にデバイスが追加されていない場合、データは一切表示されません。

サービス エクスペリエンス/コール品質

サービス エクスペリエンス ダッシュボードは、コール品質アラーム、コール品質が不十分な場所、アラームを伴うセッション、コールに失敗した場所など、最も影響を受けている TelePresence エンドポイントの特定に役立ちます。

次のダッシュレットが含まれています。

- [Top 5 Poor Voice Call Quality Locations](#)
- [Top 5 Call Failure Locations](#)
- [Top 10 TelePresence Endpoints with Call Quality Alarms](#)
- [アラーム付きの会議](#)



(注) コール品質ダッシュレットには、デバイスの場所がデバイスに割り当てられているデバイスプールの場所と異なる場合、間違った情報が表示されます。デバイスとデバイスプールレベルが同じ場所に設定されていることを確認します。デバイスの場所をシステムの場所のいずれか (Hub_None、Phantom、または Shadow) に設定した場合、[場所 (Location)] フィールドには、デバイスで設定されている場所ではなく、デバイスプールで設定されている場所が表示されます。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

サービス エクスペリエンス ダッシュボードは、コール品質に名前変更されました。

Top 5 Poor Voice Call Quality Locations

直近 1 時間のコール品質が最も乏しかった上位 5 つの場所に関する情報を提供します。直近 1 時間よりも前のコール データは、[Assurance レポート (Assurance Reports)] の下にある [CDR と CMR レポート (CDR & CMR)] レポートから確認できます。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

直近 1 時間のコール品質が最も乏しかった上位 5 つの場所に関する情報を提供します。直近 1 時間よりも前のコール データは、[レポート (Reports)] の下にある [CDR と CMR レポート (CDR & CMR)] レポートから確認できます。

X 軸はロケーションを示します。Y 軸は低品質コールの数を示します。Z 軸には、低品質コールのパーセンテージがバブルで表示されます。ロケーションで失敗したコールのパーセンテージが 0.5 未満の場合、そのロケーションは無視されます。

Cisco Prime Collaboration Assurance を Enterprise モードで導入した場合、Top 5 Poor Voice Call Quality レポートには、グローバル選択のドロップダウン (ホームページの右上) で選択した特定のドメインに関連付けられるデータが含まれます。

Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードで導入した場合、Top 5 Poor Voice Call Quality Locations レポートには、お客様の名前や、特定のお客様に関連付けられているデータ ([ホーム (Home)] > [お客様の概要 (Customer Summary)] の順に選択) が含まれます。



(注) このダッシュレットには、Cisco TelePresence コールの詳細は含まれていません。

次の詳細を表示するには、Z 軸のバブルをクリックします。

- クラスタ
- Poor calls
- Total calls

Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合

[トラブルシュート (Troubleshoot)] をクリックして、[コール品質のトラブルシューティング (Call Quality Troubleshooting)] ページを開きます。[Call Quality Trend] ペインには、ロケーションごとに過去 24 時間の低品質コールが表示されます。[影響を受けたデバイス (Impacted Devices)] ペインには、特定の時間にコールに関与したデバイスが表示されます。[コールの詳細 (Call Details)] ペインを開くには、[影響を受けたデバイス (Impacted Devices)] ペインの任意のバーをクリックします。



(注) コールの詳細を表示するには、電話機のアクセス スイッチを監視するか、CDP ネイバー探索を使用して電話機から検出する必要があります。

Top 5 Call Failure Locations

直近 1 時間に最も多くのコール エラーが発生した上位 5 つの場所を表示します。Cisco Prime Collaboration Assurance は、一定の間隔で利用可能な CDR データを集約し、このダッシュレットで表示します。

Cisco Prime Collaboration Assurance に追加される Cisco Unified Communications Manager クラスタを考慮した、上位 5 つの場所が選択されます。たとえば、Cisco Prime Collaboration Assurance で 3 つの Cisco Unified Communications Manager クラスタが追加され、各クラスタには 30 か所の場所がある場合、これら 90 か所のなかから上位 5 つの場所が選択されます。

コールの障害が発生しているロケーションが 5 件未満の場合は、そのロケーションだけが表示されます。ロケーションで失敗したコールのパーセンテージが 0.5 未満の場合、そのロケーションは無視されます。

Cisco Prime Collaboration Assurance を Enterprise モードで導入した場合、Top 5 Call Failure Locations レポートには、グローバル選択のドロップダウン (ホームページの右上) で選択した特定のドメインに関連付けられるデータが含まれます。

Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードで導入した場合、Top 5 Call Failure Locations レポートには、お客様の名前や、特定のお客様に関連付けられているデータ ([ホーム (Home)] > [お客様の概要 (Customer Summary)] の順に選択) が含まれます。

Z 軸のバブルをクリックすると、次の詳細を表示できます。

- クラスタ
- Failed Calls
- 合計コール数

Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合

[トラブルシューティング (Troubleshoot)] をクリックして、[コール失敗のトラブルシューティング (Call Failure Troubleshooting)] ページを開きます。

Top 10 TelePresence Endpoints with Call Quality Alarms

コール品質アラーム (パケット損失、ジッタ、遅延用) のある上位 10 個のエンドポイントを表示します。

アラーム データをクリックすると、[アラーム (Alarm)] ページが起動します。

アラーム付きの会議

アラームが付いた進行中の会議数を表示します。

このダッシュレットから、[360 会議ビュー (360 Conference View)] を起動することができます。

アラーム ダッシュボード

アラーム ダッシュボードは、アラームのある最も影響が大きいテレプレゼンス エンドポイント、アラームのあるデバイス、およびインフラストラクチャアラームの概要を確認するために役立ちます。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

アラーム ダッシュボードは、アラームのある最も影響が大きいテレプレゼンス エンドポイント、アラームのあるデバイス、およびデバイスアラームの概要を確認するために役立ちます。

次のダッシュレットが含まれています。

Top 10 TelePresence Endpoints with Alarms

アラームのある上位 10 個の TelePresence エンドポイントを表示します。棒グラフをクリックすると、すべての重大なアラーム カウントの概要が示されたクイック ビューを開くことができます。アラーム カウントには重大度 Cleared のアラームが含まれます。

アラーム数の合計をクリックすると、Alarm ブラウザでクロス起動させ、アラームの詳細を表示できます。エンドポイントおよびサービス インフラストラクチャ デバイスのグラフを表示できます。

Top 10 Devices with Alarms

アラームのある上位 10 台のデバイスを表示します。棒グラフをクリックすると、すべての重大なアラーム カウントの概要が示されたクイック ビューを開くことができます。アラーム カウントには、重大度がクリアされたアラームが含まれます。

アラーム数の合計をクリックすると、Alarm ブラウザでクロス起動させ、アラームの詳細を表示できます。エンドポイントおよびサービス インフラストラクチャ デバイスのグラフを表示できます。

およびインベントリ管理を起動し、エンドポイントまたはサービスインフラストラクチャのいずれかのリンクをクリックして、デバイスの詳細を表示できます。



(注) クラスタは、デバイスとして扱われないため、このダッシュレットに表示されません。

インフラストラクチャ アラームの概要/デバイス アラームの概要

アラームの有無にかかわらずインフラストラクチャデバイスの数を表示します。また、アラームの重大度に基づいて、デバイスの数を表示することもできます。

合計デバイス データをクリックして、[デバイス インベントリ (Device Inventory)] ページを起動できます。[Alarms and Events] ページを表示するには、アラームのデータ デバイスもクリックできます。

デフォルトでは、情報は円グラフで表示されます。ユーザインターフェイスが更新されると、円グラフが更新されます。この表示は表に変更できます。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合



(注) [インフラストラクチャ アラームの概要 (Infrastructure Alarm Summary)] ダッシュレットの名前が [デバイス アラームの概要 (Device Alarm Summary)] に変更されます。

使用率モニタ

使用率モニタ (または [モニタ (Monitor)] > [使用率モニタ (Utilization Monitor)] の順に移動) ページには、トランクの使用率、トランク/ルート グループの使用率、ロケーションによる CAC バンド幅の使用率、会議デバイス、および コンダクタ ブリッジ プールの使用率に関する情報が提供されます。



(注) Cisco Prime Collaboration Assurance は、ゲートウェイの管理で SNMPv2c および SNMPv3 をサポートしています。ただし、Cisco Prime Collaboration Assurance では、SNMPv3 を使用したパフォーマンスポーリング (GSU) はサポートされていません。

トランク使用率

Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合

チャンネル使用に関して、使用率が最も高いトランクに関する情報を提供します。

使用率、関連付けられているゲートウェイ IP と名前、関連付けられたルート グループの詳細を確認できます。

CCisco Prime Collaboration Assurance では、SIP トランクの最大キャパシティを設定できます。[SIP トランクのキャパシティ設定 (SIP Trunks Capacity Settings)] リンクをクリックし、[SIP トランクの最大キャパシティ (SIP Trunk Max Capacity)] タブで Border Element のゲートウェイを選択し、Border Element の IP を選択します。SIP トランクを通過できる最大コール数を指定します。



(注) [SIP トランクのキャパシティ設定 (SIP Trunks Capacity Settings)] リンクにアクセスするには、管理者権限が必要です。

[使用率 (Utilization)] 列のパーセンテージリンクをクリックすると、時間に対してプロットされたトランクの使用率がグラフで表示されます。最後のポーリングサイクルのデータが表示されています。

4分間の各インターバルに対する X 軸座標にカーソルを配置すると、パーセンテージとして使用率を表示するポップアップを表示できます。トランクまたはルートの使用率を表示する詳細なパフォーマンスグラフを開くには、グラフのポイントをクリックするか、X 軸座標に対応するチャンネル使用率バーをクリックします。



(注) Cisco Prime Collaboration Assurance では、HSRP 対応デバイスはサポートされていません。

次の表には、Cisco Prime Collaboration Assurance にある、さまざまなタイプの SIP トランクの使用率レポートに関する概要が示されています。

表 1: SIP トランク タイプの使用率レポート

SIP トランクのタイプ	使用率レポート	
	データ ソース	サポート
クラスタ間トランク	CDR	利用可能です。これらトランクは、クラスタ間トランクが Unified Communications Manager の場合はデータを表示させず、データを正しく表示する必要がある場合は、これらのトランクをボイス ゲートウェイに関連付けさせます。

SIP トランクのタイプ	使用率レポート	
Cisco Unified Border Element (CUBE) に接続した SIP トランク	CUBE を直接ポーリング	Available
UCM SIP トランク (これらのトランクはサービスプロバイダーによって提供されるのではなく Enterprise 管理者が作成します) たとえば、ICT や Trunk to Webex などです。	RTMT UCM SIP パフォーマンス カウンタ	該当なし。RTMT パフォーマンス ダッシュボードのみで、指定時間のコール ボリュームを確認することができます。
CUBE に接続していない SIP トランク (たとえば、ACME) です。	RTMT UCM SIP パフォーマンス カウンタ	該当なし。RTMT パフォーマンス ダッシュボードのみで、指定時間のコール ボリュームを確認することができます。



- (注) Cisco Integrated Services Routers (ISR) および Cisco ISR G2 は必要な SNMP ツールを提供するプラットフォームではないため、T1/E1 Channel Associated Signaling (CAS) トランクの使用率を監視することはできません。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以前の場合



- (注) Cisco Prime Collaboration Assurance は、Cisco Unified Border Element (CUBE) に接続している SIP トランクの使用率のみをサポートします。Cisco Prime Collaboration Assurance は、Unified Communications Manager で設定された SIP トランクの使用率はサポートしません。

T1/E1 トランク

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

チャネル使用に関して、使用率が最も高い T1/E1 トランクに関する情報を提供します。

使用率、関連付けられているゲートウェイ IP と名前、関連付けられたルート グループの詳細を確認できます。

[使用率 (Utilization)] 列のパーセンテージ リンクをクリックすると、時間に対してプロットされたトランクの使用率がグラフで表示されます。最後のポーリングサイクルのデータが表示されています。

4 分間の各インターバルに対する X 軸座標にカーソルを配置すると、パーセンテージとして使用率を表示するポップアップを表示できます。トランクまたはルートの使用率を表示する詳細なパフォーマンスグラフを開くには、グラフのポイントををクリックするか、X 軸座標に対応するチャネル使用率バーをクリックします。



(注) Cisco Prime Collaboration Assurance では、HSRP 対応デバイスはサポートされていません。



(注) Cisco Integrated Services Routers (ISR) および Cisco ISR G2 は必要な SNMP ツールを提供するプラットフォームではないため、T1/E1 Channel Associated Signaling (CAS) トランクの使用率を監視することはできません。

CUBE SIP トランク

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

チャンネル使用に関して、使用率が最も高い SIP トランクに関する情報を提供します。

SIP トランクの使用率、最大同時コールのデフォルト値、Cisco Unified Border Element (CUBE) で設定されている最大同時コールの値、ならびに関連付けられている CUBE IP の詳細が表示されます。



(注) [最大同時コール数 (キューブで設定)] 列には、CUBE のダイヤル ピア レベルで設定した最大コール数が含まれます。

Cisco Prime Collaboration Assurance では、CUBE が接続した SIP トランクの最大同時コール数を設定できます。[SIP トランク (SIP Trunk)] ページで、設定する SIP トランクに対応するチェックボックスをオンにします。[最大同時コール数の設定 (Set Max Concurrent Call)] ボタンをクリックし、Cisco Prime Collaboration Assurance の SIP トランクを通過できる最大同時コール数を指定します。

[使用率 (Utilization)] 列のパーセンテージリンクをクリックすると、時間に対してプロットされた SIP トランクの使用率がグラフで表示されます。最後のポーリングサイクルのデータが表示されています。

4 分間の各インターバルに対する X 軸座標にカーソルを配置すると、パーセンテージとして使用率を表示するポップアップを表示できます。トランクまたはルートの使用率を表示する詳細なパフォーマンスグラフを開くには、グラフのポイントをクリックするか、X 軸座標に対応するチャンネル使用率バーをクリックします。

Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 以降の場合

Cisco Prime Collaboration Assurance ユーザ インタフェイスで、[使用率モニタ (Utilization Monitor)] ページから[監視 (Monitor)] > [使用率モニタ (Utilization Monitor)] > [CUBE SIP トランク (CUBE SIP Trunk)] タブへと移動すると、セッション サーバグループ 設定の CUBE SIP トランクを表示できます。

[CUBE SIP トランク (CUBE SIP Trunk)] ページで、サーバグループ設定に対応するチェックボックスをオンにし、[Raise/Suppress] ボタンを有効にします。デフォルトでは、アラームは [Raise] 状態になっています。この状態は、変更した場合のみ更新されます。

[Alarm Status] 列は、アラームを高めることができるかどうかを示します。

次の表には、Cisco Prime Collaboration Assurance にある、さまざまなタイプの SIP トランクの使用率レポートに関する概要が示されています。

表 2: SIP トランク タイプの使用率レポート

SIP トランクのタイプ	使用率レポート	
	データ ソース	サポート
クラスタ間トランク	CDR	提供されています。これらトランクは、クラスタ間トランクが Unified Communications Manager の場合はデータを表示させず、データを正しく表示する必要がある場合は、これらのトランクをボイス ゲートウェイに関連付けさせます。
Cisco Unified Border Element (CUBE) に接続した SIP トランク	CUBE を直接ポーリング	Available
UCM SIP トランク (これらのトランクはサービスプロバイダーによって提供されるのではなく Enterprise 管理者が作成します) たとえば、ICT や Trunk to Webex などです。	RTMT UCM SIP パフォーマンス カウンタ	該当なし。RTMT パフォーマンス ダッシュボードのみで、指定時間のコール ボリュームを確認することができます。
CUBE に接続していない SIP トランク (たとえば、ACME) です。	RTMT UCM SIP パフォーマンス カウンタ	該当なし。RTMT パフォーマンス ダッシュボードのみで、指定時間のコール ボリュームを確認することができます。



- (注) Cisco Prime Collaboration Assurance は、Cisco Unified Border Element (CUBE) に接続している SIP トランクの使用率のみをサポートします。Cisco Prime Collaboration Assurance は、[UCM SIP Trunk] ページで Unified Communications Manager に設定されている SIP トランクの使用率をサポートします。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合

Cisco Prime Collaboration Assurance は、CUBE が接続した SIP トランクと、Unified Communications Manager で設定した SIP トランクの両方の使用率をサポートします。

SIP トランクの最大同時コール数のデフォルト値を変更

スーパー管理者、システム管理者、ネットワークオペレータは、キューブが接続した SIP トランクの最大同時コール数のデフォルト値を設定することができます。

前提条件：このタスクを実行するには root アクセス機能が必要です。そのため、root アクセス権を取得するために TAC ケースを送信する必要があります。

SIP トランクの最大同時コール数のデフォルト値を設定するには、次の手順に従います。

1. root ユーザとしてログインします。
2. /opt/emms/cuom/gpf フォルダに移動して、*gpf.properties* ファイルを編集します。
3. および **SipTrunkMaxCapacity=100** 列を見つけて、値を「100」から目的の数値に変更します。
4. 管理者ユーザでログインして Cisco Prime Collaboration Assurance サーバを再起動させ、次のコマンドを実行します。
 1. `<hostname>/admin#application stop cpcm`
 2. `<hostname>/admin#application start cpcm`

UCM SIP トランク

Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合

Unified Communications Manager クラスタに接続しているすべての SIP トランクに関する情報を提供します。

UCM SIP Trunk が、Cisco Prime Collaboration Assurance ユーザインターフェイスの [使用率モニタ (Utilization Monitor)] ページで、[監視 (Monitor)] > [使用率モニタ (Utilization Monitor)] > [UCM SIP Trunk] の順に移動するタブとして追加されます。

SIP トランクの使用率（音声およびビデオの最大コール数やアクティブコールの合計数）、最大同時コール数のデフォルト値、SIP トランクのステータス、フラグが表示されます。



- (注) [使用率 (Utilization)] 列には、音声コールとビデオコールの両方の使用率に関する詳細が含まれます。

ステータス	説明
シングル	SIP トランクがクラスタ内の1つのノード上で実行されています。
マルチ	SIP トランクがクラスタ内の複数のノード上で実行されています。
すべてのノード上で実行	SIP トランクがクラスタ内の全てのノード上で実行されています。



- (注) [Single] または [Multiple] ステータスの SIP トランクでは、特定の SIP トランクを [SIP トランク名 (SIP Trunk Name)] 列から展開すると、リモート先に関する情報や、各ノードの音声およびビデオのコールステータスなどの情報を含む、その他のテーブルを表示することができます。

Cisco Prime Collaboration Assurance では、複数の SIP トランクの音声またはビデオで最大同時コール数を設定できます。[SIP トランク (SIP Trunk)] ページで、設定する SIP トランクに対応するチェックボックスをオンにします。[最大同時コール数 (Max Concurrent Call)] ボタンをクリックし、Cisco Prime Collaboration Assurance の SIP トランクを通過できる最大同時コール数を指定します。[Audio Max Calls] および [Video Max Calls] 列は、入力した値で設定されます。[最大同時コール数 (Max Concurrent Call)] オプションを使用して音声およびビデオの最大コール数値を設定しなかった場合、Unified Communications Manager のデフォルト値を使用して2つの列が追加されます。

Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 SP3 以降の場合

1つ以上の SIP トランクを選択して [モニタリングの停止 (Stop Monitoring)] をクリックし、ユーザインターフェイスとデータベースのステータスを [メンテナンス中 (Under Maintenance)] に更新します。

CUCM と同様、選択した SIP トランクでメンテナンスの完了後に [モニタリングの再開 (Resume Monitoring)] をクリックし、ユーザインターフェイスとデータベースを最新のステータスに更新します。



- (注)
- [OpsView] タブでは、[UCM SIP トランク (UCM SIP Trunks)] ページにクロス起動することもできます。
 - UCM SIP トランクは、MSP モードではサポートされていません。

ルートグループの使用率

チャンネル使用について、最も利用されるルートグループの情報を提供します。

また、使用率や関連するクラスタの詳細を表示することもできます。[使用率 (Utilization)] 列のパーセンテージリンクをクリックすると、時間に対してプロットされたルートグループの使用率がグラフで表示されます。最後のポーリングサイクルのデータが表示されています。

ルートグループを選択すると、[関連付けられているゲートウェイ/トランク (Associated Gateways/Trunks)] テーブルを表示できます。この表には、トランク、ゲートウェイ名、ゲートウェイ IP に関する情報が含まれています。[保存 (Save)] をクリックして、選択したトランクをルートグループに追加します。



- (注) トランクがルートグループに関連付けられている場合でも、ポーリングが実行されない、[データがありません (No Data Available)] エラーが表示されます。



- (注) [使用率 (Utilization)] 列には、ルートグループに対してトランクを選択しなかった場合、「[トランクが選択されていません (Trunks Not Selected)]」メッセージが表示されます。

4分間の各インターバルに対する X 軸座標にカーソルを配置すると、パーセンテージとして使用率を表示するポップアップを表示できます。トランクまたはルートの使用率を表示する詳細なパフォーマンスグラフを開くには、グラフのポイントをクリックするか、X 軸座標に対応するチャンネル使用率バーをクリックします。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合

Cisco Prime Collaboration Assurance では、ルートグループの集計を計算することができます。[ルートグループの集計設定 (Route Group Aggregation Settings)] リンクをクリックし、[トランクの使用設定 (Trunk Utilization Settings)] ページで [ルートグループ集計 (Route Group Aggregation)] タブをクリックします。Unified Communication System (UCS) クラスタ、ルートグループの順に選択し、指定したルートグループに属するトランクを選択します。



- (注) [ルートグループの集計設定 (Route Group Aggregation Settings)] リンクにアクセスするには、管理者権限が必要です。

Cisco Unified Border Element (CUBE) に POTS ダイアルピアや T1/E1 音声インターフェイスが設定されている場合でも、[トランクの使用設定 (Trunk Utilization Settings)] の下にある [ゲートウェイ (Gatewa)] フィールドには値が表示されず、CUBE として識別されるには、`/opt/emms/emsam/conf/cube_ip.txt` ファイルに IOS IP アドレスを入力します。

トラブルシューティング

問題: 正しいルートグループが表示されません。

推奨事項： ルートグループが Unified Communication Manager のルートリストに関連付けられていることを確認し、再検出します。

トランク グループの使用率

チャンネル使用に関して、使用率が最も高いトランク グループに関する情報を提供します。



- (注) トランクグループのポーリングが行われない場合、[使用可能なデータがありません (No Data Available)] というエラーメッセージが表示されます。

ユーザ定義のトランク グループを作成できます。[トランク グループ設定 (Trunk Group Settings)] リンクをクリックし、[トランク使用率の設定 (Trunk Utilization Settings)] ページで、[カスタムトランクグループの管理 (Custom Trunk Group Management)] タブをクリックします。トランクを選択し、[新規グループの追加 (Add New Group)] ボタンをクリックします。[新規グループ (New Group)] ダイアログボックスが表示されます。詳細を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。グループが正常に作成されたことを知らせるメッセージが表示されます。ユーザが定義した既存のトランクグループに他のデバイスを追加するには、[グループに追加 (Add to Group)] ボタンをクリックします。ユーザが定義したすべてのグループは、ユーザインターフェイスの左側にある [カスタム トランク グループ (Custom Trunk Group)] ペインに一覧表示されます。[カスタムトランクグループ (Custom Trunk Group)] の下にある検索フィールドを使用して、ユーザ定義のトランクグループを検索することができます。ユーザが定義したこれらのトランクグループが、使用率の高い上位 10 個のトランクグループである場合、それらの使用情報は、[トランク (Trunk)] の下にあるダッシュレットに表示されます。



- (注) [トランク グループ設定 (Trunk Group Settings)] リンクにアクセスするには、管理者権限が必要です。

[使用率 (Utilization)] 列のパーセンテージリンクをクリックすると、時間に対してプロットされたトランクの使用率がグラフで表示されます。最後のポーリングサイクルのデータが表示されています。

4 分間の各インターバルに対する X 軸座標にカーソルを配置すると、パーセンテージとして使用率を表示するポップアップを表示できます。トランクまたはルートの使用率を表示する詳細なパフォーマンスグラフを開くには、グラフのポイントをクリックするか、X 軸座標に対応するチャンネル使用率バーをクリックします。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合



- (注) [ルートグループの使用率 (Route Group Utilization)] ページと [トランクグループの使用率 (Trunk Group Utilization)] ページの両方では Unified Communications Manager SIP トランクも一覧表示され、ルートグループとトランクグループの両方の使用率を計算します。

Location CAC 帯域幅の使用状況

帯域幅の使用率が最も高くなるの場所についての情報を提供します。

場所の名前、関連付けられているクラスタ、最大帯域幅、使用率、および失敗したコールの数の詳細を表示できます。

[コール失敗 (Calls Failed)] 列の [失敗したコール (Failed Calls)] アイコンをクリックして、[リソース不足の場所 (Location Out of Resource)] パフォーマンスグラフを起動してください。

デフォルトでは、失敗したコールの数に基づいてテーブルがソートされます。

最大帯域幅の値が [無制限 (Unlimited)] または [なし (None)] に設定されている場合、ポーリングは行われず、テーブルにデータは表示されません。

データは4分ごとにポーリングされます。

Cisco Prime Collaboration Assurance でのロケーションのポーリングは、ロケーション帯域幅マネージャ サービスが有効になっている Unified CM ノードから実行されます。ロケーション帯域幅マネージャは、任意の Unified CM サブスクリバ上で実行されるか、またはクラスタ内の専用 Unified CM サーバ上で、スタンドアロン サービスとして実行されます。クラスタ内の拡張ロケーション CAC を有効にするには、各クラスタで少なくとも1つのロケーション帯域幅マネージャのインスタンスが実行されている必要があります。



- (注) Cisco Unified Communications Manager で、**Use Video Bandwidth for Immersive** パラメータを True に設定すると、Cisco Prime Collaboration Assurance はイマーシブ カウンタをポーリングしないため、イマーシブ帯域幅のテーブルにデータが表示されません。

会議デバイス

ネットワーク内の会議デバイスを表示します。

次の詳細情報を表示できます。

- [Status] : デバイスが正常であるか、一時停止されているか、またはエラーを含んでいるかを表示します。ステータスアイコンをクリックして、[Alarm ブラウザ] を起動できます。

このアイコンは、重要なサービスインフラストラクチャ、到達不能、またはアクセス不能なアラームがある場合に表示されます。

- [Name] および [IP Address] : ブラウザで起動するには、デバイス名または IP アドレスをクリックできます。

次の情報を表示するには、[Name] 列の上にマウス ポインタを置き、クイック ビュー アイコンをクリックします。

- メディア処理エンジン、コール制御プロセス、会議マネージャ、セキュリティキー交換。
- オーディオロード、ビデオロード、メディアロード、使用中のビデオポート、バッテリーステータス、温度ステータス、および電圧ステータス (MCU に関してのみ)

- CPU およびメモリの使用率。
- デバイス タイプ
- 使用したビデオ ポート
- 使用した音声ポート
- Master Conductor

Click the utilization value of [ビデオポート (Video Ports)] または [使用されているオーディオポート (Audio Ports Used)] 列の使用状況お値をクリックすると、[ビデオポートの使用状況の詳細 (Detailed Video Port Utilization)] または [オーディオポートの使用状況の詳細 (Detailed Audio Port Utilization)] グラフが開きます。表示するデータとして、パーセント単位の使用率、使用率の絶対値、または両方 ([すべて (All)] をクリック) を選択できます。また、スライダを使用して短い時間間隔 (1 分間など) を選択して、その時間内の実際のデータを確認することもできます。この情報を使用すると、使用状況に応じてポートの数を増やすことができます。

使用状況は、デバイスが Cisco Prime Collaboration Assurance で初めて管理対象状態になった時点から表示されます。たとえば、デフォルトではグラフに5日間のデータを表示できますが、デバイスが4日間しか管理対象状態になっていない場合は、4日間のデータが表示されます。

Conductor Bridge Pool の使用率

ネットワーク内のコンダクタプールごとに、会議ブリッジの累積使用状況に関する情報を提供します。

次の詳細情報を表示できます。

- [ステータス (Status)] : 各コンダクタプールに関連付けられている会議ブリッジのステータスに基づいて、コンダクタプールのステータスを表示します。ステータスアイコンをクリックすると、アラームブラウザをクロス起動して、コンダクタプール内の会議ブリッジの個々のステータスを確認できます。
- [プール名 (Pool name)] : プール名をクリックすると、デバイスウィンドウを個別のブラウザでクロス起動できます。
- [使用されているビデオポート (Video Ports Used)] : [ビデオポート/スクリーンライセンスの使用状況 (Video Ports/Screen License Utilization)] 列の使用状況の値をクリックすると、[ビデオポートコンダクタの使用状況の詳細 (Detailed Video Port Conductor Utilization)] グラフが開きます。使用状況は、パーセンテージまたは絶対値で表示するように選択できます。また、スライダを使用して短い時間間隔 (1 分間など) を選択して、その時間内の実際のデータを確認することもできます。この情報を使用すると、使用状況に応じてポートの数を増やすことができます。使用状況は、デバイスが Cisco Prime Collaboration Assurance で初めて管理対象状態になった時点から表示されます。たとえば、グラフではデフォルトで7日間のデータを表示できます。



(注) Cisco Prime Collaboration Assurance では、Cisco TelePresence Conductor のスクリーン ライセンス モードだけがサポートされます。

- Conference Bridge Type
- Conductor Name



(注) 使用状況モニタを表示するには、コンダクタプールに少なくとも1つの会議ブリッジが存在している必要があります。

TelePresence エンドポイント

このダッシュボードを使用して、No Show エンドポイント、最も一般的に使用された、および使用頻度の低い TelePresence エンドポイントとエンドポイント モデルを識別できます。



(注) IP 電話とソフトウェア クライアントの詳細は、TelePresence 使用率レポートには含まれません。

Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 SP2 以降の場合

Telepresence エンドポイントの前提条件

Telepresence エンドポイントには、次のものがが必要です。

- Unified CM および Cisco VCS は、Managed 状態にある必要があります。
- MCU などのエンドポイントとコントローラは、Managed 状態にある必要があります。
- デバイスの可視性を「Full Visibility」状態に設定します。
- JTAPI が Unified Communications Manager で設定されている必要があります。Unified Communications Manager で JTAPI を有効にする方法については、「[Cisco Prime Collaboration Assurance のデバイス設定](#)」を参照してください。
- Cisco Prime Collaboration Assurance サーバが、Cisco VCS でフィードバック サーバとして登録されている必要があります。
- 会議の診断と音声電話機能の模擬テストを正しく実行するには、Cisco Prime Collaboration Assurance Service Pack 1 バンドルを適用する前に、CUCM がリストされているバージョンであることを確認してください。詳細については、12.1 Service Pack 1 の「[Cisco Prime Collaboration Assurance でサポートされているデバイス](#)」を参照してください。

次のダッシュレットが含まれています。

Top 10 Utilized TelePresence Endpoints

ネットワークの使用率が高い上位 10 個のエンドポイントを表示します。

グラフは、期間、または会議別に表示できます。

- 時間別—使用時間ごとの使用率です。たとえば、使用率が 0.634 時間と表示されている場合、エンドポイントはおよそ 38 分間使用されていたこととなります (0.634×60)。
- 会議別：使用率が会議の数で示されています。ここでは、完了した会議のみが対象です。会議の数が 1 の場合、x 軸の値は 10 進数で表示されます (0.2、0.4 など)。会議の数が 2 以上の場合、x 軸の値は絶対数 (1、2、3 など) で表示されます。

棒グラフをクリックすると、選択したエンドポイントの All Conference Summary レポートを開くことができます。

Top 10 Utilized TelePresence Endpoint Models

特定のエンドポイント モデルに基づいて使用率を表示します。

次のデータを表示できます。

- [For a day]：最大使用率は 10 時間です。したがって、1 日の使用時間が 120 分であれば、1 日の使用率は 20% ($(120 / (10 \times 60)) \times 100$) となります。
- [For a week]：最大使用率は 50 時間です。したがって、1 週間の使用時間が 1500 分であれば、1 週間の使用率は 50% ($(1500 / (50 \times 60)) \times 100$) となります。
- [For four weeks]：最大使用率は 200 時間です。したがって、1 か月の使用時間が 10800 分であれば、1 か月の使用率は 90% ($(10800 / (200 \times 60)) \times 100$) となります。

棒グラフをクリックして、選択されたエンドポイント モデルの [Endpoint Utilization Report] を起動できます。

Top 10 No Show TelePresence Endpoints

スケジュール設定された会議に参加しなかった、上位 10 個のエンドポイントを表示します。

棒グラフをクリックすると、選択したエンドポイントの No Show Conference Summary レポートを開くことができます。

Least 10 Utilized TelePresence Endpoints

ネットワークの使用率が低い下位 10 個のエンドポイントを表示します。

グラフは、期間、または会議別に表示できます。

- [By duration]：使用時間ごとの使用率です。たとえば、使用率が 0.634 時間と表示されている場合、エンドポイントはおよそ 38 分間使用されていたこととなります (0.634×60)。
- 使用率がゼロの場合、棒グラフには表示されません。このデータを表示するには、表形式を起動する必要があります。

- 会議別：使用率が会議の数で示されています。ここでは、完了した会議のみが対象です。会議の数が1の場合、x軸の値は10進数で表示されます（0.2、0.4など）。会議の数が2以上の場合、x軸の値は絶対数（1、2、3など）で表示されます。

棒グラフをクリックすると、選択したエンドポイントの All Conference Summary レポートを開くことができます。

Least 10 Utilized TelePresence Endpoint Models

特定のエンドポイントモデルに基づいて使用率を表示します。使用率がゼロの場合、棒グラフには表示されません。このデータを表示するには、表形式を起動する必要があります。

次のデータを表示できます。

- [For a day]：最大使用率は10時間です。したがって、1日の使用時間が120分であれば、1日の使用率は20%（ $(120 / (10 * 60)) * 100$ ）となります。
- [For a week]：最大使用率は50時間です。したがって、1週間の使用時間が1500分であれば、1週間の使用率は50%（ $(1500 / (50 * 60)) * 100$ ）となります。
- [For four weeks]：最大使用率は200時間です。したがって、1か月の使用時間が10800分であれば、1か月の使用率は90%（ $(10800 / (200 * 60)) * 100$ ）となります。

棒グラフをクリックして、選択されたエンドポイントモデルの [Endpoint Utilization Report] を起動できます。

TelePresence 会議の数

進行中と完了した会議の数を表示します。チャートをクリックして、特定の会議で得られた、Conference Detail レポートを起動します。

会議データは、2時間ごとに集計されます。たとえば、1日に2回の会議のみが開かれたとします。最初の会議は01:00に開始して03:00に終了し、2回目の会議は02:20に開始して05:50に終了したとします。

データは次のように表示されます。

- 0:00—Zero
- 2:00—1：01:00 から 03:00 まで会議が進行中というデータが、0:00 から 02:00 の間に表示されます。
- 4:00—2：01:00 から 03:00 の間に会議が完了、ならびに 02:20 から 05:50 まで会議が進行中というデータが、02:00 から 04:00 の間に表示されます。
- 6:00—1：02:20 から 05:50 の間に会議が完了というデータが、04:00 から 06:00 の間に表示されます。
- 8:00—Zero：06:00 から08:00 の間に会議は行われませんでした。
- 10:00—Zero
- 12:00—Zero

- ...
- 24:00—Zero : 22:00 から 24:00 の間に会議は行われませんでした。

データは、チャートまたは表形式で表示されます。Excel シートにデータをエクスポートすることもできます。

ライセンスの使用状況

[ライセンスの使用状況 (License Usage)]タブには、Prime License Manager (すべての UC アプリケーションライセンスの使用状況)、VCS (VCS クラスタライセンスの使用状況)、Contact Center Enterprise ライセンス (CCE ライセンスの使用状況) に関するライセンス情報が表示されます。次のポートレットが含まれています。

- [Prime License Manager](#)
- [VCS ライセンスの使用状況](#)
- [Customer Voice Portal ライセンスの使用率 \(42 ページ\)](#)
- [Contact Center Enterprise ライセンスの使用状況 \(43 ページ\)](#)

Prime License Manager

音声のライセンス情報は、Prime License Manager ライセンスの下に分類されています。このダッシュレットには、すべての Unified Communications アプリケーション ライセンス (Cisco Unified CM および Cisco Unity Connection) の使用状況が表示されます。ELM と Unified CM が共存する場合は、Enterprise License Management Resource API を手動でアクティブにする必要があります。リストについては、「[Cisco Prime Collaboration Assurance のデバイスのセットアップ](#)」と「[Cisco Prime Collaboration Assurance のデバイス設定](#)」を参照してください。

次の詳細情報を表示できます。

- [ライセンスのタイプ (License Type)] : CUWLPremium、CUWLStandard、UCM Advanced など、利用可能なさまざまなライセンスのタイプが表示されます。
- [製品の : ライセンスのタイプが属する製品タイプ。
- [ステータス (status)] : ライセンスのタイプのステータス。有効、違反、またはデモが表示されます。
- [残り (Remaining)] : 各ライセンスのタイプの使用可能なライセンス数または未使用のライセンス数。

このダッシュレットは、毎晩の CDT 検出が完了した後に、デフォルトで 1 回設定されます。このダッシュレットは、CDT 検出 のたびに更新されます。

トラブルシューティング

問題 : Cisco Prime Collaboration Assurance 11.6 では、Standalone Prime Licensing Manager (PLM) が非 Cisco デバイスとして表示されます。

推奨アクション：これは、PLM で SNMP コミュニティ文字列が設定されているときに発生する可能性があります。PLM を適切に検出するには、コミュニティ文字列が設定されていないことを確認します。設定されている場合は削除し、Cisco Prime Collaboration Assurance で PLM 検出を続けます。基本的に、PCA は、PLM ディスカバリ用の SNMP コミュニティ文字列設定をサポートしていません。



- (注) 共存している PLM がすべて OS 管理者ユーザを使用してライセンス情報を取得するわけではありません。CUCM で作成されたユーザ ロールによって異なります。ほとんどの顧客導入環境では、Web 管理者は CLI/OS 管理者に権限を割り当てられています。Cisco Prime Collaboration Assurance では、このユーザからライセンス情報を取得できません。

VCS ライセンスの使用状況

すべての VCS クラスタ、クラスタ内の各 VCS サーバ、スタンドアロン VCS サーバ、Cisco Expressway-Core、Cisco Collaboration Edge または Core 搭載の Cisco Expressway-Edge または VCS ライセンスの使用状況が表示されます。Cisco Expressway-Core および Cisco Expressway-Edge クラスタの場合、前回の再起動以降の最大コール数は **[Expressway Peak Concurrent Video Calls]** 列に表示されます。



- (注) 最大コール数を表示するには、ライセンスをインストールする必要があります。VCS クラスタでは、ライセンスがインストールされていないまたは値が 0 の場合、最大コール数の列には **[N/A]** と表示されます。

このダッシュレットは自動更新されません。現在のデータを取得するには、ダッシュレットを更新する必要があります。

VCS バージョン 7.0 以降では、クラスタピアにインストール済みのトラバーサルまたは非トラバーサルコールライセンスは、クラスタ内の任意のピアで使用できます。バージョン 7.0 以前では、ライセンスはクラスタ間で共有されません。各ピアは、そのピアにインストール済みのライセンスのみを使用できます。

1つのピアにインストールできるライセンス数は、次のように、各 VCS ユニットの最大容量に制限されています。

- 500 回の非トラバーサル コール
- 100 回のトラバーサル コール
- 2,500 台の登録

登録ライセンスは、クラスタ間では共有されません。クラスタピアが使用できなくなった場合は、そのピアにインストールされた共有可能なライセンスは、ピアへの接続をクラスタが失った時から 2 週間の期間中、残りのクラスタピアにそのまま使用できます。これにより、クラスタの全体的なライセンスキャパシティが維持されます。ただし、上記のとおり、各ピアはその物理キャパシティによって引き続き制限されます。この 2 週間の期間が過ぎると、使用できないピアに関連付けられたライセンスがクラスタから削除されます。クラスタの容量を同じに維

持するには、ピアの問題を解決するか、新しいオプションキーをクラスタ内の別のピアにインストールするかのいずれかを実行する必要があります。

Customer Voice Portal ライセンスの使用率

Customer Voice Portal (CVP) ライセンスの使用率は、Prime License Manager ライセンスの下に分類されます。このダッシュレットに CVP コール サーバのライセンスの使用率が表示されます。

前提条件：

- コール サーバ機能を備えた CVP は、インベントリ管理で管理対象状態になっている必要があります。
- Contact Center Assurance License が使用できる必要がある。

このダッシュレットには、ポーリングデータの時間間隔に基づいてエントリが表示されます。デフォルトのポーリング間隔は 4 分です。

このダッシュレットには、過去 7 日間のポーリングレコードの最新カウントが表示されます。次の詳細情報を表示できます。

- デバイス：CVP コール サーバ
- [使用中のポート (Ports In Use)]：使用されているポートの数
- [利用可能なポート (Ports Available)]：利用可能なポートの数
- [要求されたポート (Ports Requested)]：要求されたポート数
- [拒否されたポート要求 (Ports Requests Denied)]：拒否されたポート要求の数

Contact Center Assurance License の有効期限が切れた場合、CVP ライセンスのダッシュレットには、CVP コール サーバのライセンス使用状況が表示されません。この機能を継続して使用するには、必要な数の Cisco Prime Collaboration Contact Center Assurance の同時使用エージェントライセンスを購入する必要があります。ライセンスの詳細については、「[ライセンスの管理](#)」の章を参照してください。



(注) 時間に対する列フィールドをプロットする各グラフを表示するには、列の下にある 0 以外の値をクリックします。

トラブルシューティング

1. 問題：CVP ライセンスの使用率のダッシュレットに、「使用可能なデータがありません (No Data Available)」と表示される。

推奨処置：次の条件が満たされていることを確認します。

- CVP デバイスは、[インベントリ管理 (Inventory Management)] で管理対象状態になっている必要があります。

- CVP デバイスには、コール サーバ機能が必要です。
2. **問題** : CVP ライセンスの使用率のダッシュレットにエント리는表示されるが、ポート値が 0 として表示される、または変動する。
- 推奨処置** : CVP ライセンスの使用率のダッシュレットでは、ポーリングデータの時間間隔に基づいてエント리는表示されるため、ポート値は 0 として表示されるか、変動します。

Contact Center Enterprise ライセンスの使用状況

このダッシュレットには、Unified Contact Center Enterprise ((Unified CCE) ライセンスの使用状況が表示されます。

前提条件 :

- Unified CCE Router または Unified CCE Peripheral Gateway は、[インベントリ管理 (Inventory Management)] で管理対象状態になっている必要があります。
- Contact Center Assurance License が使用できる必要がある。

このダッシュレットには、過去 7 日間のポーリングレコードの最新カウントが表示されます。次の詳細情報を表示できます。

- デバイス - デバイス名
- 機能 - ルータやペリフェラル ゲートウェイなどのデバイスの機能
- ログオン済みのエージェント - 現在ログオンしているエージェントの数

このダッシュレットには、ポーリングデータの時間間隔に基づいてエント리는表示されます。デフォルトのポーリング間隔は 1 分です。

Contact Center Assurance ライセンスの有効期限が切れると、Unified CCE ライセンス ダッシュレットは、Contact Center Enterprise ライセンスの使用状況を表示しません。この機能を継続して使用するには、必要な数の Cisco Prime Collaboration Contact Center の同時エージェント ライセンスを購入する必要があります。ライセンスの詳細については、「[ライセンスの管理](#)」の章を参照してください。



- (注) 時間に対して列フィールドをプロットする各グラフを表示するには、[ログオン済みのエージェント (Agents Logged On)] 列で (0 以外の) 値をクリックします。

トラブルシューティング

1. **問題** : Unified CCE ライセンス使用状況ダッシュレットに、「使用可能なデータがありません (No Data Available) 」と表示されます。
- 推奨処置** : 次の条件が満たされていることを確認します。
- Unified CCE デバイスは、[インベントリ管理 (Inventory Management)] で管理対象状態になっている必要があります。

- Unified CCE デバイスには、Unified CCE Router または Unified CCE PG 機能、あるいは両方が必要です。

2. **問題** : Unified CCE ライセンス使用状況ダッシュレットにエントリーは表示されますが、[ログオン済みエージェント (Agents Logged On)] の値は 0 として表示されるか、継続的に変更します。

推奨処置 : Unified CCE ライセンス使用状況ダッシュレットは、ポーリング データの間隔に基づいたエントリーを表示するため、[ログオン済みエージェント (Agents Logged On)] には 0 として表示されるか、値は継続的に変化します。

カスタマー サマリ ダッシュボード

カスタマー サマリ ダッシュボードを使用すると、エンドポイントやインフラストラクチャ デバイスの詳細情報、および特定の顧客のネットワークの論理的なトップレベルビューを確認できます。

Cisco Prime Collaboration Assurance が MSP モードで展開されている場合は、Cisco Prime Collaboration Assurance ホーム ページから次のダッシュボードを表示できます。

ダッシュボード	説明
カスタマー サマリ	顧客ごとのアラーム、エンドポイント、インベントリに関する情報。
Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合 TelePresence Exchange	クラスタ ノード、コールおよびセッション制御デバイス、リージョンの概要、および会議デバイスに関する情報。 (注) CTX デバイスが管理されていない場合は、どのダッシュレットにもデータは読み込まれません。

カスタマー サマリ ダッシュボードは、アラーム、エンドポイント、会議アラーム、およびインベントリに関する情報を、顧客ごとに集約して提供します。次のダッシュレットが含まれています。

ダッシュレット	説明
アラームの概要	<p>カスタマーごとのアラームの一覧を、重大度に基づいて表示します。各カスタマー レベルについて、重大度に基づく合計アラーム数が示されます。次の詳細情報を表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 顧客 • 合計 • 重大 • やや重大 • 比較的重大でない • 警告
デバイスの概要	<p>カスタマーごとのアラームの一覧を、重大度に基づいて表示します。各カスタマー レベルについて、重大度に基づく合計アラーム数が示されます。次の詳細情報を表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Customer • Total • Managed • Unmanaged • Suspended
エンドポイントの概要	<p>カスタマーごとに、各カテゴリのエンドポイントの一覧を、登録ステータスに基づいて表示します。次の詳細情報を表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 顧客 • 合計：登録済み • 合計：未登録 • ハードエンドポイント：登録済み • ハードエンドポイント：未登録 • ソフトクライアント：登録済み • ソフトクライアント：未登録

ダッシュレット	説明
アラームの会議	アラームで進行中の会議の数を表示します。次の詳細情報を表示できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 会議構造 • 会議タイプ • 監視された会議 • Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合 トラブルシューティングのステータス • 会議の議題 • スケジューラの所属組織 • 開始時刻
音声コール品質イベントの概要 (Voice Call Quality Events Summary)	アクティブなサービス品質 (SQ) イベントの概要と、影響を受けるエンドポイントを表示します。過去 4 時間のアクティブな SQ イベント データと、影響を受けるエンドポイント数の概要が表示されます。

Contact Center Assurance ダッシュボード

Cisco Prime Collaboration Contact Center Assurance のパフォーマンス ダッシュボードは、Cisco Unified Intelligence Center (CUIC)、Finesse、MediaSense、Customer Voice Portal (CVP)、Unified Contact Center Enterprise (Unified CCE)、Unified Contact Center Express (Unified CCX)、Virtualized Voice Browser などの Contact Center のコンポーネントについてほぼリアルタイムの情報を提供することによって、ネットワークの監視をサポートします。

Finesse については、[System Summary]、[CPU and Memory]、[Disk Usage]、および [Process] ダッシュレットのみが表示されます。



(注) CUIC、Finesse、および MediaSense デバイスに対してクラスタリングが設定されている場合、ダッシュボードには、クラスタに属している関連デバイスのデータも表示されます。

Cisco Prime Collaboration Assurance を Enterprise モードで導入した場合、ダッシュボードを表示するには、[モニタ (Monitor)] > [システムビュー (System View)] > [パフォーマンス (Performance)] に移動し、[クラスタ (Cluster)] ドロップダウンリストから製品とクラスタを選択してから、[ダッシュボード (Dashboard)] ドロップダウンリストから必要なダッシュボードを選択します。

Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードで展開した場合、ダッシュボードを表示するには、[モニタ (Monitor)] > [システムビュー (System View)] > [カスタマーサマリ (Customer

Summary)] に移動し、顧客名をクリックして、[パフォーマンス (Performance)] をクリックします。[Cluster] ドロップダウンリストから製品とクラスタを選択し、[Dashboard] ドロップダウンリストから必要なダッシュボードを選択します。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

Cisco Prime Collaboration Assurance を Enterprise モードで展開した場合、ダッシュボードを表示するには、[ネットワークの正常性の概要 (Network Health Overview)] > [パフォーマンス (Performance)] に移動し、[クラスタ (Cluster)] ドロップダウンリストから製品とクラスタを選択してから、[ダッシュボード (Dashboard)] ドロップダウンリストから必要なダッシュボードを選択します。

Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードで展開した場合、ダッシュボードを表示するには、[ネットワークの正常性の概要 (Network Health Overview)] > [顧客の概要 (Customer Summary)] に移動し、顧客名をクリックして、[パフォーマンス (Performance)] をクリックします。[Cluster] ドロップダウンリストから製品とクラスタを選択し、[Dashboard] ドロップダウンリストから必要なダッシュボードを選択します。

Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 以降の場合



(注) エクスポートしたレポートの情報を表示するために、すべてのノードでクラスタを検出する必要があります。ポーリングは、検出されたノードに対してのみ行われます。

Contact Center Assurance トポロジ ダッシュボード

Cisco Prime Collaboration Assurance Advanced は、IP ベースの Contact Center の論理的なトップレベルビューを提供します。ここでは、Cisco Prime Collaboration Assurance で管理される Unified Contact Center デバイスが簡潔なトポロジで表示されます。

Contact Center のトポロジでは、IP ベースの Contact Center のデバイスセット全体を表示します。これはプライマリ データセンターとみなされ (トポロジではサイド A として表示)、プライベートおよびパブリック クラウドを介してセカンダリ データセンター (サイド B として表示) に接続されます。

Cisco Prime Collaboration Assurance が Enterprise モードで展開されている場合は、[モニタ (Monitor)] > [システム ビュー (System View)] > [OpsView] > [Contact Center トポロジ (Contact Center Topology)] に移動します。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

Cisco Prime Collaboration Assurance が Enterprise モードで展開されている場合は、[ネットワークの正常性の概要 (Network Health Overview)] > [Contact Center トポロジ (Contact Center Topology)] に移動します。

Cisco Prime Collaboration Assurance が MSP モードで展開されている場合、ダッシュボードには、Cisco Prime Collaboration Assurance で管理される、特定の顧客のすべてのデバイスが表示されます。[Contact Center Topology] ページに移動するには、ホームページで顧客をクリックします ([Customer Summary] > [Customer name])。対象の顧客に対応するト

ポロジを表示するには、[Contact Center Topology] をクリックします。デバイスに対する管理対象の IP アドレスがトポロジビューに表示されます。

トポロジ内のクラウド（パブリックおよびプライベートクラウド）に対して、設定済みの対応するインターフェイス情報が表示されます。

カウンタに対するパフォーマンスダッシュボードを新しいタブに表示するには、パフォーマンスカウンタの名前または（トポロジで各デバイスアイコンの下に表示される）値をクリックします。パフォーマンスダッシュボードの詳細については、「[カスタムパフォーマンスダッシュボードの作成](#)」を参照してください。

Contact Center Assurance のトポロジは、Contact Center 内のさまざまなデバイス間の関係に焦点をあてます。デバイスにマウスポインタを合わせると、IP アドレスとホスト名の詳細が表示されます。Contact Center トポロジダッシュボードには次のデバイスが表示されます。

デバイスの一覧については、『[Cisco Prime Collaboration Assurance でサポートされているデバイス](#)』を参照してください。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合

次の表に、Unified Contact Center のデバイス間のリンクステータスを示します。

デバイス 1	デバイス 2	リンクステータス
IPCC	VRU PG	はい
IPCC	エージェント PG	はい
VRU PG	CVP コールサーバ	はい
CVP	VXML ゲートウェイ	いいえ
エージェント PG	CUCM	はい
CUCM	Media Sense	はい
エージェント PG	Finesse	はい
AW/HDS	CUIC	はい
UCCE ルータ	パブリッククラウド	はい
UCCE ルータ	プライベートクラウド	はい
UCCE ルータ	CTI	はい
CTI	CTIOS	はい
UCCE ルータ	MR PG	はい
VRU PG	CVP Reporting Server	いいえ
UCCE ルータ	ロガー	いいえ
UCCE ルータ	AW/HDS	はい
CVP	Virtualized Voice Browser (VVB)	いいえ



- (注) Virtualized Voice Browser (VVB) が CVP バージョン 11.5 以降と統合されている場合は、Contact Center Assurance トポロジ内の VVB デバイスを表示できます。

[Select Any Router] ドロップダウン リストから Contact Center の導入用ルータ ペアを選択できます。選択したルータペアに対するトポロジが表示されます。インベントリからルータを削除すると、ドロップダウンリストには削除されたルータ、およびルータが属しているサイド (サイド A またはサイド B) はトポロジに表示されなくなります。

これは、Cisco Prime Collaboration Assurance が Enterprise モードで展開されている場合にのみ適用されます。

トポロジ ビューによるトラブルシューティング

Contact Center Assurance のトポロジ ビューでは、デバイスでアラームが生成されると、デバイスの隣にアラーム アイコンが表示されます。マウスをデバイスの IP アドレスに合わせて Device 360° ビューがクイック起動され、問題のトラブルシューティングにも役に立ちます。Device 360° ビューから、アラームおよびインターフェイスを確認することができます。また、トレース ルートを実行する、デバイスを ping する、[Alarms and Events] ページにアクセスする、といったことも可能です。Device 360° ビューの詳細については、『[Cisco Prime Collaboration Assurance Guide - Advanced](#)』の「[Managing Inventory](#)」の章を参照してください。

アラームが示されているデバイスには、アラームの最も高い重大度のみが表示されます。アラームが生成されると、そのアラームは消去されるまで Contact Center Assurance のトポロジ ビューに残ります。消去されたアラームは、Cisco Prime Collaboration Assurance の消去操作を呼び出した後に削除されます。

Cisco Prime Collaboration Assurance が MSP モードで展開されている場合、共有コンポーネントは共通の展開で管理されます。共有されるデバイスについては、IP アドレスのみ参照できます。共有されているデバイスへのアクセス権を持っていない場合は、それらのデバイスの Device 360° を起動できません (デバイスへのアクセス権を持っていないカスタマーに対しては、共有されているデバイスは表示専用モードになります)。



- (注)
- Cisco Prime Collaboration Assurance が MSP モードで展開されている場合、共有 (4 K Shared Contact Center) と専用の両方の導入モデルを管理している状況では、トポロジ ビューはサポートされません。
 - トポロジ ビューは 2 分ごとに自動で更新されます。
 - Cisco Prime Collaboration Assurance は、単一の Unified CCE エンタープライズ展開のみをサポートしています。
 - 展開/縮小アイコンは、抽象デバイスでのみ使用できます。
 - Unified CCE トポロジは、いずれかの側で複数のペリフェラルゲートウェイ (PG) サーバが管理されている場合はサポートされません。トポロジを正しく起動するには、追加のペリフェラルゲートウェイ (PG) をインベントリ管理から削除してください。

履歴トレンドの表示

履歴トレンド分析は、デフォルトで[System Summary] ダッシュボードの下位のダッシュレット ([CPU Usage]、[Virtual Memory Usage]、および[Common Partition Usage]) に対して有効になっています。トレンドビューグラフを表示するには、ダッシュレットの右下の[Zoom]をクリックします。

前提条件

すべてのデバイスが Cisco Prime Collaboration Assurance で管理対象状態になっている必要があります。クラスタの場合は、すべてのノードが管理対象状態になっている必要があります。

音声デバイス (Cisco Unified CM、Cisco Packaged Contact Center Enterprise、Cisco Unified Presence、Cisco Unity Connection、Cisco Media Sense、Cisco Finesse、Cisco Unified IC、および Cisco Unified Contact Center Express) の場合は、システム定義のダッシュボードと一緒に、デバイス関連のメトリックのトレンドも表示できます。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

音声デバイス (Cisco Unified CM、Cisco Packaged Contact Center Enterprise、Cisco Unified Presence、Cisco Unity Connection、Cisco Media Sense、Cisco Finesse、Cisco Unified IC、Cisco Unified Contact Center Express、および Cisco Virtualized Voice Browser) の場合は、システム定義のダッシュボードと一緒に、デバイス関連のメトリックのトレンドも表示できます。



- (注)
- デバイス関連のメトリックは、選択するデバイスタイプによって異なります。
 - 履歴トレンド分析は、Cisco Unified CCE、Cisco Voice Portal、MCU/TPS、Cisco Unified Border Element、シスコ音声ゲートウェイ、Cisco Unified Communications Manager Express、ISDN ゲートウェイなどの非音声デバイスではサポートされていません。

[Trend] ダッシュボード

メトリックのトレンドを表示するには、[Dashboard] ドロップダウンリストから[Trend]を選択し、[Metrics Selection] ダイアログボックスからトレンドを有効にするメトリックを選択して[Add]をクリックします。任意の数のメトリックを選択できますが、デバイスタイプごとに最大6個までのメトリックを選択することをお勧めします。

また、次の操作を実行できます。

- データを、チャートまたは表形式のいずれかで表示する。
- [Merge] オプションをクリックして、2つ以上のパフォーマンスメトリックについてトレンドを比較する。
- [Zoom] をクリックして、トレンドグラフを詳細ビューで表示する。このオプションは、履歴、1時間ごとの平均、最大、および最小のデータを表示する場合に便利です。詳細ビューに表示されるズームセレクタグラフを使用して、選択した期間のトレンドを表示するためのグラフの時間枠 (x 軸) のポイントを調整することができます。

- ユーザーインターフェイスの右上にある [Add Graph] (+) ボタンを使用してトレンドを追加する。
- チャート タイプを変更する。

Customer Voice Portal (CVP)

Cisco Prime Collaboration Assurance には コール サーバ ベースの CVP ダッシュボードがあります。これはシステムで定義されており、Customer Voice Portal を追加するときに使用できます。また、モニタリングのニーズに基づいてカスタムダッシュボードを作成することができます。パフォーマンス カウンタの詳細については、『[Operations Guide for Cisco Unified Customer Voice Portal](#)』を参照してください。

ダッシュボードを表示するには、[Monitor] > [System View] > [Performance] を選択し、[Cluster] ドロップダウンリストから CVP とクラスタを選択し、[Dashboard] ドロップダウンリストから必要なダッシュボードを選択します。選択したダッシュボードに関連する情報が別のダッシュレットに表示されます。各ダッシュレットには、サーバの詳細、現在の使用状況、および直前の 3 分間に受け取った最大値が表示されます。



- (注) Cisco Prime Collaboration Assurance で CVP ダッシュボード用のデータを表示するには、Customer Voice Portal で Cisco CVP Call Server と Cisco CVP VXML サービスをオンにし、オペレーション コンソール (OAMP) 上で CVP コール サーバの下位の ICM、SIP および IVR サブシステムを有効にします。

システム概要

メモリ合計、1 秒あたりのページフォールト、処理件数、Cisco ICM ルータ コール、およびサービスに関する情報を表示します。

Available Bytes

プロセスまたはシステムへの割り当てで使用するためにすぐに利用できる物理メモリの量 (バイト) を表示します。

Committed Bytes

コミットされた仮想メモリの量 (バイト) を表示します。

Processor Time

プロセスの実行にかかる時間を、CPU がプロセスで使用したわずかな時間をすべて含めて表示します。

Threads

手順の単一シーケンスを表示します。プロセス (プログラムの実行インスタンス) は 1 つ以上のスレッドで構成されます。

Page Faults Per Second

1秒あたりのページフォールトの平均数を表示します。これは1秒間に失敗したページ数で測定されます。それぞれのフォールト動作で障害が発生するのは1ページのみで、ページ数はページのフォールト動作の数と同じになるためです。

コール サーバ ICM の集約統計

ルックアップ要求の合計、コールの合計数、スイッチ レッグの合計数、および VRU レッグを表示します。

Call Server Stats ICM Total Lookup Requests

システムの開始時間以降に Unified ICM アプリケーションへ送信された外部 Unified CVP VXML Server のコールルーティング要求の合計数を表示します。外部 Unified CVP VXML Server 内で発生するコールでは、Unified ICM アプリケーションからのコールルーティング指示が必要です。

Call Server Stats ICM Total Calls

後続の VRU 処理、および Contact Center エージェントへのルーティングのためにシステムの開始時間以降に Unified ICM アプリケーションが受信した新しいコールの合計数を表示します。

Call Server Stats ICM Total SIP Switch Legs

システムの開始時間以降に、Session Initiation Protocol (SIP) から ICM アプリケーションが受信した VoIP コールの数を表示します。

Call Server Stats ICM Total VRU Legs

システムの開始時間以降、Unified ICM アプリケーションから VRU 処理を受信したコールの数を表示します。VRU 処理には、事前に録音されたメッセージの再生が含まれており、カスタマーの要求を理解するために Caller Entered Digits (CED) や音声認識技術が必要になります。

コール サーバ ICM の間隔統計

ルックアップ要求、受信した新しいコール数、SIP スイッチ レッグ数、および VRU レッグを表示します。

Call Server Stats ICM Interval SIP Switch Legs

現在の間隔中に SIP から ICM アプリケーションが受信したコール数を表示します。Unified ICM アプリケーションは、Session Initiation Protocol (SIP) から発生した VoIP コールを承認します。

Call Server Stats ICM Interval Lookup Requests

現在の間隔中に Unified ICM アプリケーションへ送信された外部 Unified CVP VXML Server のコールルーティング要求の数を表示します。外部 Unified CVP VXML Server 内で発生するコールでは、Unified ICM アプリケーションからのコールルーティング指示が必要です。

Call Server Stats ICM Interval VRU Legs

Unified ICM アプリケーションから VRU 処理を受信中のコール数を表示します。VRU 処理には、事前に録音されたメッセージの再生が含まれており、現在の間隔でのカスタマーの要求を理解するために Caller Entered Digits (CED) や音声認識技術が必要になります。

Call Server Stats ICM Interval New Calls

後続の Voice Response Unit (VRU) 処理、および Contact Center エージェントへのルーティングのために現在の間隔中に Unified ICM アプリケーションが受信した新しいコールの数を表示します。

コール サーバ ICM のリアルタイム統計

アクティブ コール、VRU レッグ、SIP スイッチ レッグ、およびルックアップ要求に関する情報を表示します。

Call Server Stats ICM Active VRU Legs

Unified ICM サーバから Voice Response Unit (VRU) 処理を受信中の現在のコール数を表示します。VRU 処理には、事前に録音されたメッセージの再生が含まれており、カスタマーの要求を理解するために Caller Entered Digits (CED) や音声認識技術が必要になります。

Call Server Stats ICM Active SIP Switch Legs

SIP プロトコルから Unified ICM Server が受信したコール数を表示します。Active SIP Switch Legs は、Unified CVP Call Server から SIP プロトコルを使用して ICM Server が受信した現在のコールの数を表します。

Call Server Stats ICM Active Lookup Requests

ICM Server へ送信された外部 VXML Server コール ルーティング要求の現在の数を表示します。外部 Unified CVP VXML Server から発生するコールでは、Unified ICM Server からのコール ルーティング指示が必要です。

Call Server Stats ICM Active Calls

Unified CVP Call Server に対して ICM Server で処理されている現在のコール数を表示します。この値は、Contact Center エージェントへの後続のルーティングのために、Unified CVP Call Server に対して ICM で現在処理しているコールのカウントを表します。

コール サーバ インフラストラクチャ JVM のリアルタイム統計

使用中のリアルタイム JVM スレッド、メモリ合計、ピーク時のメモリ使用率、ピーク時のスレッド使用率、現在のメモリ使用率、および使用可能なメモリに関する情報が表示されます。

Call Server Stats RT JVM Threads In Use

Java 仮想マシンで現在使用されているスレッドの数を表示します。この数には、Unified CVP のスタンドアロンとスレッドプールのすべてのスレッド、および同じ JVM 内で実行中の Web アプリケーション サーバで作成されたスレッドが含まれています。

Call Server Stats RT JVM Total Mem

Java 仮想マシンで使用できるメモリの量 (MB) を表示します。この数は、Java 仮想マシンに対してどのくらいのシステム メモリを使用できるかを表します。

Call Server Stats RT JVM Peak Mem Usage

起動してから Java 仮想マシンで使用されたメモリの最大量を表示します。報告される数はメガバイトの単位で、この Java 仮想マシンで同時に使用された、これまでで最大のメモリ量を表します。

Call Server Stats RT JVM Peak Threads

起動してから Java 仮想マシンで同時に使用されたスレッドの最大量を表示します。Java 仮想マシンで使用されたピーク時のスレッド数には、UnifiedCVP スタンドアロンとスレッドプールのすべてのスレッド、および同じ JVM 内で実行中の Web アプリケーションサーバで作成されたスレッドが含まれています。

Call Server Stats RT JVM Current Mem Usage

Java 仮想マシンで使用されている現在のメモリ (MB) を表示します。

Call Server Stats RT JVM Avail Mem

Java 仮想マシンで使用できるメモリの量を表示します。報告される数はメガバイト単位で、Java 仮想マシンで要求される現在のシステム メモリのうち、どのくらいが使用されていないかを表します。

コール サーバインフラストラクチャスレッド プールのリアルタイム統計

リアルタイムのアイドル プール スレッド数、使用されたスレッドの最大数、実行中のプール スレッド数、存在するスレッドの最大数、およびコア プール スレッドの統計を表示します。

Call Server Stats RT Idle Pool Threads

処理を待機しているアイドル状態のスレッドの数を表示します。

Call Server Stats RT Max Threads Used

処理を実行するように同時にタスクを割り当てられたスレッド プール スレッドの最大数を表示します。

Call Server Stats RT Running Pool Threads

処理を実行中のスレッド プールのスレッドの数を表示します。

Call Server Stats RT Max Threads

同時に存在するスレッド プールのスレッドの最大数を表示します。

Call Server Stats RT Core Pool Threads

アイドル状態がどんなに長くなっても絶対に破棄されないスレッド プールのスレッド数を表示します。

コール サーバ IVR の集約統計

1 秒間の間隔に取得される最大および平均の HTTP 要求、受信される HTTP 要求の合計、最大コール集約、および処理される HTTP の最大要求を表示します。

Call Server Stats IVR Max HTTP Req Sec Inter Aggregate Statistics

IVR サービスによって 1 秒間に同時に処理される HTTP 要求の現在の数を表示します。IVR サービスの開始以降に同時に処理されたアクティブな HTTP 要求の最大数。これは最高水準マーキングとも呼ばれます。

Call Server Stats IVR Max HTTP Requests Inter Aggregate Statistics

IVR サービスによって同時に処理される HTTP 要求の現在の数を表示します。

Call Server Stats IVR Avg HTTP Req Sec Inter Aggregate Statistics

IVR サービスによって 1 秒間に同時に処理される HTTP 要求の平均数を表示します。

Call Server Stats IVR Max Calls Agg

サービスの開始以降に IVR サービスによって同時に処理されたコールの最大数を表示します。

Call Server Stats IVR Total HTTP Req Agg

すべてのクライアントから受信した HTTP 要求の数を表示します。このメトリックは、システムの開始以降に IVR サービスが受信した HTTP 要求の合計数です。

コールサーバ IVR のコール間隔統計

コールの終了間隔、最大コール間隔、最小コール遅延間隔、新しいコール間隔、平均コール遅延間隔、および最大コール遅延間隔の統計を表示します。

Call Server Stats IVR Calls Finished Inter

この間隔中に終了した Unified CVP コールの数を表示します。Call Finished メトリックのために、コールにはスイッチレグと Unified CVP コールの IVR レグの両方が含まれます。コールの両方のレグが終了すると、*Calls Finished* メトリックが増加します。

Call Server Stats IVR Max Calls Inter

この間隔の間に IVR サービスで同時に処理されたコールの最大数を表示します。

Call Server Stats IVR Min Call Latency Inter

IVR サービスが New Call Request または Request Instruction Request を処理するのにかかる最短の時間（ミリ秒）を表示します。

Call Server Stats IVR New Calls Inter

IOS ゲートウェイから受信した New Call 要求の数を表示します。New Call には、コールのスイッチレグ、およびコールの IVR レグが含まれています。このメトリックは、IVR サービスで受信する New Call Request の数をカウントします。

Call Server Stats IVR Avg Call Latency Inter

IVR サービスが New Call または Call Result Request を処理するのにかかる平均時間（ミリ秒）を表示します。

Call Server Stats IVR Max Call Latency Inter

IVR サービスが New Call Request または Request Instruction Request を処理するのにかかる最短の時間（ミリ秒）を表示します。

コールサーバ IVR の HTTP 間隔統計

1 秒間の間隔に取得される最大および平均の HTTP 要求と、最大およびアクティブな HTTP 要求の間隔統計を表示します。

Call Server Stats IVR Max HTTP Req Sec Inter

IVR サービスが 1 秒間にすべてのクライアントから受信する HTTP 要求の数を表示します。1 秒あたりのピーク HTTP 要求は、ある 1 秒間に IVR サービスが処理した HTTP 要求の最大数です。これは最高水準マーキングとも呼ばれます。

Call Server Stats IVR Max HTTP Requests Inter

この時間間隔において IVR サービスがクライアントから受信した HTTP 要求の最大数を表示します。

Call Server Stats IVR Avg HTTP Req Sec Inter

IVR サービスが 1 秒間に受け取る HTTP 要求の平均数を表示します。

Call Server Stats IVR Active HTTP Requests Inter

IVR サービスによって同時に処理されている HTTP 要求の現在の数を表示します。ピークアクティブ要求は、この時間間隔において IVR サービスが同時に処理している HTTP 要求の最大数を表すメトリックです。

コールサーバ IVR のリアルタイム統計

IVR のアクティブ コールおよびアクティブな HTTP 要求の統計を表示します。

Call Server Stats IVR Active Calls

IVR サービスによって処理されているアクティブ コールの数を表示します。

Call Server Stats IVR Active HTTP Requests

IVR サービスによって処理されているアクティブ HTTP 要求の数を表示します。

コールサーバ SIP エージェントのグリーティング集約統計

応答されたグリーティングの合計、および失敗したグリーティングの合計を表示します。

Call Server Stats SIP Total Greeting Answered

システムの開始時間以降に、エージェントのグリーティングが成功したコールの合計数を表示します。

Call Server Stats SIP Total Greeting Failed

システムの開始時間以降に、エージェントのグリーティングが失敗したコールの合計数を表示します。

コールサーバ SIP エージェントのグリーティング間隔統計

応答された間隔グリーティング、および失敗した間隔グリーティングの統計を表示します。

Call Server Stats SIP Int Greeting Answered

間隔中にエージェント グリーティングが成功したコールの数を表示します。

Call Server Stats SIP Int Greeting Failed

間隔中にエージェント グリーティングが失敗したコールの数を表示します。

コールサーバ SIP の集約統計

最初および 2 回目の集約の平均 LAT、集約前後に失敗した XFR、集約後に受信した接続、および NC subs の集約統計に関する情報を表示します。

Call Server Stats SIP Avg LAT Second Agg

2 回目以降の転送で応答されたコールの平均遅延の計算が表示されます。

Call Server Stats SIP Fail XFR Post Agg

開始時間以降にコールの受信または送信ログで失敗した再招待要求の数を表示します。再招待メッセージは、SIP ダイアログが確立された後で転送を実行します。再招待の要求は、エンドポイントから発生するか、または Unified CVP 転送によって Unified ICME スクリプトから開始されます。このカウンタには、再招待要求の失敗が含まれます。

Call Server Stats SIP Conn Recpt Post Agg

システムの開始時間以降、Unified CVP の転送を実行するために SIP サービスで受信した Connect メッセージの数を表示します。Connects Received には、通常の Unified CVP の転送と Refer の転送が含まれています。ICM サービスから生じるラベルは、VRU へ送信されるものでも、エージェントへ転送されるものでも、Connect メッセージになります。

Call Server Stats SIP Avg LAT First Agg

最初の転送で応答されたコールの平均遅延の計算が表示されます。

Call Server Stats SIP Fail XFR Pre Agg

システムの開始時間以降、最初の CVP 転送で失敗した転送の合計数を表示します。最初の CVP 転送が終了した後で SIP ダイアログが確立されます。メトリックには、SIP のサービス停止による拒否は含まれません。メトリックには、CONNECT メッセージにおいて ICM からラベルが返された後で失敗した転送も含まれます。

Call Server Stats SIP NC Subs Agg

システムの開始時間以降、Unified CVP で受信した SIP Invite メッセージの数を表示します。これには、失敗したコール、SIP サービスが使用不可であるために拒否されたコールも含まれます。

コールサーバ SIP 間隔統計

接続が受信された間隔、NCsubs の間隔、平均 LAT 秒間隔、失敗した XFR の間隔の前後、コール後に応答した間隔の統計を表示します。

Call Server Stats SIP Conn Recpt Inter

最後の統計集約の間隔で、Transfer をコールするために SIP サービスが受信した CONNECT メッセージの数を表示します。Connects Received には、通常の Unified CVP の転送と Refer の転送が含まれています。ICM サービスから生じるラベルは、VRU へ送信されるものでも、エージェントへ転送されるものでも、CONNECT メッセージと見なされます。

Call Server Stats SIP NC Subs Inter

現在の間隔において Unified CVP が受信した SIP Invite メッセージの数を表示します。これには、失敗したコール、SIP サービスが使用不可であるために拒否されたコールも含まれます。

Call Server Stats SIP Avg LAT Second Inter

ICM から CONNECT が発信されたときから、コールに応答されるまでの時間を表示します。メトリックには、最後の統計集約間隔で応答されたコールの平均遅延の計算が含まれます。

Call Server Stats SIP Int Post Call Answered

間隔中に応答されたサービス コールの数を表示します。

Call Server Stats SIP Fail XFR Post Inter

間隔中にコールの受信または送信ログのいずれかにおいて失敗した再招待要求の数を表示します。再招待メッセージは、SIP ダイアログが確立された後で転送を実行します。再招待の要求は、エンドポイントから発生するか、または Unified CVP 転送によって Unified ICME スクリプトから開始されます。このカウンタには、両方の種類の再招待要求の失敗が含まれます。

Call Server Stats SIP Fail XFR Pre Inter

システムの開始時間以降、失敗した SIP 転送の数を表示します。Unified CVP がコールの最初の宛先へ転送しようとする場合、最初の INVITE 要求を送信して、ICM ヘルパーティングされている宛先ラベルを発信者に設定します。メトリックには、SIP サービスが実行されていないことによる拒否は含まれません。メトリックには、CONNECT メッセージにおいて ICM Server からラベルが返された後で失敗した転送も含まれます。

コール サーバ SIP リアルタイム統計

グリーティング コール、アクティブ コール、ウィスパー コール、およびコールの合計の数を表示します。

Call Server Stats SIP Greeting Calls

SIP サービスが処理するグリーティング コールの合計数を表示します。

Call Server Stats SIP Active Calls

SIP サービスが処理中のコールの件数を表すリアルタイムのスナップショットメトリックを表示します。

Call Server Stats SIP Whisper Calls

SIP サービスが処理するウィスパー コールの合計数を表示します。

Call Server Stats SIP Total Calls

SIP サービスが処理中のコールの合計数を表示します。メトリックには、着信、発信、および呼び出し音のタイプのコールが含まれます。SIP サービスの各アクティブ コールには、転送ラベルの宛先に対する着信コールと発信コールがあります。

コール サーバ SIP ウィスパー アナウンスメントの間隔統計

応答された間隔ウィスパー、および失敗した間隔ウィスパーの統計を表示します。

Call Server Stats SIP Int Whisper Failed

間隔中にウィスパー アナウンスメントが失敗したコールの数を表示します。

Call Server Stats SIP Int Whisper Answered

間隔中にウィスパー アナウンスメントが成功したコールの数を表示します。

コール サーバ SIP ウィスパー アナウンスメントの統計

応答されたウィスパーの合計、および失敗したウィスパーの合計を表示します。

Call Server Stats SIP Total Whisper Answered

システムの開始時間以降にウィスパー アナウンスが成功したコールの合計数を表示します。

Call Server Stats SIP Total Whisper Failed

システムの開始時間以降に、ウィスパーアナウンスメントが失敗したコールの合計数を表示します。

VXML インフラストラクチャ JVM メモリのリアルタイム統計

JVMで利用可能なリアルタイムのメモリ、メモリ合計、現在のメモリ使用状況、稼働時間、およびピーク時のメモリ使用率に関する情報を表示します。

VXML Server Stats RT JVM Avail Mem

Java 仮想マシンで使用できるメモリの量を表示します。報告される数はメガバイト単位で、Java 仮想マシンで要求される現在のシステム メモリのうち、どのくらいが使用されていないかを表します。

VXML Server Stats RT JVM Total Mem

Java 仮想マシンで使用できるメモリの量 (MB) を表示します。この数は、Java 仮想マシンに対してどのくらいのシステム メモリを使用できるかを表します。

VXML Server Stats RT JVM Current Mem Usage

Java 仮想マシンで使用されている現在のメモリ (MB) を表示します。

VXML Server Stats RT JVM Uptime

Java 仮想マシンが稼働した時間を表示します。この時間は hh:mm:ss で測定され、Java 仮想マシンのプロセスが開始されてから経過した時間を表します。

VXML Server Stats RT JVM Peak Mem Usage

起動してから Java 仮想マシンで使用されたメモリの最大量を表示します。報告される数はメガバイトの単位で、この Java 仮想マシンで同時に使用された、これまでで最大のメモリ量を表します。

VXML インフラストラクチャ JVM スレッドのリアルタイム統計

現在使用されているスレッドの数と、Java 仮想マシンで同時に使用されたピークのスレッド数を表示します。

VXML Server Stats RT JVM Threads in Use

Java 仮想マシンで現在使用されているスレッドの数を表示します。この数には、Unified CVP のスタンドアロンとスレッドプールのすべてのスレッド、および同じ JVM 内で実行中の Web アプリケーション サーバで作成されたスレッドが含まれています。

VXML Server Stats RT JVM Peak Threads

起動してから Java 仮想マシンで同時に使用されたスレッドの最大量を表示します。Java 仮想マシンで使用されたピーク時のスレッド数には、Unified CVP スタンドアロンとスレッドプールのすべてのスレッド、および同じ JVM 内で実行中の Web アプリケーション サーバで作成されたスレッドが含まれています。

VXML インフラストラクチャスレッド プールのリアルタイム統計

リアルタイムのアイドルプールスレッド、コアプールスレッド、使用された最大スレッド、実行プールスレッド、および最大スレッドの統計を表示します。

VXML Server Stats RT Idle Pool Threads

処理を待機しているアイドル状態のスレッドの数を表示します。

VXML Server Stats RT Core Pool Threads

アイドル状態がどんなに長くなっても絶対に破棄されないスレッドプールのスレッド数を表示します。

VXML Server Stats RT Max Threads Used

処理を実行するように同時にタスクを割り当てられたスレッドプールスレッドの最大数を表示します。

VXML Server Stats RT Running Pool Threads

処理を実行中のスレッドプールスレッドの数を表示します。

VXML Server Stats RT Max Threads

同時に存在するスレッドプールスレッドの最大数を表示します。

VXML サーバの集約統計

セッションの集約合計、ロックアップの成功集約、ロックアップの応答集約、ロックアップの失敗集約、ロックアップの要求集約、およびレポート イベントの集約統計を表示します。

VXML Server Stats Total Sessions Agg

起動後の Unified CVP VXML サーバ内のセッション数を表示します。

VXML Server Stats ICM Lookup Successes Agg

起動後の Unified CVP VXML サーバから ICM Service への要求の数を表示します。ICM ルックアップ要求が成功するたびに、このメトリックが 1 だけ増加します。

VXML Server Stats ICM Lookup Responses Agg

起動後に ICM Service が Unified CVP VXML サーバへ送信した応答の数を表示します。1 つの ICM ルックアップ要求につき（成功、失敗のいずれの場合でも）、このメトリックが 1 だけ増加します。1 つの要求に対して複数の応答メッセージが Unified CVP VXML サーバへ送信された場合、このメトリックは ICM Service からの応答メッセージごとに増加します。

VXML Server Stats ICM Lookup Failures Agg

起動後の Unified CVP VXML サーバから ICM Service への要求の数を表示します。ICM ルックアップ要求が失敗するたびに、このメトリックが 1 だけ増加します。このメトリックは、ICM 失敗のメッセージが受信された場合、または Unified CVP VXML サーバで失敗メッセージを生成した場合に増加します。

VXML Server Stats ICM Lookup Requests Agg

Unified CVP VXML サーバから ICM Service への要求の数を表示します。1 つの ICM ルックアップ要求につき（成功、失敗のいずれの場合でも）、このメトリックが 1 だけ増加します。

VXML Server Stats Reporting Events Agg

起動後の Unified CVP VXML サーバから送信されたレポート イベントの数を表示します。

VXML サーバの間隔統計

レポートイベントの間隔、ルックアップの成功間隔、ルックアップの要求間隔、ルックアップの応答間隔、ルックアップの失敗間隔、およびセッション間隔の統計を表示します。

VXML Server Stats Reporting Events Inter

Unified CVP VXML サーバから Reporting Server へ送信されたイベントの数を表示します。

VXML Server Stats ICM Lookup Success Inter

現在の間隔で Unified CVP VXML サーバから ICM Service への成功した要求の数を表示します。

VXML Server Stats ICM Lookup Request Inter

Unified CVP VXML サーバから ICM Service への要求の数を表示します。

VXML Server Stats ICM Lookup Responses Inter

ICM Service が Unified CVP VXML サーバへ送信した、失敗および成功の ICM ルックアップ要求への応答の数を表示します。1 つの要求に対して複数の応答メッセージが Unified CVP VXML サーバへ送信された場合、このメトリックは ICM Service からの応答メッセージごとに増加します。

VXML Server Stats ICM Lookup Failure Inter

現在の間隔で Unified CVP VXML サーバから ICM Service への要求の数を表示します。このメトリックは、ICM 失敗のメッセージが受信された場合、または Unified CVP VXML サーバで失敗メッセージを生成した場合に増加します。

VXML Server Stats Session Inter

Unified CVP VXML サーバ内のセッション数を表示します。

VXML サーバのリアルタイム統計

アクティブな ICM ルックアップ要求の数およびアクティブセッションの統計を表示します。

VXML Server Stats Active ICM Lookup Requests

現在 Unified CVP VXML サーバが処理している ICM 要求の数を表示します。

VXML Server Stats VXML Active Sessions

現在 Unified CVP VXML サーバが処理しているセッションの数を表示します。

Unified Contact Center Enterprise (Unified CCE)

Cisco Prime Collaboration Assurance には Unified CCE ダッシュボードがあります。これはシステムで定義されており、Unified CCE を追加するときに使用できます。また、モニタリングのニーズに基づいてカスタム ダッシュボードを作成することができます。パフォーマンス カウンタの詳細については、『[Serviceability Best Practices Guide for Cisco Unified ICM/Contact Center Enterprise](#)』を参照してください。

ダッシュボードを表示するには、[Monitor] > [System View] > [Performance] を選択し、[Cluster] ドロップダウンリストから CCE とクラスタを選択し、[Dashboard] ドロップダウンリストから必要なダッシュボードを選択します。選択したダッシュボードに関連する情報が別のダッシュレットに表示されます。各ダッシュレットには、サーバの詳細、現在の使用状況、および直前の 3 分間に受け取った最大値が表示されます。



(注) データを Cisco Prime Collaboration Assurance の Unified CCE で表示するには、Unified Contact Center Enterprise が機能している必要があります。

システム概要

メモリ合計、1秒あたりのページフォールト、処理件数、Cisco ICM ルータ コール、およびサービスに関する情報を表示します。

Total Memory

システム上の仮想メモリの使用率の合計量を表示します。

Page Faults Per Second

1秒あたりのページフォールトの平均数を表示します。これは1秒間に失敗したページ数で測定されます。それぞれのフォールト動作で障害が発生するのは1ページのみで、ページ数はページのフォールト動作の数と同じになるためです。

Handle Count

このプロセスによって現在オープンしているハンドルの合計数を表示します。この数は、対象プロセスの各スレッドによって現在オープンしているハンドルの合計と同じです。

Cisco ICM Router Calls

1秒間に受信したコールの数で測定された、(算出された)着信コールレートを表示します。

Services

サービスの名前、ステータス(サービスが起動しているか、ダウンしているか、管理者によってアクティブ化されたか、停止されたか、開始しているか、停止しているか、または不明な状態か)、およびサーバ、または(該当する場合は)クラスタ内の特定のサーバのサービスが特定の状態にある間に経過した時間を表示します。

CTI SVR エージェントのステータス

待受中および待受停止のエージェント カウント、ログインおよびログアウトのエージェント カウント、通話中のエージェント カウント、および後処理後待受停止エージェント カウントを表示します。

Ready Agent Count

ログインしており、コールを受け取る準備ができていないエージェントの数を表示します。

Work Not Ready Agent Count

最後のコールに関連付けられている処理を実行中のエージェント。このエージェントは、コールに接続されないことを意味します。これらのエージェントは、この状態を終了しても、追加のコールを受け取るための準備ができていません。

Not Ready Agent Count

ログインしているけれども、着信コールの受け取り以外のタスクを実行中であるエージェントの数を表示します。

Logged In Agent Count

ログインしたエージェントを表示します。これらのエージェントがコールの受け取り準備ができていることを示しているとは限りません。

Talking Agent Count

着信または発信のコールを実行中のエージェントの数を表示します。

Logged Out Agent count

システムからログアウトしたエージェントの数を表示します。この数は、何らかの状態の不一致が発生して統計を検証する場合に役に立ちます。

CTI SVR のセッションステータス

クローズしたセッション、失敗したセッション、不明なセッション、オープンしたセッション、セッションの合計、およびオープンしているセッションを表示します。

Sessions Closed

CTI Server によって終了したセッションの合計数を表示します。

Sessions Failed

ハートビートが見つからない、オープン要求のタイムアウト、セッションが活動していない、などのさまざまな理由で失敗したセッションの数を表示します。これらのタイマーは、CTI Server で設定可能なパラメータです。

Sessions Unknown

ソケットがまだ接続されていないセッションの数を表示します。

Sessions Open

正常にセットアップされたセッションの数を表示します。

Total Sessions

CTI Server によって保持されているセッションの合計数を表示します。

Sessions Opening

接続の設定中であるセッションの数を表示します。

CTI SVR コール カウント

アクティブコールカウント、プライベートコールカウント、クリアしたコールカウント、およびアクティブではないコールカウントを表示します。

Active Call Count

現在進行中のコールの数を表示します。

Private Call Count

CTI Server によって非公開で追跡され、OPC にはレポートされないコールの数を表示します。

Cleared Call Count

システムにはすでに存在していないコールの数を表示します。

Deactivated Call Count

現在アクティブではなく、最終的にクリアされるコールの数を表示します。

EAPIM コールとメッセージ数

1 秒間のコール、1 秒間のメッセージ、無効なコール数、エージェント数、コール数、および送信されたメッセージを表示します。

Calls Per Sec

1 秒あたりの着信コールの数を表示します。

Messages Per Sec

コールイベントの数、1 秒間に JTAPI Gateway と CM PIM 間で交換されたエージェントイベントの数を表示します。

Invalid Call Count

有効なコール状態のいずれにも該当しないコールの数を表示します。

Agent Count

システムで現在設定されているエージェントの数を表示します。

Call Count

進行中のコールの数を表示します。

Messages Sent

今日送信されたコールイベントの数、エージェントイベントの数、および CSTA メッセージの数を表示します。

OPC SideA エージェント カウント

sideA エージェント カウント、後処理後待受および後処理後待受停止の sideA エージェント カウント、待受中および待受停止の sideA エージェント カウント、および通話中の sideA エージェント カウントを表示します。

Work Not Ready SideA Agent Count

最後のコールに関連付けられている処理を実行中のエージェントを表示します。このエージェントは、コールに接続されないことを意味します。これらのエージェントは、この状態を終了しても、追加のコールを受け取るための準備ができていません。

Ready SideA Agent Count

ログインしており、コールを受け取る準備ができていないエージェントの数を表示します。

Not Ready SideA Agent Count

ログインしているけれども、着信コールの受け取り以外のタスクを実行中であるエージェントの数を表示します。

Talking SideA Agent Count

着信または発信のコールを実行中のエージェントの数を表示します。

SideA Agent Count

システムに設定されているエージェントの数を表示します。

Work Ready SideA Agent Count

最後のコールに関連付けられている処理を実行中のエージェントを表示します。これは、このエージェントは現在コールに接続されていませんが、この状態が終了したら、追加のコールを受け取ることができることを表しています。

OPC コール カウント

呼び出し中のコール カウント、失敗したコール カウント、コール カウント、キューイング中のコール カウント、接続されているコール カウント、および開始されたコール カウントを表示します。

OPC Alerting Call Count

デバイスが呼び出し中（音が鳴っている）状態のコールの数を表示します。これは、コールがデバイスへの接続を要求していることを表します。

OPC Failed Call Count

正常な状態の進行が中断されたコールの数を表示します。この状態は通常、デバイスがコールに接続しようとした、またはコールがデバイスに接続しようとした場合に失敗した状況を表します。発信側のデバイスおよびコールへの接続が失敗した、着信側のデバイスおよびコールへの接続が失敗した、コールの作成に失敗した、またはその他の理由が失敗の原因として考えられます。

OPC Call Count

現在アクティブなコールの数を表示します。

OPC Queued Call Count

正常な状態の進行が中断しているコールの数を表示します。この状態は通常2つの状態を表しますが、他にも当てはまる場合があります。1つは、デバイスがコールとの接続を確立しようとしてプロセスが中断されている状態です。もう1つは、コールがデバイスとの接続を確立しようとしてプロセスが中断されている状態です。

OPC Connected Call Count

デバイスがアクティブに参加しているコールの数を表示します。

OPC Initiated Call Count

デバイスがサービスを要求したコールの数を表示します。ほとんどの場合は、これはダイヤル中の状態です。

OPC SideA スキル グループおよびサービス カウント

スキル グループのカウントとサービス カウントを表示します。

OPC Skill Group Count

共通のスキルセットを共有しているため、すべてのエージェントが特定のタイプのコールを処理できるエージェントのグループを表示します。各スキル グループには1つ以上のエージェントが含まれます。ペリフェラルでサポートされている場合、各エージェントは複数のスキルグループのメンバーになることも可能です。このカウンタは、エージェントがサインインで使用できるさまざまなスキル グループの数を表します。

OPC Service Count

コールを処理するよう設定されているサービスの数を表示します。サービスは、発信側が必要とする処理のタイプです。ペリフェラルには、販売、テクニカルサポート、または新しいアカウントを開くために定義されたサービスが付属していることがあります。各サービスには1つ以上のスキルグループがあり、それらのグループのメンバーがサービスを提供できます。各スキル グループは複数のサービスに関連付けることが可能です。

VRUPIM のコールおよびメッセージ カウント

VRUPIM の新しいコール、ルーティング前のコール、VRU でのコール、VRU へのメッセージ、VRU からのメッセージ、および接続のリセット カウントを表示します。

VRUPIM New Calls

新しいコールが Voice Response Unit (VRU) に到達するレートを表示します。新しいコールは、サービス コントロール VRU に到達した時点で ICM スクリプトの制御下にはないコールになります。

VRUPIM Pre Routed Calls

ルーティング前のコールが VRU に到達するレートを表示します。ルーティング前のコールは、サービス コントロール VRU に到達した時点で ICM スクリプトの制御下のコールになります。

VRUPIM Calls at VRU

現在 VRU にあるコールの数を表示します。コールルーティング インターフェイスのみを使用する VRU では、この値はゼロになります。

VRUPIM Messages To VRU

メッセージが VRU へ送信されるレートを表示します。このカウンタは、ICM レジストリで有効になっている場合のみアクティブになります。

VRUPIM Messages From VRU

VRU からメッセージが受信されたレートを表示します。このカウンタは、ICM レジストリで有効になっている場合のみアクティブになります。

VRUPIM Connection Resets

ICM と Voice Response Unit 間の TCP 接続が、アプリケーションの開始以降に、確立された状態からクローズされた状態へ変更された回数を表示します。

ICM ルータ コールのステータス

ルータ内のコール数、ルータのコール数、キュー内のコール数、および進行中のコール数を表示します。

ICM Router Calls in Router

ルータ内のアクティブなコールの数を表示します（処理のために VRU へ送信されたコールやキューイング中のコール、およびルータがルーティングクライアントからの応答を待機しているコールも含まれます）。

ICM Router Calls

1秒間に受信したコールの数で測定された、（算出された）着信コールレートを表示します。

ICM Router Calls In Queue

すべてのネットワークの Voice Response Unit (VRU) 内でキューイング中のコールの数を表示します。これはルータから見ると、キューイングのために VRU へ転送中であるコールも含まれます。

ICM Router Calls In Progress

進行中の（CCE アプリケーションで制御されている）コールの数を表示します。

ICM ルータ ステータス

ルータの拒否率、ルータのサイズ (KB)、処理されたメッセージ、最大および平均の処理時間、および輻輳レベルを表示します。

ICM Router Rejection Percentage

コールレートが高いために拒否されたコールの数を表示します。

ICM Router State Size in KB

現在のルータ状態のサイズ（ルータメモリ内のすべての状態の転送オブジェクトの合計サイズ）を表示します。このサイズはキロバイトで測定されます。一方のルータサイドでサービスが停止して、そのルータサイドがインサービスを返すと、サービスが持続中のルータサイドからインサービスを返したルータサイドへルータの状態が転送されます。

ICM Router Messages Processed

ルータが処理した MDS メッセージの数を表示します。デフォルトでは、このカウンタは無効になっています。

ICM Router Max Process Time in ms

ルータが MDS メッセージの処理にかけた最大時間（ミリ秒）を表示します。

ICM Router Avg Process Time

ルータが MDS メッセージの処理にかけた平均時間を表示します。

ICM Router Congestion Level

コールレートが高いためにキューイングされた、またはブロックされたコールの数を表示します。

ICM ロガー DB の書き込み

書き込みの平均時間、処理された書き込みレコード、およびDB書き込みの数を表示します。

ICM Logger Number of DB Write

履歴ログプロセスにおけるデータベースの書き込み（レコード/行）の数を表示します。これは、カウンタがポーリングされたときにデータベースに書き込まれているものです。

ICM Logger DB Write Average Time

中央コントローラのデータベース内のテーブルにデータを書き込むために必要な平均時間（100 ナノ秒単位）を表示します。この値は、過去の1秒間に発生した書き込み処理において、1回の書き込みにかかる平均時間を表します。この値は、データベースアクセスの競合に対する優れた指標となります。

ICM Logger DB Write Records Processed

過去の1秒間に Historical Logger Process で処理された（データベースに書き込まれた）レコードの数を表示します。

ICM ディストリビュータのリアルタイム エージェント キュー

エージェント キューの深さ、スキル グループのキューの深さ、エージェント DB の書き込み平均時間と処理された書き込みレコード、および処理されたエージェントスキルグループDBの書き込みレコードと書き込み平均時間を表示します。

ICM Distributor Real Time Agent Queue Depth

Real-time Client プロセスの Agent テーブルに対するキューの深さ（保留中の書き込みトランザクションの数）を表示します。

ICM Distributor Real Time Agent Skill Group Queue Depth

Real-time Client プロセスの Agent Skill Group テーブルに対するキューの深さ（保留中の書き込みトランザクションの数）を表示します。

ICM Distributor Real Time Agent DB Write Records Processed

過去の1秒間の間隔に Real-time Client プロセスによって書き込まれた Agent テーブルのレコード数を表示します。

ICM Distributor Real Time Agent DB Write Average Time

過去の1秒間の間隔に Real-time Client プロセスが Agent テーブルのトランザクションの書き込みを処理した平均時間（100 ns 単位）。

ICM Distributor Real Time Agent Skill Group DB Write Average Time

過去の1秒間の間隔に Real-time Client プロセスが Agent Skill Group テーブルのトランザクションの書き込みを処理した平均時間（100 ns 単位）。

ICM Distributor Real Time Agent Skill Group DB Write Records Processed

過去の1秒間の間隔に Real-time Client プロセスによって書き込まれた Agent Skill Group テーブルのレコード数を表示します。

ディストリビュータのリアルタイム ルート DB の書き込み

処理された書き込みレコードの数、キューの深さ、およびルートテーブルの書き込みトランザクションにかかった平均時間を表示します。

ICM Distributor Real Time Route DB Write Average Time

過去の 1 秒間の間隔に Real-time Client プロセスが Route テーブルのトランザクションの書き込みを処理した平均時間（100 ns 単位）。

ICM Distributor Real Time Route DB Write Records Processed

過去の 1 秒間の間隔に Real-time Client プロセスによって書き込まれた Route テーブルのレコード数を表示します。

ICM Distributor Real Time Route Queue Depth

Real-time Client プロセスの Route テーブルに対するキューの深さ（保留中の書き込みトランザクションの数）を表示します。

ディストリビュータのリアルタイム サービス DB の書き込み

サービス DB の処理された書き込みレコード、キューの深さ、および平均時間を表示します。

ICM Distributor Real Time Service DB Write Records Processed

過去の 1 秒間の間隔に Real-time Client プロセスによって書き込まれた Service テーブルのレコード数を表示します。

ICM Distributor Real Time Service Queue Depth

Real-time Client プロセスの Service テーブルに対するキューの深さ（保留中の書き込みトランザクションの数）を表示します。

ICM Distributor Real Time Service DB Write Average Time

過去の 1 秒間の間隔に Real-time Client プロセスが Service テーブルのトランザクションの書き込みを処理した平均時間（100 ns 単位）。

ディストリビュータのリアルタイム スキル グループ DB の書き込み

スキル グループの処理された書き込みレコード、平均時間、およびキューの深さを表示します。

ICM Distributor Real Time Skill Group DB Write Records Processed

過去の 1 秒間の間隔に Real-time Client プロセスによって書き込まれた Skill Group テーブルのレコード数を表示します。

ICM Distributor Real Time Skill Group Queue Depth

Real-time Client プロセスの Skill Group テーブルに対するキューの深さ（保留中の書き込みトランザクションの数）を表示します。

ICM Distributor Real Time Skill Group DB Write Average Time

過去の 1 秒間の間隔に Real-time Client プロセスが Skill Group テーブルのトランザクションの書き込みを処理した平均時間（100 ns 単位）。

ディストリビュータのリアルタイム コールタイプ DB の書き込み

コールタイプ DB の平均書き込み時間、処理されたレコード、およびキューの深さを表示します。

ICM Distributor Real Time Call Type DB Write Average Time

過去の 1 秒間の間隔に Real-time Client プロセスが CallType テーブルのトランザクションの書き込みを処理した平均時間（100 ns 単位）。

ICM Distributor Real Time Call Type DB Records Processed

過去の 1 秒間の間隔に Real-time Client プロセスによって書き込まれた CallType テーブルのレコード数を表示します。

ICM Distributor Real Time Call Type Queue Depth

Real-time Client プロセスの CallType テーブルに対するキューの深さ（保留中の書き込みトランザクションの数）を表示します。

ディストリビュータの Replication DB の書き込み

ディストリビュータのレプリケーション DB の平均時間および処理されたレコード数を表示します。

ICM Distributor Replication DB Write Average Time

過去の 1 秒間の間隔における HDS Replication プロセスのデータベース書き込み処理の平均時間（100 ns 単位）。

ICM Distributor Replication DB Records Processed

過去の 1 秒間の間隔に HDS Replication プロセスによって書き込まれたレコード数を表示します。

Cisco Unified Intelligence Center

Cisco Prime Collaboration Assurance には、システムで定義された Cisco Unified Intelligence Center のダッシュボードがあり、Cisco Unified Intelligence Center を追加すると使用可能になります。Cisco Prime Collaboration Assurance では、モニタリングのニーズに基づいてカスタム ダッシュボードを作成することができます。パフォーマンスカウンタの詳細については、『[Cisco Unified Intelligence Center 用管理コンソール ユーザ ガイド](#)』を参照してください。

ダッシュボードを表示するには、[Monitor] > [System View] > [Performance] と選択し、[Cluster] ドロップダウンリストから [Intelligence Center] とクラスタを選択して、[Dashboard] ドロップダウンリストから必要なダッシュボードを選択します。選択したダッシュボードに関連する情報が別のダッシュレットに表示されます。各ダッシュレットには、サーバの詳細、現在の使用状況、および直前の 3 分間に受け取った最大値が表示されます。

前提条件：

- Cisco Unified Intelligence Center が Cisco Prime Collaboration Assurance で管理されている必要があります。

- Cisco Prime Collaboration Assurance で Cisco Unified Intelligence Center のダッシュボードにデータが表示されるようにするには、Cisco Unified Intelligence Center バージョン 9.x 以降に到達できる必要があります。

次に、Cisco Unified Intelligence Center の新しくサポートされるダッシュボードを示します。

システム概要

CPU 使用率、仮想メモリ使用率、共通パーティションの使用率、重要なサービス ステータスに関する情報を表示します。システム管理者は、[システムの概要 (System Summary)] ダッシュレットをモニタして、システムの応答の遅延を分析することができます。

CPU Usage

過去 3 分間のリアルタイムの CPU 使用率と最大値が表示されます。

制限：他のレポートを使用してプロセスごとにシステムを監視し、どのプロセスが CPU の問題を引き起こしているのかを判断する必要があります。

Virtual Memory Usage

過去 3 分間のリアルタイム仮想メモリの使用状況および最大値が表示されます。

Common Partition Usage

過去 3 分間のリアルタイムの共通パーティションの使用率および最大値が表示されます。

Services

サービスの名前、ステータス（サービスが起動しているか、ダウンしているか、管理者によってアクティブ化されたか、停止されたか、開始しているか、停止しているか、または不明な状態か）、およびサーバ、または（該当する場合は）クラスタ内の特定のサーバのサービスが特定の状態にある間に経過した時間を表示します。



- (注) サービス ステータスが [Unknown State] と表示された場合は、システム サービスの状態を特定できません。

CPU およびメモリ

サーバの CPU 使用率、仮想メモリ使用率、メモリ使用率、プロセッサに関する情報を表示します。

CPU Usage

使用された合計 CPU および最後の 3 分間に使用された最大 CPU を表示します。

Virtual Memory Usage

使用された合計仮想メモリおよび最後の 3 分間に使用された最大仮想メモリを表示します。

Memory Usage

次の情報を表示します。

- [%VMUsed] : システムのシステム仮想メモリ使用状況のパーセンテージを表します。
[% VM Used] カウンタの値は、次の2つの式のいずれかから得られる値と等しくなります。

$$\frac{(\text{Total KBytes} - \text{Free KBytes} - \text{Buffers KBytes} - \text{Cached KBytes} + \text{Shared KBytes} + \text{Used Swap KBytes})}{(\text{Total KBytes} + \text{Total Swap KBytes})}$$

$$\text{Used VM KBytes} / \text{Total VM KBytes}$$

- [Total] : システムのメモリの総量をキロバイト単位で表します。

Used

システムで使用中のシステム物理メモリの容量をキロバイト単位で表します。[UsedKBytes] カウンタの値は、次の式から得られる値と等しくなります。

$$\text{Total KBytes} - \text{Free KBytes} - \text{Buffers KBytes} - \text{Cached KBytes} + \text{Shared KBytes}$$

[Used KBytes] の値は、top コマンドまたは free コマンド出力で表示される [Linux Used] の値とは異なります。Linux の top コマンドまたは free コマンドの出力に示される used 値は、Total KBytes - Free KBytes と等しく、バッファのキロバイト数とキャッシュされたキロバイト数の合計も含んでいます。

Free

システムで使用可能なメモリの総量をキロバイト単位で表します。

Shared

システムの共有メモリの容量をキロバイト単位で表します。

Buffers

システムのバッファの容量をキロバイト単位で表します。

Cached

キャッシュされたメモリの容量をキロバイト単位で表します。

Total Swap

システムのスワップ領域の総量をキロバイト単位で表します。

Used Swap

システムで使用中のスワップ領域の容量をキロバイト単位で表します。

Free Swap

システムで利用可能な空きスワップ領域の容量をキロバイト単位で表します。

Processors

次の情報を表示します。

- [Processor] : プロセッサのインスタンス。たとえば、Quad-Core CPU には、0、1、2、3 の 4 基のプロセッサを備えています。

- [%CPU] : 最後の更新から経過した、アイドル時間を除く CPU 時間のプロセッサの共有。CPU 時間のパーセンテージとして表現されます。
- [User] : CPU がユーザ レベル (アプリケーション) での実行に要した CPU 使用率をパーセンテージで表示します。
- [Nice] : CPU が nice 優先順位のユーザ レベルでの実行に要した CPU 使用率をパーセンテージで表示します。
- [System] : CPU がシステム レベル (カーネル) での実行に要した CPU 使用率をパーセンテージで表示します。
- [Idle] : CPU がアイドル状態にあり、システムに未処理のディスク I/O 要求がなかった時間のパーセンテージを表示します。
- [IRQ] : 割り込みのためにデバイスに割り当てられた、または処理終了時にコンピュータに信号送信するための割り込み要求の実行にプロセッサが要した時間のパーセンテージを表示します。
- [Soft IRQ] : タスク切り替えを後に遅延させ、パフォーマンスを向上させるためにソフトウェアの割り込み (softirq) の実行にプロセッサが要した時間のパーセンテージを示します。
- [IO Wait] : システムが未処理のディスク I/O 要求がある間に CPU がアイドル状態だった時間のパーセンテージを表示します。

ディスク使用率

ノードのディスク使用率に関する情報を表示します。これには、ダッシュレットとして [Common Partition Usage]、[Swap Partition Usage]、[Spare Partition Usage]、[Shared Memory Partition Usage]、[Active Partition Usage]、[Boot Partition Usage] があります。

各ダッシュレットには次の情報が表示されます。

Used

このファイルシステムで使用中のディスク領域のパーセンテージを表します。

Max Past 3 min

過去 3 分間のこのファイルシステムで使用中のディスク領域をパーセンテージで表します。

Used Space

このファイルシステムで使用中のディスク領域の容量をメガバイト単位で表します。

Total Space

このファイルシステムにあるディスク領域全体の容量をメガバイト単位で表します。このカウンタの数値は、システムで確認できるディスク領域のほかの合計サイズ値とは異なる場合があります。これは、[Total Mbytes] カウンタの値が [Used Mbytes] パフォーマンス カウンタと CLI (ステータスを表示) 出力で示される [Free] の値の合計であるためです。[Total Mbytes] の値は、予約済みのファイルシステムのディスク ブロックの最小空き容量

のパーセンテージを含んでいる [Total] に対するこの CLI 出力未満になります。ファイルシステムが高効率で動作するための十分なディスク領域容量が確保されるよう、最小空き容量を維持します。

プロセス

ノードで実行されているプロセスに関する情報を表示します。

Process

プロセスの名前

PID

タスクの一意的プロセス ID。定期的にラッピングされますが、0 で再開されることはありません。

& CPU

最後の更新以降に経過した CPU 時間のタスクの共有で、CPU 総時間のパーセンテージで表されます。

Status

タスクのプロセス ステータス：

- 0 : 実行中です。
- 1 : スリープ状態
- 2 : 無停電ディスクのスリープ
- 3 : ゾンビ
- 4 : トレースまたは停止 (信号)
- 5 : ページング
- 6 : 不明

Shared Memory

タスクが使用している共有メモリのキロバイト (KB) 単位の量です。他のプロセスが同じメモリを共有することも可能です。

Nice

タスクの Nice 値。負の Nice 値はプロセスの優先順位が高いことを示し、正の Nice 値はプロセスの優先順位が低いことを表します。Nice 値が 0 の場合、タスクを実行するかどうか判断するときに優先順位を調整しないでください。

VmRSS

コード、データ、およびスタックなどを含む、現在物理メモリ内にある仮想メモリ (Vm) の常駐セット サイズ (RSS) (KB 単位)。

VmSize

タスクが使用している仮想メモリ総量 (KB 単位)。これには、すべてのコード、データ、共有ライブラリ、およびスワップアウトされたページが含まれます (仮想イメージ = スワップ サイズ + 常駐サイズ)。

VmData

タスクのヒープの仮想メモリ使用状況 (KB 単位)。

Thread Count

現在タスクでグループ化されているスレッドの数。負の値 -1 は、システムのすべてのプロセスおよびスレッドがデフォルトのしきい値を超過したために、スレッド統計情報 (Thread オブジェクトのすべてのパフォーマンス カウンタと、Process オブジェクトの Thread Count カウンタを含む) がオフになったため、このカウンタが現在利用できないことを示します。

Datastack Size

タスク メモリ ステータスのスタック サイズ。

Page Fault Count

タスクで発生し、データをメモリにロードすることが必要になったメジャーページフォールの数を表します。

集約された履歴データ

レポート エンジン情報のレポート履歴実行時間の合計に関する情報を表示します。

Reporting Engine Info Report Historical Runtime Total

レポートの実行にかかった時間の合計 (秒) を表示します。

Tomcat

Tomcat は、Tomcat の非セキュアおよびセキュアな Hypertext Transport Protocol (HTTP) コネクタに関する情報を提供します。Tomcat Connector は、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。

このコネクタは、Cisco Unified Intelligence Center の Web ページにアクセスするときに発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。

ここでは、受信した MByte 数、送信した MByte 数、スレッド ビジー、スレッド最大、コネクタ エラー、コネクタ要求に関する情報を表示します。

Cisco Tomcat Connector MBytes Received

Tomcat コネクタが受信したデータの合計数を表示します。

Cisco Tomcat Connector MBytes Sent

Tomcat コネクタが送信したデータの合計数を表示します。

Cisco Tomcat Connector Threads Busy

要求処理スレッドがビジー/使用中である現在の Tomcat コネクタの数を表示します。

Cisco Tomcat Connector Threads Max

要求処理スレッドの Tomcat コネクタの最大数を表示します。

Cisco Tomcat Connector Errors

Tomcat コネクタで発生した HTTP エラー（401 Unauthorized など）の合計数を表示します。

Cisco Tomcat Connector Requests

Tomcat コネクタが処理した要求の合計数を表示します。

ライブデータ

処理されたライブメッセージ、処理されたライブメッセージのサイズ、処理中のライブメッセージの遅延、受信したライブメッセージのサイズ、受信したライブメッセージ、および送信したライブメッセージに関する情報を表示します。

Reporting Engine Info Live Messages Processed

OpenFire に対して処理された Live Data メッセージの合計数を表示します。

Reporting Engine Info Live Messages Processed Size

OpenFire に対して処理中の Live Data メッセージの合計サイズ（バイト）を表示します。

Reporting Engine Info Live Messages Processing Latency

OpenFire に対する Live Data の処理で使用した合計時間（ミリ秒）を表示します。

Reporting Engine Info Live Messages Received Size

ストリーミングデータ ソースから受信した Live Data メッセージの合計サイズ（バイト）を表示します。

Reporting Engine Info Live Messages Received

ストリーミングデータ ソースから受信した Live Data メッセージの合計数を表示します。

Reporting Engine Info Live Messages Transmitted

ストリーミングデータ ソースから送信された Live Data メッセージの合計数を表示します。

Tomcat JVM

Tomcat Java Virtual Machine (JVM) オブジェクトは、Tomcat JVM に関する情報を提供します。これは特に、Unified Intelligence Center が使用する共通リソースメモリのプールを表示します。

空きメモリ（KB）、最大メモリ（KB）、および合計メモリ（KB）に関する情報を表示します。

Cisco Tomcat JVM KBytes Memory Free

Tomcat Java Virtual Machine の動的メモリブロック（ヒープメモリ）の空き容量を表示します。動的メモリブロックには、Tomcat およびその Web アプリケーションである Unified Intelligence Center などで作成されたすべてのオブジェクトが保存されます。動的メモリの空き容量が少なくなると、追加のメモリが自動的に割り当てられ、（KbytesMemoryTotal カウンタに表示される）合計メモリサイズが（KbytesMemoryMax カウンタに表示される）

最大容量まで増加します。使用中のメモリ容量は、KbytesMemoryTotal から KBytesMemoryFree の値を減算することで判断できます。

Cisco Tomcat JVM KBytes Memory Max

Unified Intelligence Center Tomcat Java Virtual Machine の動的メモリ ブロックの最大サイズを表示します。

Cisco Tomcat JVM KBytes Memory Total

Tomcat Java Virtual Machine の動的メモリ ブロックの現在の（空きメモリと使用中のメモリを含めた）合計サイズを表示します。

リアルタイム データ

取得されたレポートリアルタイムのセル数、完了したレポートリアルタイム、実行中のレポートリアルタイム、レポートリアルタイムの実行時間、待機中のレポートリアルタイム、および取得されたレポートリアルタイムの行数を表示します。

Reporting Engine Info Report Realtime Cells Retrieved

すべてのデータ ソースから取得されたセルの合計数（行と列の乗算）を表示します。

Reporting Engine Info Report Realtime Completed

正常に実行されたレポートの合計数を表示します。

Reporting Engine Info Report Realtime Running

現在実行中のレポートの数を表示します。Runnable オブジェクトがプールからスレッドを割り当てられている場合、レポートは現在実行中です。これには、使用可能になるまでスレッドの待ち行列で待機しているレポートは含まれません。

Reporting Engine Info Report Realtime Runtime

レポートの実行にかかった時間の合計（秒）を表示します。

Reporting Engine Info Report Realtime Waiting

現在待ち行列で実行を待機しているレポートの合計数を表示します。

Reporting Engine Info Report Realtime Rows Retrieved

Unified Intelligence Center によりデータ ソースから取得された行の合計数を表示します。

リアルタイムの間隔

間隔で取得されたレポートリアルタイムのセル数、間隔で完了したレポートリアルタイム、間隔で実行中のレポートリアルタイム、間隔でのレポートリアルタイムの実行時間、間隔で待機中のレポートリアルタイム、および間隔で取得されたレポートリアルタイムの行数に関する情報を表示します。

Reporting Engine Info Report Realtime Cells Retrieved Interval

直前の間隔ですべてのデータ ソースから取得されたセルの合計数（行と列の乗算）を表示します。

Reporting Engine Info Report Realtime Completed Interval

直前の間隔での完了したカウンタ レポート (H/RT) の変更を表示します。

Reporting Engine Info Report Realtime Running Interval

レポート (H/RT) 実行カウンタの間隔測定値を表示します。

Reporting Engine Info Report Realtime Runtime Interval

直前の間隔でのカウンタ レポート (H/RT) ランタイムの変更を表示します。

Reporting Engine Info Report Realtime Waiting Interval

直前の間隔でのカウンタ ReportRealtimeWaiting の変更を表示します。

Reporting Engine Info Report Realtime Rows Retrieved Interval

レポート (H/RT) の RowsRetrievedTotal カウンタの間隔測定値を表示します。

履歴データ

取得されたレポート履歴セル、完了したレポート履歴、取得されたレポート履歴行、実行中のレポート履歴、レポート履歴ランタイム、および待機中のレポート履歴を表示します。

Reporting Engine Info Report Historical Cells Retrieved

すべてのデータ ソースから取得されたセルの合計数 (行と列の乗算) を表示します。

Reporting Engine Info Report Historical Completed

正常に実行されたレポートの合計数を表示します。

Reporting Engine Info Report Historical Rows Retrieved

Unified Intelligence Center によりデータ ソースから取得された行の合計数を表示します。

Reporting Engine Info Report Historical Running

現在実行中の (H/RT) レポートの数を表示します。Runnable オブジェクトがプールからスレッドを割り当てられている場合、レポートは現在実行中です。これには、使用可能になるまでスレッドの待ち行列で待機しているレポートは含まれません。

Reporting Engine Info Report Historical Runtime

レポートの実行にかかった時間の合計 (秒) を表示します。

Reporting Engine Info Report Historical Waiting

現在待ち行列で実行を待機しているレポートの合計数を表示します。

履歴データの間隔

間隔で取得されたレポート履歴のセル数、間隔で完了したレポート履歴、間隔で取得されたレポート履歴の行数、間隔で実行中のレポート履歴、間隔でのレポート履歴の実行時間、および間隔で待機中のレポート履歴に関する情報を表示します。

Reporting Engine Info Report Historical Cells Retrieved Interval

直前の間隔ですべてのデータ ソースから取得されたセルの合計数 (行と列の乗算) を表示します。

Reporting Engine Info Report Historical Completed Interval

直前の間隔での完了したカウンタ レポート (H/RT) の変更を表示します。

Reporting Engine Info Report Historical Rows Retrieved Interval

レポート (H/RT) の RowsRetrievedTotal カウンタの間隔測定値を表示します。

Reporting Engine Info Report Historical Running Interval

レポート (H/RT) 実行カウンタの間隔測定値を表示します。

Reporting Engine Info Report Historical Runtime Interval

直前の間隔でのカウンタ レポート (H/RT) ランタイムの変更を表示します。

Reporting Engine Info Report Historical Waiting Interval

直前の間隔でのカウンタ ReportRealtimeWaiting の変更を表示します。

Cisco MediaSense

Cisco Prime Collaboration Assurance には MediaSense ダッシュボードがあります。これはシステムで定義されており、Cisco MediaSense を追加すると使用できます。Cisco Prime Collaboration Assurance では、モニタリングのニーズに基づいてカスタム ダッシュボードを作成することができます。パフォーマンスカウンタの詳細については、『[Cisco MediaSense ユーザガイド](#)』を参照してください。

ダッシュボードを表示するには、[Monitor] > [System View] > [Performance] を選択し、[Cluster] ドロップダウンリストから MediaSense とクラスタを選択し、[Dashboard] ドロップダウンリストから必要なダッシュボードを選択します。選択したダッシュボードに関連する情報が別のダッシュレットに表示されます。各ダッシュレットには、サーバの詳細、現在の使用状況、および直前の 3 分間に受け取った最大値が表示されます。

前提条件：

- Cisco MediaSense は、Cisco Prime Collaboration Assurance で管理する必要があります。
- Cisco MediaSense は、データを Cisco Prime Collaboration Assurance の MediaSense ダッシュボードで表示するには、到達可能にする必要があります。

新しくサポートされる Cisco MediaSense ダッシュボードは次のとおりです。

システム概要

CPU 使用率、仮想メモリ使用率、共通パーティションの使用率、重要なサービス ステータスに関する情報を表示します。システム管理者は、[システムの概要 (System Summary)] ダッシュレットをモニタして、システムの応答の遅延を分析することができます。

CPU Usage

過去 3 分間のリアルタイムの CPU 使用率と最大値が表示されます。

制限：他のレポートを使用してプロセスごとにシステムを監視し、どのプロセスが CPU の問題を引き起こしているのかを判断する必要があります。

Virtual Memory Usage

過去 3 分間のリアルタイム仮想メモリの使用状況および最大値が表示されます。

Common Partition Usage

過去 3 分間のリアルタイムの共通パーティションの使用率および最大値が表示されます。

Services

サービスの名前、ステータス（サービスが起動しているか、ダウンしているか、管理者によってアクティブ化されたか、停止されたか、開始しているか、停止しているか、または不明な状態か）、およびサーバ、または（該当する場合は）クラスタ内の特定のサーバのサービスが特定の状態にある間に経過した時間を表示します。



(注) サービスステータスが [Unknown State] と表示された場合は、システムサービスの状態を特定できません。

CPU およびメモリ

サーバの CPU 使用率、仮想メモリ使用率、メモリ使用率、プロセッサに関する情報を表示します。

CPU Usage

使用された合計 CPU および最後の 3 分間に使用された最大 CPU を表示します。

Virtual Memory Usage

使用された合計仮想メモリおよび最後の 3 分間に使用された最大仮想メモリを表示します。

Memory Usage

次の情報を表示します。

- [% VM Used] : システムのシステム仮想メモリ使用状況のパーセンテージを表します。
[% VM Used] カウンタの値は、次の 2 つの式のいずれかから得られる値と等しくなります。

$$\frac{(\text{Total KBytes} - \text{Free KBytes} - \text{Buffers KBytes} - \text{Cached KBytes} + \text{Shared KBytes} + \text{Used Swap KBytes})}{(\text{Total KBytes} + \text{Total Swap KBytes})}$$

$$\text{Used VM KBytes} / \text{Total VM KBytes}$$

- [Total] : システムのメモリの総量をキロバイト単位で表します。

Used

システムで使用中のシステム物理メモリの容量をキロバイト単位で表します。[Used KBytes] カウンタの値は、次の式から得られる値と等しくなります。

$$\text{Total KBytes} - \text{Free KBytes} - \text{Buffers KBytes} - \text{Cached KBytes} + \text{Shared KBytes}$$

[Used KBytes] の値は、top コマンドまたは free コマンド出力で表示される [Linux Used] の値とは異なります。Linux の top コマンドまたは free コマンドの出力に示される used 値は、Total KBytes - Free KBytes と等しく、バッファのキロバイト数とキャッシュされたキロバイト数の合計も含んでいます。

Free

システムで使用可能なメモリの総量をキロバイト単位で表します。

Shared

システムの共有メモリの容量をキロバイト単位で表します。

Buffers

システムのバッファの容量をキロバイト単位で表します。

Cached

キャッシュされたメモリの容量をキロバイト単位で表します。

Total Swap

システムのスワップ領域の総量をキロバイト単位で表します。

Used Swap

システムで使用中のスワップ領域の容量をキロバイト単位で表します。

Free Swap

システムで利用可能な空きスワップ領域の容量をキロバイト単位で表します。

Processors

次の情報を表示します。

- [Processor] : プロセッサのインスタンス。たとえば、Quad-Core CPU には、0、1、2、3 の 4 基のプロセッサを備えています。
- [%CPU] : 最後の更新から経過した、アイドル時間を除く CPU 時間のプロセッサの共有。CPU 時間のパーセンテージとして表現されます。
- [User] : CPU がユーザ レベル (アプリケーション) での実行に要した CPU 使用率をパーセンテージで表示します。
- [Nice] : CPU が nice 優先順位のユーザ レベルでの実行に要した CPU 使用率をパーセンテージで表示します。
- [System] : CPU がシステム レベル (カーネル) での実行に要した CPU 使用率をパーセンテージで表示します。
- [Idle] : CPU がアイドル状態にあり、システムに未処理のディスク I/O 要求がなかった時間のパーセンテージを表示します。
- [IRQ] : 割り込みのためにデバイスに割り当てられた、または処理終了時にコンピュータに信号送信するための割り込み要求の実行にプロセッサが要した時間のパーセンテージを表示します。

- [Soft IRQ] : タスク切り替えを後に遅延させ、パフォーマンスを向上させるためにソフトウェアの割り込み (softirq) の実行にプロセッサが要した時間のパーセンテージを示します。
- [IO Wait] : システムが未処理のディスク I/O 要求がある間に CPU がアイドル状態だった時間のパーセンテージを表示します。

ディスク使用率

ノードのディスク使用率に関する情報を表示します。これには、ダッシュレットとして [Common Partition Usage]、[Swap Partition Usage]、[Spare Partition Usage]、[Shared Memory Partition Usage]、[Active Partition Usage]、[Boot Partition Usage] があります。

各ダッシュレットには次の情報が表示されます。

Used

このファイル システムで使用中のディスク領域のパーセンテージを表します。

Max Past 3 min

過去 3 分間のこのファイル システムで使用中のディスク領域をパーセンテージで表します。

Used Space

このファイル システムで使用中のディスク領域の容量をメガバイト単位で表します。

Total Space

このファイルシステムにあるディスク領域全体の容量をメガバイト単位で表します。このカウンタの数値は、システムで確認できるディスク領域のほかの合計サイズ値とは異なる場合があります。これは、[Total Mbytes] カウンタの値が [Used Mbytes] パフォーマンス カウンタと CLI (ステータスを表示) 出力で示される [Free] の値の合計であるためです。[Total Mbytes] の値は、予約済みのファイル システムのディスク ブロックの最小空き容量のパーセンテージを含んでいる [Total] に対するこの CLI 出力未満になります。ファイル システムが高効率で動作するための十分なディスク領域容量が確保されるよう、最小空き容量を維持します。

プロセス

ノードで実行されているプロセスに関する情報を表示します。

Process

プロセスの名前

PID

タスクの一意のプロセス ID。定期的にラッピングされますが、0 で再開されることはありません。

& CPU

最後の更新以降に経過した CPU 時間のタスクの共有で、CPU 総時間のパーセンテージで表されます。

Status

タスクのプロセス ステータス :

- 0 : 実行中です。
- 1 : スリープ状態
- 2 : 無停電ディスクのスリープ
- 3 : ゾンビ
- 4 : トレースまたは停止 (信号)
- 5 : ページング
- 6 : 不明

Shared Memory

タスクが使用している共有メモリのキロバイト (KB) 単位の量です。他のプロセスが同じメモリを共有することも可能です。

Nice

タスクの Nice 値。負の Nice 値はプロセスの優先順位が高いことを示し、正の Nice 値はプロセスの優先順位が低いことを表します。Nice 値が 0 の場合、タスクを実行するかどうか判断するときに優先順位を調整しないでください。

VmRSS

コード、データ、およびスタックなどを含む、現在物理メモリ内にある仮想メモリ (Vm) の常駐セット サイズ (RSS) (KB 単位)。

VmSize

タスクが使用している仮想メモリ総量 (KB 単位)。これには、すべてのコード、データ、共有ライブラリ、およびスワップアウトされたページが含まれます (仮想イメージ = スワップ サイズ + 常駐サイズ)。

VmData

タスクのヒープの仮想メモリ使用状況 (KB 単位)。

Thread Count

現在タスクでグループ化されているスレッドの数。負の値 -1 は、システムのすべてのプロセスおよびスレッドがデフォルトのしきい値を超過したために、スレッド統計情報 (Thread オブジェクトのすべてのパフォーマンス カウンタと、Process オブジェクトの Thread Count カウンタを含む) がオフになったため、このカウンタが現在利用できないことを示します。

Datastack Size

タスク メモリ ステータスのスタック サイズ。

Page Fault Count

タスクで発生し、データをメモリにロードすることが必要になったメジャーページフォールの数を表示します。

着信コールの分類

録音に分類されるサービス、再生に分類されるサービス、拒否に分類されるサービス、その他に分類されるサービスに関する情報を表示します。

Cisco MediaSense Call Control Service Classified for Recording

録音要求として処理されるコールの数を表示します。

Cisco MediaSense Call Control Service Classified for Playback

再生要求として処理されるコールの数を表示します。

Cisco MediaSense Call Control Service Classified for Reject

設定に基づいて拒否されるコールの数を表示します。

Cisco MediaSense Call Control Service Classified as Anything Else

承認されたけれども再生または録音要求として処理されないコールの数を表示します。

エラー分析

エラーが発生した録音済みセッションのサービス番号、エージェントによる変換要求の拒否、エージェントによる RTSP モニタリング要求の拒否、エージェントによる RTSP 再生要求の拒否、およびエージェントによる未処理ダウンロード要求の拒否に関する情報を表示します。

Cisco MediaSense Call Control Service Number of Recorded Sessions with Errors

録音が完了したが、エラーが発生したセッションの数を表示します。

Cisco MediaSense Storage Management Agent Rejected Convert Requests

拒否された変換要求の数を表示します。

Cisco MediaSense Storage Management Agent Rejected RTSP Monitoring Requests

拒否された RTSP モニタリング要求の数を表示します。

Cisco MediaSense Storage Management Agent Rejected RTSP Playback Requests

拒否された RTSP 再生要求の数を表示します。

Cisco MediaSense Storage Management Agent Rejected Raw Download Requests

拒否された未処理ダウンロード要求の数を表示します。

パフォーマンスの概要

サービスの平均セットアップ遅延、サービスの最大セットアップ遅延、サービスの平均クエリ応答時間、およびサービスの最大クエリ応答時間に関する情報を表示します。

Cisco MediaSense Call Control Service Mean Setup Delay

Unified CM からの SIP Invite の最初の受信と、Unified CM ローリング ウィンドウ時間への SIP 応答との間の平均遅延（ミリ秒単位）を表示します。

Cisco MediaSense Call Control Service Max Setup Delay

Unified CM からの SIP Invite の最初の受信と、Unified CM ローリング ウィンドウ時間への SIP 応答との間の最大遅延（ミリ秒単位）を表示します。

Cisco MediaSense API Service Mean Query Response Time

直前の 1 時間の平均クエリ応答時間を表示します。

Cisco MediaSense API Service Max Query Response Time

直前の 1 時間の最大クエリ応答時間を表示します。

Cisco Unified Contact Center Express

Cisco Prime Collaboration Assurance は、システムが定義し、Unified CCX を追加すると使用可能になる、Cisco Unified Contact Center Express (Unified CCX) ダッシュボードを提供します。Cisco Prime Collaboration Assurance では、モニタリングのニーズに基づいてカスタム ダッシュボードを作成することができます。パフォーマンス カウンタの詳細については、『[Unified Contact Center Express 操作ガイド](#)』を参照してください。

ダッシュボードを表示するには、[監視 (Monitor)] > [システム ビュー (System View)] > [パフォーマンス (Performance)] の順に移動し、[Contact Center Express] を選択してドロップダウンリストから [クラスター (Cluster)] または [デバイス (Device)] を選択し、[ダッシュボード (Dashboard)] のドロップダウンリストから必要なダッシュボードを選択します。選択したダッシュボードに関連する情報が別のダッシュレットに表示されます。各ダッシュレットには、サーバの詳細、現在の使用状況、および直前の 3 分間に受け取った最大値が表示されます。

前提条件：

- Unified CCX は Cisco Prime Collaboration Assurance で管理する必要があります。
- データを Cisco Prime Collaboration Assurance の Contact Center Express ダッシュボードで表示するには、Unified CCX に到達可能である必要があります。

新しくサポートされる Unified CCX ダッシュボードは、次のとおりです。

システム概要

CPU 使用率、仮想メモリ使用率、共通パーティションの使用率、重要なサービス ステータスに関する情報を表示します。システム管理者は、[システムの概要 (System Summary)] ダッシュレットをモニタして、システムの応答の遅延を分析することができます。

CPU Usage

過去 3 分間のリアルタイムの CPU 使用率と最大値が表示されます。

制限：他のレポートを使用してプロセスごとにシステムを監視し、どのプロセスが CPU の問題を引き起こしているのかを判断する必要があります。

Virtual Memory Usage

過去 3 分間のリアルタイム仮想メモリの使用状況および最大値が表示されます。

Common Partition Usage

過去 3 分間のリアルタイムの共通パーティションの使用率および最大値が表示されます。

Services

サービスの名前、ステータス（サービスが起動しているか、ダウンしているか、管理者によってアクティブ化されたか、停止されたか、開始しているか、停止しているか、または不明な状態か）、およびサーバ、または（該当する場合は）クラスタ内の特定のサーバのサービスが特定の状態にある間に経過した時間を表示します。



(注) サービスステータスが [Unknown State] と表示された場合は、システムサービスの状態を特定できません。

CPU およびメモリ

サーバの CPU 使用率、仮想メモリ使用率、メモリ使用率、プロセッサに関する情報を表示します。

CPU Usage

使用された合計 CPU および最後の 3 分間に使用された最大 CPU を表示します。

Virtual Memory Usage

使用された合計仮想メモリおよび最後の 3 分間に使用された最大仮想メモリを表示します。

Memory Usage

次の情報を表示します。

- [% VM Used] : システムのシステム仮想メモリ使用状況のパーセンテージを表します。
[% VM Used] カウンタの値は、次の 2 つの式のいずれかから得られる値と等しくなります。

$$\frac{(\text{Total KBytes} - \text{Free KBytes} - \text{Buffers KBytes} - \text{Cached KBytes} + \text{Shared KBytes} + \text{Used Swap KBytes})}{(\text{Total KBytes} + \text{Total Swap KBytes})}$$

$$\text{Used VM KBytes} / \text{Total VM KBytes}$$

- [Total] : システムのメモリの総量をキロバイト単位で表します。

Used

システムで使用中のシステム物理メモリの容量をキロバイト単位で表します。[Used KBytes] カウンタの値は、次の式から得られる値と等しくなります。

$$\text{Total KBytes} - \text{Free KBytes} - \text{Buffers KBytes} - \text{Cached KBytes} + \text{Shared KBytes}$$

[Used KBytes] の値は、top コマンドまたは free コマンド出力で表示される [Linux Used] の値とは異なります。Linux の top コマンドまたは free コマンドの出力に示される used 値は、Total KBytes - Free KBytes と等しく、バッファのキロバイト数とキャッシュされたキロバイト数の合計も含んでいます。

Free

システムで使用可能なメモリの総量をキロバイト単位で表します。

Shared

システムの共有メモリの容量をキロバイト単位で表します。

Buffers

システムのバッファの容量をキロバイト単位で表します。

Cached

キャッシュされたメモリの容量をキロバイト単位で表します。

Total Swap

システムのスワップ領域の総量をキロバイト単位で表します。

Used Swap

システムで使用中のスワップ領域の容量をキロバイト単位で表します。

Free Swap

システムで利用可能な空きスワップ領域の容量をキロバイト単位で表します。

Processors

次の情報を表示します。

- [Processor] : プロセッサのインスタンス。たとえば、Quad-Core CPU には、0、1、2、3 の 4 基のプロセッサを備えています。
- [%CPU] : 最後の更新から経過した、アイドル時間を除く CPU 時間のプロセッサの共有。CPU 時間のパーセンテージとして表現されます。
- [User] : CPU がユーザ レベル (アプリケーション) での実行に要した CPU 使用率をパーセンテージで表示します。
- [Nice] : CPU が nice 優先順位のユーザ レベルでの実行に要した CPU 使用率をパーセンテージで表示します。
- [System] : CPU がシステム レベル (カーネル) での実行に要した CPU 使用率をパーセンテージで表示します。
- [Idle] : CPU がアイドル状態にあり、システムに未処理のディスク I/O 要求がなかった時間のパーセンテージを表示します。
- [IRQ] : 割り込みのためにデバイスに割り当てられた、または処理終了時にコンピュータに信号送信するための割り込み要求の実行にプロセッサが要した時間のパーセンテージを表示します。

- [Soft IRQ] : タスク切り替えを後に遅延させ、パフォーマンスを向上させるためにソフトウェアの割り込み (softirq) の実行にプロセッサが要した時間のパーセンテージを示します。
- [IO Wait] : システムが未処理のディスク I/O 要求がある間に CPU がアイドル状態だった時間のパーセンテージを表示します。

ディスク使用率

ノードのディスク使用率に関する情報を表示します。これには、ダッシュレットとして [Common Partition Usage]、[Swap Partition Usage]、[Spare Partition Usage]、[Shared Memory Partition Usage]、[Active Partition Usage]、[Boot Partition Usage] があります。

各ダッシュレットには次の情報が表示されます。

Used

このファイル システムで使用中のディスク領域のパーセンテージを表します。

Max Past 3 min

過去 3 分間のこのファイル システムで使用中のディスク領域をパーセンテージで表します。

Used Space

このファイル システムで使用中のディスク領域の容量をメガバイト単位で表します。

Total Space

このファイルシステムにあるディスク領域全体の容量をメガバイト単位で表します。このカウンタの数値は、システムで確認できるディスク領域のほかの合計サイズ値とは異なる場合があります。これは、[Total Mbytes] カウンタの値が [Used Mbytes] パフォーマンス カウンタと CLI (ステータスを表示) 出力で示される [Free] の値の合計であるためです。[Total Mbytes] の値は、予約済みのファイル システムのディスク ブロックの最小空き容量のパーセンテージを含んでいる [Total] に対するこの CLI 出力未満になります。ファイル システムが高効率で動作するための十分なディスク領域容量が確保されるよう、最小空き容量を維持します。

プロセス

ノードで実行されているプロセスに関する情報を表示します。

Process

プロセスの名前

PID

タスクの一意のプロセス ID。定期的にラッピングされますが、0 で再開されることはありません。

& CPU

最後の更新以降に経過した CPU 時間のタスクの共有で、CPU 総時間のパーセンテージで表されます。

Status

タスクのプロセス ステータス :

- 0 : 実行中です。
- 1 : スリープ状態
- 2 : 無停電ディスクのスリープ
- 3 : ゾンビ
- 4 : トレースまたは停止 (信号)
- 5 : ページング
- 6 : 不明

Shared Memory

タスクが使用している共有メモリのキロバイト (KB) 単位の量です。他のプロセスが同じメモリを共有することも可能です。

Nice

タスクの Nice 値。負の Nice 値はプロセスの優先順位が高いことを示し、正の Nice 値はプロセスの優先順位が低いことを表します。Nice 値が 0 の場合、タスクを実行するかどうか判断するときに優先順位を調整しないでください。

VmRSS

コード、データ、およびスタックなどを含む、現在物理メモリ内にある仮想メモリ (Vm) の常駐セット サイズ (RSS) (KB 単位)。

VmSize

タスクが使用している仮想メモリ総量 (KB 単位)。これには、すべてのコード、データ、共有ライブラリ、およびスワップアウトされたページが含まれます (仮想イメージ = スワップ サイズ + 常駐サイズ)。

VmData

タスクのヒープの仮想メモリ使用状況 (KB 単位)。

Thread Count

現在タスクでグループ化されているスレッドの数。負の値 -1 は、システムのすべてのプロセスおよびスレッドがデフォルトのしきい値を超過したために、スレッド統計情報 (Thread オブジェクトのすべてのパフォーマンス カウンタと、Process オブジェクトの Thread Count カウンタを含む) がオフになったため、このカウンタが現在利用できないことを示します。

Datastack Size

タスク メモリ ステータスのスタック サイズ。

Page Fault Count

タスクで発生し、データをメモリにロードすることが必要になったメジャーページフォールの数を表示します。

Virtualized Voice Browser

Cisco Prime Collaboration Assurance は、システムが定義し、Virtualized Voice Browser を追加すると利用可能になる、Virtualized Voice Browser ダッシュボードを提供します。Cisco Prime Collaboration Assurance では、モニタリングのニーズに基づいてカスタム ダッシュボードを作成することができます。

ダッシュボードを表示するには、[監視 (Monitor)] > [システム ビュー (System View)] > [パフォーマンス (Performance)] の順に移動して [Virtualized Voice Browser] を選択し、[クラスター (Cluster)] または [デバイス (Device)] のドロップダウンリストからデバイスの IP アドレス/ホスト名を選択し、[ダッシュボード (Dashboard)] のドロップダウンリストから必要なダッシュボードを選択します。選択したダッシュボードに関連する情報が別のダッシュレットに表示されます。各ダッシュレットには、サーバの詳細、現在の使用状況、および直前の3分間に受け取った最大値が表示されます。

前提条件：

- Virtualized Voice Browser は、Cisco Prime Collaboration Assurance で管理する必要があります。
- データを Cisco Prime Collaboration Assurance の Virtualized Voice Browser ダッシュボードで表示するには、Virtualized Voice Browser に到達可能である必要があります。

新しくサポートされる Virtualized Voice Browser ダッシュボードは、次のとおりです。

システム概要

CPU 使用率、仮想メモリ使用率、共通パーティションの使用率、重要なサービス ステータスに関する情報を表示します。システム管理者は、[システムの概要 (System Summary)] ダッシュレットをモニタして、システムの応答の遅延を分析することができます。

CPU Usage

過去3分間のリアルタイムの CPU 使用率と最大値が表示されます。

制限：他のレポートを使用してプロセスごとにシステムを監視し、どのプロセスが CPU の問題を引き起こしているのかを判断する必要があります。

Virtual Memory Usage

過去3分間のリアルタイム仮想メモリの使用状況および最大値が表示されます。

Common Partition Usage

過去3分間のリアルタイムの共通パーティションの使用率および最大値が表示されます。

Services

サービスの名前、ステータス（サービスが起動しているか、ダウンしているか、管理者によってアクティブ化されたか、停止されたか、開始しているか、停止しているか、または

不明な状態か)、およびサーバ、または(該当する場合は)クラスタ内の特定のサーバのサービスが特定の状態にある間に経過した時間を表示します。



- (注) サービスステータスが [Unknown State] と表示された場合は、システムサービスの状態を特定できません。

CPU およびメモリ

サーバの CPU 使用率、仮想メモリ使用率、メモリ使用率、プロセッサに関する情報を表示します。

CPU Usage

使用された合計 CPU および最後の 3 分間に使用された最大 CPU を表示します。

Virtual Memory Usage

使用された合計仮想メモリおよび最後の 3 分間に使用された最大仮想メモリを表示します。

Memory Usage

次の情報を表示します。

- [%VMUsed] : システムのシステム仮想メモリ使用状況のパーセンテージを表します。
[% VM Used] カウンタの値は、次の 2 つの式のいずれかから得られる値と等しくなります。

$$\frac{(\text{Total KBytes} - \text{Free KBytes} - \text{Buffers KBytes} - \text{Cached KBytes} + \text{Shared KBytes} + \text{Used Swap KBytes})}{(\text{Total KBytes} + \text{Total Swap KBytes})}$$

$$\text{Used VM KBytes} / \text{Total VM KBytes}$$

- [Total] : システムのメモリの総量をキロバイト単位で表します。

Used

システムで使用中のシステム物理メモリの容量をキロバイト単位で表します。[UsedKBytes] カウンタの値は、次の式から得られる値と等しくなります。

$$\text{Total KBytes} - \text{Free KBytes} - \text{Buffers KBytes} - \text{Cached KBytes} + \text{Shared KBytes}$$

[Used KBytes] の値は、top コマンドまたは free コマンド出力で表示される [Linux Used] の値とは異なります。Linux の top コマンドまたは free コマンドの出力に示される used 値は、Total KBytes - Free KBytes と等しく、バッファのキロバイト数とキャッシュされたキロバイト数の合計も含んでいます。

Free

システムで使用可能なメモリの総量をキロバイト単位で表します。

Shared

システムの共有メモリの容量をキロバイト単位で表します。

Buffers

システムのバッファの容量をキロバイト単位で表します。

Cached

キャッシュされたメモリの容量をキロバイト単位で表します。

Total Swap

システムのスワップ領域の総量をキロバイト単位で表します。

Used Swap

システムで使用中のスワップ領域の容量をキロバイト単位で表します。

Free Swap

システムで利用可能な空きスワップ領域の容量をキロバイト単位で表します。

Processors

次の情報を表示します。

- [Processor] : プロセッサのインスタンス。たとえば、Quad-Core CPU には、0、1、2、3 の 4 基のプロセッサを備えています。
- [%CPU] : 最後の更新から経過した、アイドル時間を除く CPU 時間のプロセッサの共有。CPU 時間のパーセンテージとして表現されます。
- [User] : CPU がユーザ レベル (アプリケーション) での実行に要した CPU 使用率をパーセンテージで表示します。
- [Nice] : CPU が nice 優先順位のユーザ レベルでの実行に要した CPU 使用率をパーセンテージで表示します。
- [System] : CPU がシステム レベル (カーネル) での実行に要した CPU 使用率をパーセンテージで表示します。
- [Idle] : CPU がアイドル状態にあり、システムに未処理のディスク I/O 要求がなかった時間のパーセンテージを表示します。
- [IRQ] : 割り込みのためにデバイスに割り当てられた、または処理終了時にコンピュータに信号送信するための割り込み要求の実行にプロセッサが要した時間のパーセンテージを表示します。
- [Soft IRQ] : タスク切り替えを後に遅延させ、パフォーマンスを向上させるためにソフトウェアの割り込み (softirq) の実行にプロセッサが要した時間のパーセンテージを示します。
- [IO Wait] : システムが未処理のディスク I/O 要求がある間に CPU がアイドル状態だった時間のパーセンテージを表示します。

ディスク使用率

ノードのディスク使用率に関する情報を表示します。これには、ダッシュレットとして [Common Partition Usage]、[Swap Partition Usage]、[Spare Partition Usage]、[Shared Memory Partition Usage]、[Active Partition Usage]、[Boot Partition Usage] があります。

各ダッシュレットには次の情報が表示されます。

Used

このファイルシステムで使用中のディスク領域のパーセンテージを表します。

Max Past 3 min

過去 3 分間のこのファイルシステムで使用中のディスク領域をパーセンテージで表します。

Used Space

このファイルシステムで使用中のディスク領域の容量をメガバイト単位で表します。

Total Space

このファイルシステムにあるディスク領域全体の容量をメガバイト単位で表します。このカウンタの数値は、システムで確認できるディスク領域のほかの合計サイズ値とは異なる場合があります。これは、[Total Mbytes] カウンタの値が [Used Mbytes] パフォーマンスカウンタと CLI (ステータスを表示) 出力で示される [Free] の値の合計であるためです。[Total Mbytes] の値は、予約済みのファイルシステムのディスクブロックの最小空き容量のパーセンテージを含んでいる [Total] に対するこの CLI 出力未満になります。ファイルシステムが高効率で動作するための十分なディスク領域容量が確保されるよう、最小空き容量を維持します。

プロセス

ノードで実行されているプロセスに関する情報を表示します。

Process

プロセスの名前

PID

タスクの一意的プロセス ID。定期的にラッピングされますが、0 で再開されることはありません。

& CPU

最後の更新以降に経過した CPU 時間のタスクの共有で、CPU 総時間のパーセンテージで表されます。

Status

タスクのプロセスステータス：

- 0 : 実行中です。
- 1 : スリープ状態

- 2 : 無停電ディスクのスリープ
- 3 : ゾンビ
- 4 : トレースまたは停止 (信号)
- 5 : ページング
- 6 : 不明

Shared Memory

タスクが使用している共有メモリのキロバイト (KB) 単位の量です。他のプロセスが同じメモリを共有することも可能です。

Nice

タスクの Nice 値。負の Nice 値はプロセスの優先順位が高いことを示し、正の Nice 値はプロセスの優先順位が低いことを表します。Nice 値が 0 の場合、タスクを実行するかどうか判断するときに優先順位を調整しないでください。

VmRSS

コード、データ、およびスタックなどを含む、現在物理メモリ内にある仮想メモリ (Vm) の常駐セット サイズ (RSS) (KB 単位)。

VmSize

タスクが使用している仮想メモリ総量 (KB 単位)。これには、すべてのコード、データ、共有ライブラリ、およびスワップアウトされたページが含まれます (仮想イメージ = スワップ サイズ + 常駐サイズ)。

VmData

タスクのヒープの仮想メモリ使用状況 (KB 単位)。

Thread Count

現在タスクでグループ化されているスレッドの数。負の値 -1 は、システムのすべてのプロセスおよびスレッドがデフォルトのしきい値を超過したために、スレッド統計情報 (Thread オブジェクトのすべてのパフォーマンス カウンタと、Process オブジェクトの Thread Count カウンタを含む) がオフになったため、このカウンタが現在利用できないことを示します。

Datastack Size

タスク メモリ ステータスのスタック サイズ。

Page Fault Count

タスクで発生し、データをメモリにロードすることが必要になったメジャーページフォールの数を表します。

パフォーマンス ダッシュボード

[パフォーマンス (Performance)] ページには、パフォーマンス カウンタに基づいたシステム定義のダッシュボードが表示されます。



- (注)
- Unified Communications Manager でクラスタ名とホスト名の両方が同じである場合に、選択したクラスタのパフォーマンスダッシュボードを表示するには、クラスタ名前を変更し、Cisco Prime Collaboration Assurance で Unified Communications Manager を再検出する必要があります。
 - パフォーマンス カウンタ 用のカスタム ダッシュボードを作成済みの場合は、次のデバイスタイプのために、Cisco Prime Collaboration Assurance 12.1 でも同じように再設定する必要があります。

デバイスタイプ	バージョン
Finesse	10 以上
SocialMiner	10 以上

ダッシュボードを表示するには、[Cluster] または [Device] ドロップダウンリストから製品とクラスタを選択し、[Dashboard] ドロップダウンリストから必要なダッシュボードを選択します。

すべてのクラスタまたはデバイスについてのシステム定義のダッシュボードに加えて、トレンドダッシュボードを使用して、デバイス関連のメトリックのトレンドを表示することもできます。トレンドを表示される方法の詳細については、[\[Trend\] ダッシュボード](#)を参照してください。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以降の場合

Unified CM と Unity Connection

Unified CM では、次のシステム定義のダッシュボードを使用できます。



- (注) Unity Connection では、[System Summary]、[CPU and Memory]、[Disk Usage]、[Process]、[Port Monitor] というダッシュレットのみが表示されます。

システム概要

CPU 使用率、仮想メモリ使用率、共通パーティションの使用率、重要なサービス ステータスに関する情報を表示します。システム管理者は、[システムの概要 (System Summary)] ダッシュレットをモニタして、システムの応答の遅延を分析することができます。

CPU Usage

過去 3 分間のリアルタイムの CPU 使用率と最大値が表示されます。

制限：他のレポートを使用してプロセスごとにシステムを監視し、どのプロセスが CPU の問題を引き起こしているのかを判断する必要があります。

Virtual Memory Usage

過去 3 分間のリアルタイム仮想メモリの使用状況および最大値が表示されます。

Common Partition Usage

過去 3 分間のリアルタイムの共通パーティションの使用率および最大値が表示されます。

Services

サービスの名前、ステータス（サービスが起動しているか、ダウンしているか、管理者によってアクティブ化されたか、停止されたか、開始しているか、停止しているか、または不明な状態か）、およびサーバ、または（該当する場合は）クラスタ内の特定のサーバのサービスが特定の状態にある間に経過した時間を表示します。



(注) サービス ステータスが [Unknown State] と表示された場合は、システム サービスの状態を特定できません。

Communications Manager の概要

登録済みの電話機、進行中のコール、およびアクティブなゲートウェイポートとチャネルを表示します。

Registered Phones

登録済みの電話機の総数、および直前に登録された電話機数の差分を表示します。負の値は電話機が登録解除されたことを示し、正の値は新しい電話機が登録されたことを示します。

Calls in Progress

進行中のコールの総数と、直前の進行中の差分コール数を表示します。負の値は、コールが完了した、またはドロップされたことを示し、正の値は新しいコールが確立されたことを示します。

Active MGCP Ports and Channels

アクティブな MGCP ポートとチャネルの総数と、過去数分のアクティブな MGCP ポートとチャネルの差分を表示します。負の値はアクティブな MGCP ポートとチャネルが減少したことを示し、正の値はアクティブな MGCP ポートとチャネルが増加したことを示します。

コール アクティビティ

Call Activity

Cisco Unified Communications Manager の、完了したコール、試行されたコール、進行中のコール、論理パーティション合計エラー数などのコールアクティビティを表示します。該当する場合、これはクラスタ内のすべてのサーバが含まれます。

Calls Completed

Cisco Unified Communications Manager を使用して、実際に接続された（音声パスまたはビデオストリームが確立された）コールの数を表示します。この数は、コールが終了したときに増加します。

Calls Attempted

試行されたコールの合計数を表示します。試行されたコールは、どの番号がダイヤルされたか、または宛先に接続されたかに関係なく、電話機がオフフックになるとき、およびオンフックに戻るときに必ず発生します。機能操作（たとえば、転送や会議）中のコールの試行も、試行されたコールと見なされます。

Calls in Progress

進行中のコールと過去1分間に進行中だった差分コールの総数を表示します。負の値は、コールが完了またはドロップされたことを示し、正の値は新しいコールが確立されたことを示します。

Logical Partition Failures

論理パーティションエラーの総数を表示します。また、過去1分間の論理パーティションエラーの差分を表示します。

ゲートウェイ アクティビティ

アクティブポート、サービス中のポート、完了したコールを含む Cisco Unified Communications Manager のゲートウェイアクティビティを表示します。ゲートウェイのアクティビティには、該当する場合は、クラスタのすべてのノードが含まれます。

MGCP FXS

- Ports in Service : システムで現在使用可能な FXS ポートの数を表示します。
- Ports Active : この Unified CM で現在使用中の（アクティブな）FXS ポートの数を表示します。
- Calls Completed : MGCP FXS デバイス上のすべての FXS ポート インスタンスから発信され成功したコールの総数を表示します。

MGCP FXO

- Ports in Service : システムで現在使用可能な FXO ポートの数を表示します。
- Ports Active : この Unified CM で現在使用中の（アクティブな）FXO ポートの数を表示します。

- **Calls Completed** : MGCP FXO デバイス上のすべての FXO ポート インスタンスから発信され、成功したコールの総数を表示します。

MGCP T1

- **Spans in Service** : 現在使用可能な T1 CAS スパンの数を表示します。
- **Channel Active** : この Unified CM 上でアクティブ コールにある T1 CAS 音声チャンネルが表示されます。
- **Calls Completed** : MGCP T1 CAS デバイスのすべてのインスタンスから発信され、成功したコールの総数を表示します。

MGCP PRI

- **Spans In Service** : 現在使用可能な PRI スパンの数を表示します。
- **Channel Active** : この Unified CM のアクティブ コールにある PRI 音声チャンネルの数を表します。
- **Calls Completed** : MGCP PRI デバイスのすべてのインスタンスからの発信され、成功したコールの総数を表示します。

進行中のコールおよび完了したコールを含む Cisco Unified Communications Manager 上のトランクアクティビティを表示します。このカウンタには、該当する場合は、クラスタ内のすべてのノードが含まれます。

H323

Calls In Progress : Cisco H323 デバイスのすべてのインスタンスで現在進行中のコールの総数を表示します。

Calls Completed : Cisco H323 デバイスのすべてのインスタンスから発信され、成功したコールの総数を表示します。

SIP Trunk

Calls In Progress : アクティブなすべてのコールを含め、SIP デバイスのすべてのインスタンスで現在進行中のコールの総数を表示します。進行中のすべてのコールが接続されると、進行中のコールの数とアクティブなコールの数は同じになります。

Calls In Progress : SIP デバイスのすべてのインスタンスから実際に接続された（音声パスが確立された）コールの総数を表示します。この数は、コールが終了すると増分します。

SDL キュー

キューに格納されている信号の数や処理済みの信号の数などの SDL キュー情報が表示されません。

Signals in SDL Queue

[High] : Unified CM キューの高優先順位信号の数を表します。高優先順位信号には、主に、タイムアウト イベント、内部 Unified Communications Manager キープアライブ、特定のゲートキーパーイベント、内部プロセスの作成などのイベントが含まれています。多数

の高優先順位イベントは、Unified CM のパフォーマンスを低下させ、コール接続の遅延やダイヤルトーン消失の原因となります。このカウンタを Queue Signals Processed High カウンタと併用して、Unified CM 上の処理の遅延を判別します。

[Normal] : Unified CM キューの通常優先順位信号の数を表します。通常優先順位信号には、主に、コール処理機能、キー操作、オンフックとオフフックの通知などのイベントが含まれています。多数の通常優先順位のイベントは、Unified CM のパフォーマンスを低下させ、ダイヤルトーンの遅延、コール接続の遅延、またはダイヤルトーンの消失の原因となる場合があります。このカウンタを Queue Signals Processed Normal カウンタと併用して、Unified CM 上のコール処理の遅延を判別します。通常優先順位信号が処理を開始する前に、高優先順位信号を完了する必要があることに注意してください。したがって、高優先順位カウンタを確認し、遅延の可能性について正確な状況を把握する必要があります。

[Low] : Unified CM キューの低優先順位信号の数を表します。低優先順位信号には、主に、端末デバイスの登録（初期端末登録要求メッセージは除く）などのイベントが含まれています。このキュー内の多数の信号は、デバイス登録遅延の原因となります。

[Lowest] : Unified CM キューの最低優先順位信号の数を表します。最低優先順位信号には、デバイス登録中の初期端末登録要求メッセージが含まれています。このキュー内の多数の信号は、デバイス登録遅延の原因となります。

Processed SDL Signals

[High] : 1 秒間隔で Unified CM により処理される高優先順位信号の数を表します。このカウンタを Queue Signals Present High カウンタと併用して、このキューの処理の遅延を判別します。

[Normal] : 1 秒間隔で Unified CM により処理される通常優先順位信号の数を表します。このカウンタを Queue Signals Present Normal カウンタと併用して、このキューの処理の遅延を判別します。高優先順位信号は通常優先順位信号の前に処理されることに注意してください。

[Low] : 1 秒間隔で Unified CM により処理される低優先順位信号の数を表します。このカウンタを Queue Signals Present Low カウンタと併用して、このキューの処理の遅延を判別します。処理される信号の数は、この時間間隔でデバイス登録アクティビティが処理される量の指標となります。

[Lowest] : 1 秒間隔で Unified CM により処理される最低優先順位信号の数を表します。このカウンタを Queue Signals Present Lowest カウンタと併用して、このキューの処理の遅延を判別します。処理される信号の数は、この時間間隔で Unified CM 登録プロセスを開始したデバイスの数の指標となります。

「Cisco TFTP」

合計 TFTP 要求数、見つかった合計 TFTP 要求数、および異常終了した合計 TFTP 要求数を含めて、Cisco Unified Communications Manager ノードの Cisco Trivial File Transfer Protocol (TFTP) のステータスを表示します。

TFTP Requests

該当する場合、このカウンタにはクラスタ内のすべてのノードが含まれます。このカウンタは、TFTP サーバが処理するファイル要求（XML 設定ファイル、電話機ファームウェア

ファイル、オーディオファイルに対する要求) の総数を表します。このカウンタは、TFTP サービス開始後の RequestsProcessed、RequestsNotFound、RequestsOverflow、RequestsAborted、RequestsInProgress の各カウンタを合計した数になります。

CPU およびメモリ

サーバの CPU 使用率、仮想メモリ使用率、メモリ使用率、プロセッサに関する情報を表示します。

CPU Usage

使用された合計 CPU および最後の 3 分間に使用された最大 CPU を表示します。

Virtual Memory Usage

使用された合計仮想メモリおよび最後の 3 分間に使用された最大仮想メモリを表示します。

Memory Usage

次の情報を表示します。

- [%VMUsed] : システムのシステム仮想メモリ使用状況のパーセンテージを表します。 [%VMUsed] カウンタの値は、次の 2 つの式のいずれかから得られる値と等しくなります。

$$\frac{(\text{Total KBytes} - \text{Free KBytes} - \text{Buffers KBytes} - \text{Cached KBytes} + \text{Shared KBytes} + \text{Used Swap KBytes})}{(\text{Total KBytes} + \text{Total Swap KBytes})}$$

$$\text{Used VM KBytes} / \text{Total VM KBytes}$$

- [Total] : システムのメモリの総量をキロバイト単位で表します。

Used

システムで使用中のシステム物理メモリの容量をキロバイト単位で表します。 [UsedKBytes] カウンタの値は、次の式から得られる値と等しくなります。

$$\text{Total KBytes} - \text{Free KBytes} - \text{Buffers KBytes} - \text{Cached KBytes} + \text{Shared KBytes}$$

[Used KBytes] の値は、top コマンドまたは free コマンド出力で表示される [Linux Used] の値とは異なります。Linux の top コマンドまたは free コマンドの出力に示される used 値は、Total KBytes - Free KBytes と等しく、バッファのキロバイト数とキャッシュされたキロバイト数の合計も含んでいます。

Free

システムで使用可能なメモリの総量をキロバイト単位で表します。

Shared

システムの共有メモリの容量をキロバイト単位で表します。

Buffers

システムのバッファの容量をキロバイト単位で表します。

Cached

キャッシュされたメモリの容量をキロバイト単位で表します。

Total Swap

システムのスワップ領域の総量をキロバイト単位で表します。

Used Swap

システムで使用中のスワップ領域の容量をキロバイト単位で表します。

Free Swap

システムで利用可能な空きスワップ領域の容量をキロバイト単位で表します。

Processors

次の情報を表示します。

- [Processor] : プロセッサのインスタンス。たとえば、Quad-Core CPU には、0、1、2、3 の 4 基のプロセッサを備えています。
- [%CPU] : 最後の更新から経過した、アイドル時間を除く CPU 時間のプロセッサの共有。CPU 時間のパーセンテージとして表現されます。
- [User] : CPU がユーザ レベル (アプリケーション) での実行に要した CPU 使用率をパーセンテージで表示します。
- [Nice] : CPU が nice 優先順位のユーザ レベルでの実行に要した CPU 使用率をパーセンテージで表示します。
- [System] : CPU がシステム レベル (カーネル) での実行に要した CPU 使用率をパーセンテージで表示します。
- [Idle] : CPU がアイドル状態にあり、システムに未処理のディスク I/O 要求がなかった時間のパーセンテージを表示します。
- [IRQ] : 割り込みのためにデバイスに割り当てられた、または処理終了時にコンピュータに信号送信するための割り込み要求の実行にプロセッサが要した時間のパーセンテージを表示します。
- [Soft IRQ] : タスク切り替えを後に遅延させ、パフォーマンスを向上させるためにソフトウェアの割り込み (softirq) の実行にプロセッサが要した時間のパーセンテージを示します。
- [IO Wait] : システムが未処理のディスク I/O 要求がある間に CPU がアイドル状態だった時間のパーセンテージを表示します。

ディスク使用率

ノードのディスク使用率に関する情報を表示します。これには、ダッシュレットとして [Common Partition Usage]、[Swap Partition Usage]、[Spare Partition Usage]、[Shared Memory Partition Usage]、[Active Partition Usage]、[Boot Partition Usage] があります。

各ダッシュレットには次の情報が表示されます。

Used

このファイル システムで使用中のディスク領域のパーセンテージを表します。

Max Past 3 min

過去 3 分間のこのファイル システムで使用中のディスク領域をパーセンテージで表します。

Used Space

このファイル システムで使用中のディスク領域の容量をメガバイト単位で表します。

Total Space

このファイルシステムにあるディスク領域全体の容量をメガバイト単位で表します。このカウンタの数値は、システムで確認できるディスク領域のほかの合計サイズ値とは異なる場合があります。これは、[Total Mbytes] カウンタの値が [Used Mbytes] パフォーマンス カウンタと CLI (ステータスを表示) 出力で示される [Free] の値の合計であるためです。[Total Mbytes] の値は、予約済みのファイル システムのディスク ブロックの最小空き容量のパーセンテージを含んでいる [Total] に対するこの CLI 出力未満になります。ファイル システムが高効率で動作するための十分なディスク領域容量が確保されるよう、最小空き容量を維持します。

CTI Manager

CTI Manager とインターフェイスするデバイスおよびアプリケーションに関する情報を表示します。次の情報が表示されます。

Open Devices

CTI Manager に接続されたすべてのアプリケーションによって開かれたデバイスの数。

Open Lines

CTI Manager に接続されたすべてのアプリケーションによって開かれた回線の数。

CTI Connection

CTI Manager に接続されたアプリケーションの数。

CM Links

CTI Manager へのアクティブな Unified Communication Manager リンク。

Heartbeat

Cisco Unified Communications Manager と Cisco TFTP サービスの表示ハートビート情報を表示します。

CMs Heartbeat

[Current Value] は、Unified CM のハートビートを表します。これは、Unified CM が実行していることを示す増分カウントです。カウンタが増加していない場合は、Unified CM がダウンしています。1 分を超えるとデルタが表示されます。値 0 は Unified Communications Manager ダウンしていることを示します。

TFTPs Heartbeat

現在の値は TFTP サーバのハートビートを表します。これは、TFTP サーバが動作していることを示す増分カウントです。カウンタが増加していない場合は、TFTP サーバがダウンしています。1 分を超えるとデルタが表示されます。値 0 は、TFTP サーバがダウンしていることを示します。

SIP アクティビティ

Cisco Unified Communications Manager 上の概要要求、概要応答、着信失敗応答の概要、発信失敗応答の概要、発信再試行要求、発信再試行応答などの SIP アクティビティを表示します。該当する場合、SIP アクティビティにはクラスタ内のすべてのノードが含まれます。

Summary Requests

再転送数+デバイスが送信（発信およびリレー）した SIP 要求メッセージの総数などを含め、SIP デバイスが受信した SIP 要求メッセージの総数の要約が表示されます。特定のメッセージが複数回送信された場合（たとえば、再転送または結果のフォーク）、各転送は別々にカウントされます。

Summary Responses

再転送 + SIP デバイスが送信（発信およびリレー）した SIP 応答メッセージの総数（再転送を含む）などを含め、SIP デバイスが受信した SIP 応答メッセージの総数の要約が表示されます。

Summary Failure Responses In

SIP デバイスが受信した、4xx クラスの SIP 応答の総数（転送数を含む）が表示されます。このクラスの応答は、クライアント機能を提供する SIP デバイスによる要求失敗 + SIP デバイスが受信した 5xx クラスの SIP 応答の総数（転送を含む）を示します。このクラスの応答は、クライアント機能を提供する SIP デバイスが受信した失敗応答 + SIP デバイスが受信した 6xx クラスの SIP 応答の総数（転送を含む）を示します。このクラスの応答は、クライアント機能を提供する SIP デバイスが受信した失敗応答を示します。応答は一般に、Request-URI で示された特定のインスタンスだけでなく、ノードが特定の着信側に関して明確な情報を持つことを示します。

Summary Failure Responses Out

SIP デバイスが送信した、4xx クラスの SIP 応答の総数（転送数を含む）が表示されます。このクラスの応答は、ノード機能を提供する SIP デバイスによる要求失敗 + SIP デバイスが送信した 5xx クラスの SIP 応答の総数（転送を含む）を示します。このクラスの応答は、ノード機能を提供する SIP デバイスが送信した失敗応答 + SIP デバイスが送信した 6xx クラスの SIP 応答の総数（転送を含む）を示します。このクラスの応答は、ノード機能を提供する SIP デバイスが送信した失敗応答を示します。応答は一般に、Request-URI で示された特定のインスタンスだけでなく、ノードが特定の着信側に関して明確な情報を持つことを示します。

Retry Requests Out

SIP デバイスが送信した要求再試行の合計回数を表示します。

Retry Responses Out

SIP デバイスが送信した最終応答再試行の総回数 + SIP デバイスが送信した最終以外の応答再試行の総回数の要約を表示します。

プロセス

ノードで実行されているプロセスに関する情報を表示します。

Process

プロセスの名前

PID

タスクの一意的プロセスID。定期的にラッピングされますが、0で再開されることはありません。

& CPU

最後の更新以降に経過した CPU 時間のタスクの共有で、CPU 総時間のパーセンテージで表されます。

Status

タスクのプロセス ステータス :

- 0 : 実行中です。
- 1 : スリープ状態
- 2 : 無停電ディスクのスリープ
- 3 : ゾンビ
- 4 : トレースまたは停止 (信号)
- 5 : ページング
- 6 : 不明

Shared Memory

タスクが使用している共有メモリのキロバイト (KB) 単位の量です。他のプロセスが同じメモリを共有することも可能です。

Nice

タスクの Nice 値。負の Nice 値はプロセスの優先順位が高いことを示し、正の Nice 値はプロセスの優先順位が低いことを表します。Nice 値が 0 の場合、タスクを実行するかどうか判断するときに優先順位を調整しないでください。

VmRSS

コード、データ、およびスタックなどを含む、現在物理メモリ内にある仮想メモリ (Vm) の常駐セット サイズ (RSS) (KB 単位)。

VmSize

タスクが使用している仮想メモリ総量 (KB単位)。これには、すべてのコード、データ、共有ライブラリ、およびスワップアウトされたページが含まれます (仮想イメージ = スワップサイズ + 常駐サイズ)。

VmData

タスクのヒープの仮想メモリ使用状況 (KB 単位)。

Thread Count

現在タスクでグループ化されているスレッドの数。負の値 -1 は、システムのすべてのプロセスおよびスレッドがデフォルトのしきい値を超過したために、スレッド統計情報 (Thread オブジェクトのすべてのパフォーマンス カウンタと、Process オブジェクトの Thread Count カウンタを含む) がオフになったため、このカウンタが現在利用できないことを示します。

Datastack Size

タスク メモリ ステータスのスタック サイズ。

Page Fault Count

タスクで発生し、データをメモリにロードすることが必要になったメジャーページフォールの数を表します。

データベースの概要

サーバの接続情報を提供します。データベースのキューに格納されている変更通知要求、メモリのキューに格納されている変更通知要求、アクティブなクライアント接続の総数、デバイスリセットのためにキューに格納されているデバイス数、作成された複製の数、複製のステータスなどの情報です。

Change Notification Requests Queued in DB

DBCNQueue テーブルのレコード数を表示します。

Change Notification Requests Queued in Memory

メモリのキューに格納される変更通知要求の数を表示します。

Total Number of Connection Clients

メモリのキューに格納される変更通知要求の数を表示します。

Replicates Created

Informix によって DB テーブル用に作成された複製の数を表示します。すべてのテーブルに、少なくとも1個の複製が含まれます。このカウンタは、複製のセットアップ中の情報を表示します。

Replication Status

複製の状態を表示します。

- 0 = ReplTask スレッド初期化中
- 1 = このノードから開始された複製セットアップ スクリプト

- 2 = 複製が正常で、正しく設定され、データベースのほとんどのテーブルがクラスタ内のすべてのノードで同期されている



(注) すべてのテーブルが同期していることを確認するには、CLI コマンド **utils dbreplication status** を実行します

- 3 = クラスタ内での複製データの転送に問題があります



(注) カウンタに表示された値が 3 である場合は、クラスタでの複製に問題があります。この値は、複製がその特定のノードで問題であるという意味ではありません。CLI コマンド **utils dbreplication status** を実行し、障害がいつ、どこで発生したかを検出します。

- 4 = 複製セットアップが失敗した

電話機の概要

登録済み電話機の数、登録済み SIP 電話機の数、登録済み SCCP 電話機の数、一部登録済み電話機の数、および登録試行の失敗回数など、Cisco Unified Communications Manager のノードに関する情報を表示します。該当する場合、これにはクラスタ内のすべてのノードが含まれます。

Registered Devices

SIP 電話機の数、SCCP 電話機の数、および Unified CM に登録されている電話機の総数を表示します。[Past 1 Minute] 列には、過去 1 分間に登録または登録解除された電話機の差分を表示します。

Registration Issues

Unified CM のすべての電話機の登録に関する問題を表示します。[Failed Attempts] タブには電話機の登録に失敗した試行回数が表示され、[Partial Registration] タブには電話機が部分的に登録された数が表示されます。[Past 1 Minute] 列には、過去 1 分間の差分値が表示されます。

デバイスの概要

登録済み電話機デバイス、登録済みゲートウェイ デバイス、登録済みメディア リソース デバイスなど、Unified CM ノードに関する情報を表示します。[Device Summary] には、該当する場合は、クラスタ内のすべてのノードが含まれます。

Registered Phones

Unified CM クラスタに登録された電話機の総数が表示されます。[Past 1 Minute] には、過去 1 分間に登録された電話機の総数の差分が表示されます。

Registered Gateways

Unified CM クラスタに登録されたゲートウェイ（FXS、FXO、TICAS および PRI）の総数が示されます。[Past 1 Minute] には、過去 1 分間で登録されたゲートウェイの総数の差分が表示されます。

Registered Media Resources

Unified CM クラスタに登録されたメディアリソース（MOH、MTP、XCODE および CFB）の総数が表示されます。[Past 1 Minute] には、過去 1 分間で登録されたメディアリソースの総数の差分が表示されます。

Registered Other Station Devices

Unified CM クラスタに登録されたその他の端末デバイスの総数が表示されます。[Past 1 Minute] には、過去 1 分間のその他の端末デバイスの総計の差分が表示されます。

Registered Services

電話機、ゲートウェイ、メディアリソース、その他の端末デバイスなど、デバイスのさまざまなすべてのタイプの詳細が表示されます。各タイプの詳細が別々に表示されます。

IM and Presence の概要

PE アクティブ JSM 会議

アクティブな JSM 会議のパフォーマンスカウンタの数には、Cisco Presence Engine と Cisco XCP Router 間でのクライアント エミュレーション 会議の数が含まれます。このカウンタの値は、ボックスのライセンス済みユーザ数と常に同じになる必要があります。

[Past 1 Minute] には過去 60 秒のカウンタ値の差分を表示します。

Active Calendar Subscriptions

[Number of Active Calendar Subscriptions] パフォーマンスカウンタには、ボックスで現在アクティブなカレンダーサブスクリプションの数が含まれます。

[Past 1 Minute] には過去 60 秒のカウンタ値の差分を表示します。

Incoming SIP Subscriptions

[Number of Active Inbound SIP Subscriptions] パフォーマンスカウンタには、IM and Presence Service ノードの Cisco XCP SIP Federation Connection Manager サービスによって維持されている、アクティブな受信 SIP サブスクリプションの現在の数が含まれます。IM and Presence Service ノードが SIP ドメイン間フェデレーションまたは SIP ドメイン内フェデレーションに設定されている場合に、このカウンタを監視します。

[Past 1 Minute] には過去 60 秒のカウンタ値の差分を表示します。

Outgoing SIP Subscriptions

[Number of Active Outbound SIP Subscriptions] パフォーマンスカウンタには、IM and Presence Service ノードで Cisco XCP SIP Federation Connection Manager サービスによって維持されている、アクティブな発信 SIP サブスクリプションの現在の数が含まれます。IM and Presence Service ノードが SIP ドメイン間フェデレーションまたは SIP ドメイン内フェデレーションに設定されている場合に、このカウンタを監視します。

SubscriptionsOut と SubscriptionsIn を組み合わせた合計カウントは、どの IM and Presence Service ノードでも 260,000 を超えないようにする必要があります。

[Past 1 Minute] には過去 60 秒のカウント値の差分を表示します。

Total Ad Hoc Chat Rooms

[Total Ad Hoc Group Chat Rooms] パフォーマンス カウンタには、ノードで現在ホストされているアドホック チャット ルームの総数が含まれます。



(注) アドホック チャット ルームは、すべてのユーザがルームを離れると自動的に破棄されます。そのため、このカウンタの値は定期的増減します。

[Past 1 Minute] には過去 60 秒のカウント値の差分を表示します。

Total Persistent Chat Rooms

[Total Persistent Chat Rooms] パフォーマンス カウンタには、ノードでホストされた常設チャット ルームの総数が含まれます。ルーム所有者が明示的に常設チャット ルームを破棄する必要があります。このカウンタは、常設チャット ルームの総数が非常に多いかどうかを識別する場合や、いくつかの常設チャット ルームが定期的には使用されなくなっているかどうかを識別するために監視できます。

[Past 1 Minute] には過去 60 秒のカウント値の差分を表示します。

Cisco Jabber の概要

Jabber Login Failures

Cisco Simple Object Access Protocol (SOAP) インターフェイスによって受信され、失敗したログイン要求の数を表します。1分後に、カウンタには最後の 60 秒間のカウンタ値の差分が表示されます。

Current Connected Jabber or XMPP Clients

個々の IM and Presence Service サーバの Cisco XCP Connection Manager に接続されている XMPP クライアントの現在の数が含まれます。この数は、展開の使用パターンに基づいて増減します。この数値が予想されるユーザベースよりも高い場合、詳細な調査が必要になることがあります。1分後に、カウンタには最後の 60 秒間のカウンタ値の差分が表示されます。

IM Packets Since Last Restart

すべてのユーザ上で IM and Presence Service ノードによって処理された IM パケットの合計数を表示します。1分後に、カウンタには最後の 60 秒間のカウンタ値の差分が表示されます。

IM Packets in Last 60 Seconds

すべてのユーザ上で最後の 60 秒間に IM and Presence Service ノードによって処理された IM パケットの合計数。このカウンタは、60 秒ごとにゼロにリセットされます。TotalMessagePackets と同じ IM パケットをカウントするためのルールが適用されます。組

織内のビジョ IM 時間を識別できるようにこのカウンタを監視します。1 分後に、カウンタには最後の 60 秒間のカウンタ値の差分が表示されます。

学習パターン

Learned Pattern レポートおよび Service Advertisement Framework (SAF) フォワーダ レポートは、コール制御ディスカバリ機能をサポートします。コール制御ディスカバリ機能を設定すると、Cisco Unified Communications Manager は、SAF ネットワークを使用するほかのリモートコール制御エンティティにそれ自体とホスト対象の DN パターンをアドバタイズします。同様に、これらのリモート呼制御エンティティは、Unified CM が番号分析で学習、挿入可能なホスト対象の DN パターンをアドバタイズします。

カラム	Description
Pattern	リモート呼制御エンティティから学習されたパターンの名前が表示されます。
Timestamp	ローカルの Unified CM が学習パターンとしてパターンをマークした日時が表示されます。
Status	学習パターンが到達可能または到達不能かどうかを示します。
Protocol	学習パターンへの発信コールに使用した SAF 対応トランクのプロトコルが表示されます。リモート コール制御エンティティに SAF 対応トランクに設定されている QSIG トンネリングがある場合は、データに、QSIG トンネリングが使用されたことが示されます。たとえば、この列には、H.323 とともに EMCA 表示されます。
AgentID	学習パターンをアドバタイズしたリモート コール制御エンティティの名前が表示されます。
IP Address	学習パターンをアドバタイズしたコール制御エンティティの IP アドレスが表示されます。また、コール制御エンティティがコールの待機に使用するポート番号を表示します。
ToDID	学習パターンの PSTN フェールオーバー設定を表示します。
CUCMNodeId	ローカルの Unified CM ノードの ID を表示します。

ポート モニタ

ポート モニタでは、各 Cisco Unity Connection ボイス メッセージング ポートのアクティビティをリアルタイムにモニタすることができます。この情報は、システムのポート数が多すぎるかまたは不十分かを判断するために役立ちます。

ポート モニタは、次の表に説明するような各ポートの情報を表示します。

フィールド	説明
ポート名	Cisco Unity Connection Administration ポートの表示名です。
発信者	着信コールの場合、発信者の電話番号です。
着信者	着信コールの場合、電話がかかっている電話番号です。
理由	該当する場合は、コールがリダイレクトされた理由です。
リダイレクト	コールがリダイレクトされた内線番号です。コールが複数の内線番号にリダイレクトされている場合、このフィールドには最後の内線番号の1つ前の内線番号が表示されます。
最後のリダイレクト	コールがリダイレクトされた最後の内線番号です。
アプリケーションのステータス	Cisco Unity Connection が発信者に行っているカンパセッションの名前です。ポートでコールの処理が行われていない場合、ステータスは[アイドル (Idle)]と表示されます。
画面のステータス	カンパセッションが現在実行中のアクションです。ポートでコールの処理が行われていない場合、ステータスは[アイドル (Idle)]と表示されます。
カンパセッションのステータス	カンパセッションが実行中のアクションに関する特定の詳細です。ポートでコールの処理が行われていない場合、ステータスは[アイドル (Idle)]と表示されます。
ポートの内線番号	ポートの内線番号です。
接続先	Cisco Unified Communications Manager SCCP 統合に対しては、ポートが登録されている Cisco Unified Communications Manager ノードの IP アドレスおよびポート。

履歴トレンドの表示

履歴トレンド分析は、デフォルトで[System Summary]ダッシュボードの下位のダッシュレット ([CPU Usage]、[Virtual Memory Usage]、および[Common Partition Usage]) に対して有効になっています。トレンドビュー グラフを表示するには、ダッシュレットの右下の[Zoom]をクリックします。

前提条件

すべてのデバイスが Cisco Prime Collaboration Assurance で管理対象状態になっている必要があります。クラスタの場合は、すべてのノードが管理対象状態になっている必要があります。

音声デバイス（Cisco Unified CM、Cisco Packaged Contact Center Enterprise、Cisco Unified Presence、Cisco Unity Connection、Cisco Media Sense、Cisco Finesse、Cisco Unified IC、および Cisco Unified Contact Center Express）の場合は、システム定義のダッシュボードと一緒に、デバイス関連のメトリックのトレンドも表示できます。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

音声デバイス（Cisco Unified CM、Cisco Packaged Contact Center Enterprise、Cisco Unified Presence、Cisco Unity Connection、Cisco Media Sense、Cisco Finesse、Cisco Unified IC、Cisco Unified Contact Center Express、および Cisco Virtualized Voice Browser）の場合は、システム定義のダッシュボードと一緒に、デバイス関連のメトリックのトレンドも表示できます。



- (注)
- デバイス関連のメトリックは、選択するデバイス タイプによって異なります。
 - 履歴トレンド分析は、Cisco Unified CCE、Cisco Voice Portal、MCU/TPS、Cisco Unified Border Element、シスコ音声ゲートウェイ、Cisco Unified Communications Manager Express、ISDN ゲートウェイなどの非音声デバイスではサポートされていません。

[Trend] ダッシュボード

メトリックのトレンドを表示するには、[Dashboard] ドロップダウンリストから [Trend] を選択し、[Metrics Selection] ダイアログボックスからトレンドを有効にするメトリックを選択して [Add] をクリックします。任意の数のメトリックを選択できますが、デバイス タイプごとに最大 6 個までのメトリックを選択することをお勧めします。

また、次の操作を実行できます。

- データを、チャートまたは表形式のいずれかで表示する。
- [Merge] オプションをクリックして、2 つ以上のパフォーマンス メトリックについてトレンドを比較する。
- [Zoom] をクリックして、トレンド グラフを詳細ビューで表示する。このオプションは、履歴、1 時間ごとの平均、最大、および最小のデータを表示する場合に便利です。詳細ビューに表示されるズームセレクタ グラフを使用して、選択した期間のトレンドを表示するためのグラフの時間枠（x 軸）のポイントを調整することができます。
- ユーザーインターフェイスの右上にある [Add Graph] (+) ボタンを使用してトレンドを追加する。
- チャート タイプを変更する。

カスタム パフォーマンス ダッシュボードの作成

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

カスタマイズしたダッシュボードを、グラフィカルビュー（最大6個のカウンタ）または表形式のビュー（最大50個のカウンタ）でホームページ（[ネットワークの正常性の概要（Network Health Overview）] > [パフォーマンス（Performance）]）に追加することができます。デフォルトでは、グラフィカルビューが有効になっています。カウンタの最小、最大、および平均の値も表示されます。



- (注) カスタムダッシュボードのすべてのメタデータはデータベースに格納されます。ただし、カウンタの値はデバイスからライブで取得され、キャッシュメモリに保存されます。パフォーマンスダッシュボードが30分以上開いていない場合は、ポーリングが停止し、次にカスタムダッシュボードが起動されるときにキャッシュメモリがクリアされます。カスタムダッシュボードカウンタの履歴傾向が有効になっている場合、ポーリングされたデータは、データベースに7日間保存されます。消去ポリシーの詳細については、『Cisco Prime Collaboration Assurance ガイド-Advanced』の「」の章を参照してください。

グラフィカルビューでは、ポーリング間隔で指定されたとおりに、数秒または数分おきにカウンタの現在の値がグラフに示されます。線上の赤い点にマウスを合わせて、カウンタの値をツールチップとして表示することもできます。



- (注) カウンタの最小、最大、および平均の値をグラフィカルビューで表示するには、[See Average] をクリックします。

次のことも実行できます。

- カスタムダッシュボードへイベントを追加する。
- グラフィカルビューと表形式のビューを切り替える。



- (注) カスタマイズされたダッシュボードをグラフィカルビューで作成する場合、または編集オプションを使用して表形式のビューからグラフィカルビューに切り替える場合は、選択するカウンタの数が6以下であることを確認してください。カウンタの数が6を超える場合は、ダッシュボードをグラフィカルビューで表示するために過剰なカウンタを削除する必要があります。

カスタムダッシュボードを作成するには:

ステップ1 [Cluster] または [Device] ドロップダウンリストから製品とクラスタを選択します。

ステップ 2 [Dashboard] ドロップダウン リストの横にある **[+]** ボタンをクリックします。

ステップ 3 [カスタムダッシュボード (Custom Dashboard)] ページで、`dashboardname (//dashboardname//)` を入力し、ポーリング間隔、ビュー、およびサーバを選択します。

カスタムパフォーマンスダッシュボードからカスタムグラフの履歴データを収集できます。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以前の場合

(注) 異なるログインを持つ 2 人のユーザが同じダッシュボード名、クラスタ、カウンタの詳細を使用してカスタムダッシュボードを作成した場合、または異なるダッシュボード名でクラスタとカウンタグループの詳細が同じカスタムダッシュボードを作成した場合、それぞれのユーザに対して、誤りのあるダッシュボード詳細が表示されます。

Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 以降の場合

(注) カスタムダッシュボード名が `Custom-//dashboardname//` から `Custom-//dashboardname_loggedInUser//` に変更され、異なるユーザがそれぞれのダッシュボードの詳細を正しいデータで表示できるようになりましたが、ダッシュボード名、クラスタ名、およびカウンタグループの詳細は同じままです。

グラフィカルビューでカスタムダッシュボードの作成時に、選択したパフォーマンスカウンタの履歴傾向を有効にすることができます。カスタムダッシュボードを表形式のビューで作成する場合、またはグラフィカルビューから表形式のビューへ切り替える場合は、このオプションは無効です。グラフィカルビューから表形式のビューに切り替えたときに、履歴傾向データが失われたことを示す警告メッセージが表示されます。

(注)

- [履歴傾向 (Historical Trend)] オプションを有効にするには、ポーリング間隔を 60 秒以上にする必要があります。
- 10 個以上のコミュニケーションマネージャノードを含むメガクラスタがある場合、ポーリング間隔は 30 秒以上に設定する必要があります。

ステップ 4 [Select Performance Counters] ペインから適切なパフォーマンスカウンタを選択します。カウンタグループを展開してカウンタを選択します。カウンタに対応するインスタンスが、[Select Instances] ペインに表示されます。

ステップ 5 インスタンスを選択して **[Add]** をクリックします。

(注) [Select Performance Counters] または [Select Instances] ペインで有効な検索オプションを使用して、カウンタグループ、カウンタ、またはインスタンスに対して大文字/小文字を区別する検索を実行することもできます。

ステップ 6 **[Create]** をクリックします。

[Edit] および **[Delete]** ボタンを使用して、作成したカスタムダッシュボードを編集または削除できます。新しいパフォーマンスカウンタイベントの作成については、を参照してください。カスタムダッシュボードからカスタムイベントを作成する場合は、クラスタの詳細を指定する必要はありません。

(注) [カスタムダッシュボードの編集 (Edit Custom Dashboard)] または [カスタムダッシュボードの削除 (Delete Custom Dashboard)] ダイアログボックスには、ダッシュボード名のみが表示されます。

ダッシュレットの右下にある [Zoom] リンクをクリックすると、パフォーマンス カウンタの [Trend View] グラフが表示されます。[Trend View] グラフで使用可能な [Export] オプションを使用して、CSV または PDF の形式で履歴傾向データをエクスポートすることができます。

[Merge] をクリックして、作成した 1 つ以上のダッシュレットに対して [Merge View] グラフを表示することもできます。収集した傾向データは 7 日間保管された後、消去されます。

(注) [Zoom] オプションと [Merge] オプションは、カスタム ダッシュボードで履歴傾向オプションが有効になっている場合のみ使用できます。

カスタマイズされたダッシュボードの追加

ホームページに、カスタマイズされたダッシュボードを追加できます。

また、次の操作を実行できます。

- 既存のダッシュレットを別のダッシュボードに追加します。
- ダッシュレットをドラッグアンドドロップして、ダッシュボードの下に移動します。

新規ダッシュボードを追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 ホーム ページの右上隅にある [設定 (Settings)] 「」 アイコンをクリックし、[新規ダッシュボードの追加 (Add New Dashboard)] をクリックします。

ステップ 2 表示されたボックスに任意の名前を入力し、[適用 (Apply)] をクリックします。

ステップ 3 [Add Dashlet(s)] をクリックします。

ステップ 4 追加するダッシュレットの横にある [追加 (Add)] をクリックします。
